# 

第37号



季 光 中 学 校 仙台育英学園高等学校

# 巻 頭 言

秀光中学校 仙台育英学園高等学校 校長加藤雄彦

新型コロナウィルスの感染拡大から早いもので3年目をむかえました。ワクチンの広まりとともに 重症化のリスクは減り、高齢者の感染も減少してきました。しかし、デルタ株の流行とともに、感染 は若年層への広まりへと形を変え、未だに終息の見通しは見えていません。

本校においても、こうした状況に対応すべく2年間で得た知見を学校経営に生かす取り組みを実践して参りました。当初より取り組んできたICTを活用したリモート方式のオンラインの授業に、今年度は対面方式を徐々に増やしリモート授業と組み合わせながら感染の状況に応じて両者を使い分けていく、ハイブリット方式の実践など、授業形態に創意工夫を加えながら、生徒の学力伸張をはかるべく新しい教育活動を教育界に発信してまいりました。

一方、部活動や学校行事も少しずつ再開してきました。特に部活動においては、練習時間が十分に確保されない中においても生徒達が前向きな活動を続け、女子駅伝部や書道パフォーマンスの全国優勝をはじめ、多くの部活動が素晴らしい活躍を見せてくれたことは賞賛に値します。

まだまだ、マスクをはずすことができませんが、大きなクラスターを出さずに今年度を終えたことは、保護者の皆様をはじめ関係諸機関の皆様方から、暖かい励ましと御協力と御支援をいただいたきながら教育活動ができたことに尽きます。この場をお借りして感謝申しあげます。また、困難な状況の中、絶えずさまざまな研究に取り組み、生徒に還元していただいた本校の教職員の皆様に敬意の気持ちを表したいと思います。

さて、本校職員による研究・研修内容をまとめた研究紀要は、今回で37号を数えます。その概要は、これまで研究紀要に掲載した研究・研修の巻末の総目録によって紹介しております。内容は分野ごとの授業研究に始まり、国際化教育への提案、海外研修や語学研修など多岐にわたっており、仙台育英学園の教育を真摯に支えてきた先人の先生方の、教育に対する熱意が十分に伝わる研究・研修が行われてきたことがわかります。

今年度の研究集録第37号に寄稿された先生方の報告内容は、トピックとして今年度から導入された国内初のBTECプログラムについて今年度の新1年生から始まった新学習指導に向けての評価規定についての取組。ICTを活用した情報科学コースにおけるアクティブラーニングを取り入れた能動的学修。総合的探究の時間においてデジタル教材であるエナジードを活用した「生きる力」を育てる学習訓練など、新学習指導要領を意識した報告が多く「学びに向かう力を育み社会に開かれた教育課程の実現」に向かって、社会や世界と向き合い自分の力で一歩を踏み出す力を身に付けさせたいと考えた研究報告となっています。また、各コースにおける研修旅行が中止となる中、外国語コースが日本を代表する観光地である身近な松島を題材に、SDGsに関する問題を自分たちで提起し現地で実際調査することで解決策を考えるという新しい探究研修を行いその成果を報告してくれました。

今後も本学園の教育活動が、新しい時代の教育に一石を投じ得る存在となるよう一層研究・研修を 重ね、仙台育英学園の信頼をさらに高めるべく発信していきたいと思います。

# 研究紀要37号

巻	頭	言								加藤	雄彦	
۱Ł	<u>こ</u> ック 国内		TECセン	/ター開設	プログラ	ムを英	進コースん		センター長	千葉	慎	1
I (1)	令和		三度3・4	学期 秀時間実践幸	_		美里町の総	合的研究	뛴—			
(2)				の「新学習	習指導要領	〕に向	けての取	り組み	がパコース	<i>7</i> — •	, , ,	4
(3)					• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	力	リキュラ		テム」作りに ページャー			19
(0)				になりる。  ける ICT活					料学コース 科学コース			
				おける韓国 ICT推進				… 外国	国語コース	尹	惠靖	33
(6)	「総	合的	な探究の	 )時間」に			教材の活月		生学コース て	五十届	嵐春祐	40
(7)	保儉	建体育	育科の観.	 点別評価に	こついての	)研究韓		,,_,	開発コース	佐藤		42
(8)	数	学の接	髪にお	 ける教材 <b>⁄</b>	への取り組	]み・・		定講座は		地﨑	, ,,,,	46
				••••	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •			フレック	フスコース	雫石	利光	48
Ⅱ 外国		<b>13年</b> 1ース	度研修	多報告								
	第2	年次	松島?	SDGs探究	开修報告	•••	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	•••••		岩渕	奈央	54
Ⅲ 英進	その 進進学	<b>)他</b> ゼコー	-ス									
				ターのブラ 	ッシュア	'ップに	ついて	英進進	生学コース	金澤	瞭	66

総目録(第1~36号)

## 編集後記

# トピック

# 国内初BTECセンター開設プログラムを英進コースに導入

BTECセンター長 千葉 慎

#### 1. プログラムのねらい

新学習指導要領完全実施に伴い、総合的な探求の時間、評価の観点における「学びに向かう力、人間性」、批判的思考などが重視された。これは変化の激しい予測不可能な時代(VUCA)を生き抜くための力を育成することを目指している。本学園では国際バカロレア認定をはじめその力の育成を先取りして実践してきた。今後、アカデミックなIBDPとは別に、キャリア重視の国際資格であるBTECプログラムを導入し、グローバル社会で実践的に活躍できる生徒の育成を目指す。

#### 2. 導入の背景

イギリスの教材会社であるピアソン社(\*注1)がfootball samurai Academy社を通じ、2022年4月に日本に進出し、日本語版BTECプログラム(\*注2)を普及させようと計画している。

本学園は建学精神の理念のもとに一条校としてのIBの実績がある。「規矩作法守り尽くして破るとも離るるとても本を忘るな」という日本古来の茶道の教えの通り、建学の精神である不易を大切にしながら、BTEC資格の取得を通して、社会で実践的に活躍できる生徒の育成につなげていく。

下図の目標対応表は、本学園が培ってきた実績のもとにBTECプログラムが新学習指導要領やIBDP、さらには現在注目されているデザイン思考とどう関連しているのかを表したものである。この目標の関連性を意識しながらカリキュラムマネジメントを行い、合理的で効率的な教育課程を編成していく。また、様々な教育機関や社会人外部講師と連携を図り、デザイン思考やアントレプレナーシップを取り入れた起業体験などを組み込み、変化の激しい予測不可能な時代(VUCAの時代)を生き抜くための力を育成していく。特に部活に熱心に取り組んでいる生徒にキャリア重視の経験を積ませることで、将来への希望を持たせ、グローバルな社会で活躍できる力を育成し「逆転の仙台育英」のもう一つの形を実現する。

#### 目標対応表

	~建学の精神を尊重	重した守破離に基づ	づくVUCAの時代を生き	抜く力の育成~
	学習指導要領	IBDP	BTEC	デザイン思考
न	知識技能	6科目	学習目標A 組織や構造の理解	観察
思考破り判断		TOK · EE	学習目標B キャリア調査	問題定義
WX.	表現	TOR - EE	学習目標C 採用課程の調査	アイデア創出
離	学びに向かう力	CAS	学習目標D 自身への振り返り	プロトタイピング 検証

#### 3. 導入の方法

(1) 英進進学コースにおける文武両道策の一つとしてBTECプログラムによるスポーツのキャリア形成の講座 ならびに資格取得のための教育課程を編成する。特に新学習指導要領特別活動の目標(3)「自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、主体的に集団や社会に参画し、生活及び人間関係 をよりよく形成するとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己実現を図ろうと

する態度を養う。」を意識し、各教科との関連を図るカリキュラムマネジメントを目指す。

- (2) BTECプログラムの内容を研究し、さらに様々な教育機関や社会人外部講師と連携を図り、デザイン思考やアントレプレナーシップを取り入れた起業体験を導入するなどの実践を重ね、日本版BTECプログラムの開発に取り組む。
- (3) ピアソン社との連携を図り、大学や専門学校、各種企業など広く周りを巻き込みながら BTEC の認知度を 高め大学入試や就職採用試験における認定資格を目指す。

#### 4. プログラムの導入コース

ピアソンBTEC	720学習指導時間	この資格は、2年間のフルタイム学習プログラムと
インターナショ	サイズは2つの国際Aレベルに該	して、スポーツを主な要素として、補完的または
ナル レベル3	当。	対照的な他の分野の学習と並行して学びたい学習
	少なくとも11のユニットを履修	者を支援するために設計されている。
ディプロマ	し、そのうち5つは必須ユニット	また、本資格は他のBTECインターナショナル レ
「スポーツ」	で、PearsonSetAssignment (PSA)	ベル3資格や国際Aレベルを含む学習プログラムの
	は2ユニットで評価される。必須	一部として取得された場合、大学等高等教育への
	のコンテンツは25%以上必要。	進学をサポートする。(BTEC仕様より抜粋)

#### 5. 予定履修ユニット

ピアソンが定める課題\* 必修ユニットM 選択ユニット〇

ユニ	シット (番号とタイトル)	ユニットサイズ	総時間720時間
1	健康とウェルビーイング、スポーツ*	<mark>90</mark>	M
2	スポーツとアクティブレジャー業界のキャリア*	90	M
3	スポーツ研究プロジェクト	120	
4	倫理と行動、価値観	60	M
5	スポーツと身体活動における自営業	60	0
11	スポーツビジネス	60	M
12	スポーツ観光事業	60	0
13	スポーツジャーナリズム	60	0
14	マーケティングコミュニケーション	60	M
21	リバプールフットボールクラブの歴史*	30	0
22	ビジネスとしてのリバプールフットボールクラブ*	60	
23	スポーツにおける才能の特定と開発	30	0
24	応用スポーツ解剖学・生理学	90	M
26	身体能力のための栄養学	<mark>60</mark>	O
27	スポーツ心理学	<mark>60</mark>	O
28	フィットネステスト	60	0
29	スポーツにおける技術的・戦術的スキル	<mark>60</mark>	O
30	スポーツと身体活動におけるイベント開催	60	0
31	スポーツと身体活動におけるテクノロジーの影響	60	0
32	スポーツパフォーマンス分析	<mark>60</mark>	O
33	スポーツにおける規則と規制、審判	30	0
34	スポーツ開発	60	M
35 <mark>-</mark>	実践的なスポーツパフォーマンス	<mark>30</mark>	M
36	機能的なスポーツマッサージ	60	0
39	企業と企業家精神	90	0

は2年時、 は3年時

2022年度は試行期間として、20名程度の生徒が、 に取り組みます。

#### 6. BTECとUCAS、GCEの換算表

UCAS Point	GCE Level	ディプロマ (720学習指導時間)	サーティフィケート (180学習指導時間)
112	A*A*	優+優+	
104	A*A	優+優	
96	AA	優優	
80	ВВ	優良	
64	CC	良良	
48	A	良可	
32	С	可可	
28			優+
24			優

#### 7. BTECプログラム履修により期待される成果について

BTECプログラムの履修を通してグローバルな就労意識が醸成されると期待される。本学園が日本での最初の導入校になることから、ピアソン社との連携を図り、大学や専門学校、各種企業など広く周りを巻き込み、BTECの認知度を高め、総合型選抜入試や就職採用試験における認定資格の取得を目指す。具体的には2022年度履修生徒がBTECプログラム180時間ユニットを履修することでBTECサーティフィケートを優で取得した場合、大学進学ではBTEC推薦枠を優先的に獲得できるよう目指す。また、就職では、地元有力企業に対して優先枠を獲得できるよう目指す。

- \*注1 ピアソン社とは…世界70カ国に2万4000人の従業員を有する世界有数の教育会社で、本社は英国ロンドンにある。年間500万人以上の学習者がBTECなどのピアソン社の資格を、世界中の6000以上の学校、専門学校、職場で学んでいる。
- \*注2 BTECとは…Business and Technology Education Council (商業技術教育委員会) BTECは、イギリスにおいて中等教育課程や高等課程で専門科目の資格を取得できる学習プログラムである。

### I 研究報告

# (1) 令和3年度3・4学期 秀光コース1学年 総合的な探究の時間実践報告 -遠田郡美里町の総合的研究-

秀光コース1学年主任 倉橋 真司

#### はじめに

仙台育英学園高等学校秀光コース1学年では、総合的な探究の時間において、 $1\cdot2$ 学期(4月~9月)は IBMYP(国際バカロレア Middle Years Programme)カリキュラムの一環として、個人的な興味関心にもとづいてテーマを設定して探究活動を行い、成果物を制作する Personal Project(以下PPと略す)に取り組んでいる。調査、計画、行動、振り返りという4つの取り組みにおいて、ATLスキルの向上を目指すことを目的としており、IBDP(国際バカロレア Diploma Programme)での学びの基礎となる活動として位置付けられている。12月より DPトライアルが開始されると、総合的な探究の時間は TOKの授業に代わるため、 $3\cdot4$ 学期(10月~3月)は実質的には 10月と 11月の数時間のみとなるが、例年はこの時間は DPの準備や進路研究に費やされてきた。PPは ATL スキルの観点からまとめた最終報告書のみが、IBの外部評価および自校教員による内部評価を受けるが、成果物は第三者の評価を受けることはなく、9月に最終報告書を提出した後、IBの外部評価の結果が出る 2月中旬以降まで、生徒に対して何らの還元もなされることはない。 $1\cdot2$ 学期のPPの取り組みは、 $3\cdot4$ 学期には有効に継承されていないのが実情である。

令和3(2021)年度、1学年では、このような現状を踏まえて、PPをより有効に活用した総合的な探究の時間を、年間を通じて運営する計画を立てた。特に留意した点は、1・2学期の半年間を費やすPPは、将来の進路に結び付く専門分野に触れる貴重な機会でもあるため、テーマ設定時にそのことを生徒たちに意識させて成果物の完成を目指すこと、3・4学期は、PPでのそれぞれの学びを社会に活かす探究活動を別途に企画して、協働的な調査や現地調査(フィールドワーク)を通じてより深めさせることである。本稿は、このうちの3・4学期の学年での活動についてまとめたものである。

#### 1. 探究活動の目的とフィールドの設定

#### (1) 活動の目的

令和3(2021)年度秀光コース1学年の生徒数は8名であるが、1・2学期に取り組んだPPでは、完成度の違いはあったものの、福祉・観光・物流・歴史・自然・教育・料理などの分野から、それぞれが選んだテーマを意欲的に探究して、一定の成果をあげて3・4学期を迎えることができた。

そこで、8名という少人数の特性を活かし、かつPPの分野などを相互に関連させることができる新たな探究活動として、地域探究活動を企画することにした。この学年は昨年度より、新型コロナウイルス流行の影響により当初計画されていた海外研修が延期されていたこともあり、日帰りで実施可能な地域研修を盛り込むかたちにしたいと考えた。探究活動のためのフィールドを仙台市近郊に設定し、協働的な調査や現地調査(フィールドワーク)を通じて一人ひとりが地域の課題とその対策について学び、自分自身のPPでの選択分野においてどのような貢献ができるのかを考えさせることに活動の目的を置くことにした。

#### (2) フィールドの設定

宮城県は仙台市を中心として、中小の自治体が取り巻くように分布しており、各自治体が人口減という共通の課題の中で、多方面から地域振興策を模索している。今回の活動のフィールドは、遠田郡美里町に設定することにした。その理由は、仙台市の近郊にあって、町が主体となって、町の強みを活かした独自の振興策を打ち出して多くの成果を上げていることに、筆者自身が大きな魅力を感じていたことが理由である。

平成22 (2010) 年11月19日に、宮城県高等学校社会科(地理歴史科・公民科)教育研究会公民部会例会が、南郷高等学校を事務局として美里町の駅東地域交流センターで開催され、秀光中等教育学校に勤務していた筆者は、翌年度の例会担当校の教員として参加させていただいた。当時は小牛田町と南郷町が合併して4年目であったが、その時に拝聴した、美里町産業振興課長兼農業委員会事務局長の佐々木榮一氏による「美里町における地域活性化事業への取り組み」という講演はとても印象的であった。参加記を同研究会の『研究紀要』NO.51 (2011年3月 p.27~28) に書かせていただいたので、観光・物産事業の取り組み、農業の取り組みについて、やや

#### 1. 美里町について

美里町は平成18年1月1日に小牛田町と南郷町とが合併して誕生した町で、町名は町民の公募によって決定された。人口は25,871人、世帯数は8,431世帯であり、仙台市、石巻市、大崎市へ通勤する人々も多い。(中略)現在、小牛田駅の東に宅地造成が進められており、今後の人口増加を目指して、産業の振興が様々なかたちで模索されている。

#### 2. 観光・物産事業の取り組み

美里町の地域振興において最も力を入れているのが、観光と物産に関する事業である。

宮城県デスティネーションキャンペーンの開催に合わせて、平成19年度に美里町においても実行委員会を立ち上げ、おもてなし部会、物産部会など4部門で様々な企画を運営した。陸羽東線のSL運行(車輌祭り)、農産品直売、町内名所の観光ツアー、郷土料理のすっぽこ汁の食べ歩き、東京のアンテナショップでの物産販売などが主なもので、なかでもJRと共催した車輌祭りには鉄道ファンを中心として5,000人以上の来客があった。すっぽこ汁を提供する店舗も町内10ヶ所にまで増加し、美里の名物として定着し始めている。農産物直売所である花野果(はなやか)市場の年間利用者数も30万人を数え、今後も増加していくことが期待されている。

しかし課題も多く、車輌祭りの来客は町への関心よりも、SLそのものへの関心が強く、単発的なイベントとなってしまいがちであること、物産販売も利益が上がりにくく、東京出張の人件費や物産の無償配布、チラシ作成などの予算配分が厳しい状況にあることなど、今後いかにこれらの観光・物産事業を継続、発展させていくのかが大きな課題である。

#### 3. 農業の取り組み

美里町は町域の70%が農地によって占められており、基幹産業である農業の振興も地域活性化の大きな柱として位置付けられている。合併前より圃場整備事業が進められ、旧南郷町は昭和57年、旧小牛田町は平成7年に終了し、現在町域の農地の98%は圃場整備が完了している。今後は国や町の支援のもとに、認定農業者を増加させるとともに、後継者を育成していくことが課題である。

現在、認定農業者は288名であり、平均2.4へクタールの農地を所有しているが、町では育成事業として、新規就農者育成資金を出すことを条例で決定し、3年間、新規に就農することを条件に町から100万円を支給する制度を開始した。ただし申請者はなかなか出ない状態にあり、平成22年は1人だけであったという。

企業との契約栽培も推進されており、イオンやカルビーなどの商品を美里町産の農作物で生産する試みも行われた(当日講演会場では美里町産のじゃがいもを原材料とした、カルビーのポテトチップスが配布された)。町では将来的には工場の誘致も視野に入れるが、実現には至ってはいない。このほか畜産業の振興も進められており、和牛の育成が模索されている。

#### 【質疑】

講演の後、参加者より次の2点の質問があった。

- ・地域振興は定住振興でもあると思われるが、これまでの取り組みの費用対効果はあるのか。
- ・デスティネーションキャンペーンにおけるJRとのタイアップは実質的には町の収益というよりもJRの収益となっているのではないか。
- ⇒費用面の成果はまだ思うようにはあがってはいないと言わざるをえない。イベント時のみではなく、その後も町を訪れた方々に立ち寄ってもらう企画や環境整備(レンタルサイクルや巡回バスなど)を検討中である。また大崎市や涌谷町などの近隣町村と連携した事業も企画している。

例会では講演会の後、山神社、神寺不動尊松景院、カントリーエレベーター、花野果市場の巡検が行われた。 美里町が地域活性化を目指して試行錯誤する姿を詳しく知ることができた。この時、筆者が最も感銘を受けたの は、町の魅力を最大限に活かそうとする姿勢であった。美里町は、地理的に見ると海もなく、山もなく、歴史的 な観光名所も少なく、特産品も全国的には知られていない。基幹産業は農業であり、宮城県内の他の市町村と比 べても、地域資源という点においては決して恵まれているとは言えない。しかし、町の基幹産業である農業を活 かした産業振興と、交通の利点を活かした駅前の宅地造成による人口増加を独力で推進していることは大いに学 ぶべきことがあると感じた。

当時はまだ地域活性化の端緒の時期であり、小牛田駅前の住宅もまばらで移住者も少なく、他の取り組みもまだ試行錯誤中で成果が上がっていない状況で、今後どうなるのか悩みが多いと講演者の佐々木氏も語られていたが、あの例会より11年が過ぎ、美里町は大きく変貌を遂げた。令和3(2021)年現在、人口は24,018人、世帯数は9,220世帯であり、世帯数は789世帯の増加である。小牛田駅の東には新たな住宅地が完成して若い世代の移住者増加を実現した。産業振興においても農業を中心とした工場の誘致を実現し、テレビ番組でも紹介されるなど、全国的にも注目を集めている。美里町の歩みは地域振興を学ぶうえで、魅力的な要素がたくさんあり、

ぜひPPを終えたばかりの生徒8名とともに、実地に学んでみたいと考えた。筆者にとっては美里町をフィールドとした地域探究活動は長年にわたり温めてきた企画であったともいえる。現地調査 (フィールドワーク) では、11年前の巡検先を生徒たちと再度訪れることにした。

#### 2. 探究活動のプロセス

#### (1) 総合的な探究の時間による事前調査

令和3(2021)年10月~11月の2カ月の総合的な探究の時間(45分×6コマ)において、生徒8名を3班(工業振興班3名、観光振興班3名、農業振興班2名)に分けて、共同探究テーマ「美里町の産業振興について」に協議して取り組んだ。主な実施内容は表1の通りである。なお、1学年教員3名(倉橋真司・佐々木正人・加藤隆寛)が各班への助言を適宜行った。

実施日	活動内容					
10月15日(金)	美里町の地域探究活動についてのガイダンス (資料1を配付)、班分け					
10月22日(金)	共同探究テーマの班別事前調査① 資料収集、課題の抽出					
10月28日 (木)	共同探究テーマの班別事前調査② 資料収集、課題の抽出					
11月5日(金)	共同探究テーマの班別事前調査③ 発表準備 質問事項まとめ					
11月6日(土)	共同探究テーマ中間中間発表会(45分×2コマ)					

表1. 事前調査の内容

10月15日に資料1を配付して、地域探究活動の全体計画を生徒たちに提示するとともに、活動の目的と遠田郡美里町をフィールドに設定する理由について説明した。その際、この活動が各自のPPの成果を発展的に引き継ぐものであり、そこで学んだことをもとに「地域に貢献する」という目的のもとに実施するものであることを理解させるように努めた。また班別の共同探究テーマ「美里町の産業振興について」の他に、それぞれのPPのテーマに引き付けた個人探究テーマ「美里町の○○について」にも自主的に取り組むことを求めた。

#### 資料1. 10月15日配付の計画書

#### 1 M総合探究(10月~12月)

「宮城県の大都市周辺地域の振興について考えるフィールドワーク」(仮題)計画

#### I. 共同探究テーマ 「美里町の産業振興について」

学年全員の共通テーマを「産業振興」とし、美里町における産業の現状と課題、改善と振興のための具体的対策について検討し、提言案を作成する。

⇒美里町産業振興課への訪問のための事前学習と、意見交換のための準備。

#### 【10月】

- ・3グループを編成して検討する。⇒11月の美里町訪問までに提言をまとめる。
  - ①工業振興班(企業誘致、他自治体との連携、交通路の活用など)
  - ②農業振興班(農業と工業との連携、特産品開発、畜産、牧場など)
  - ③観光振興班(観光資源の開発、外国人や観光客の呼び込み、土産物の開発など)

#### 【11月】⇒11月初旬に準備発表

・美里町産業振興課への訪問とフィールドワークで学んだことをもとに、各グループの検討内容をさら に深める。

#### 【12月】

・宮城大学教員による助言を受けて、報告書にまとめる。出前講義時の意見交換会では各グループから概要を2分程度で口頭報告する。

#### Ⅱ. 個人探究テーマ 「美里町の○○について」

PPで取り組んだ個人の興味関心に近いテーマを設定して、美里町をフィールドにした調査探究を行う。 テーマに基づく現状と課題をまとめ、改善や振興のための具体的対策と提言案をまとめる。

#### 【10月】

・各自の担当分野よりテーマ設定をし、事前調査を進める。⇒10月末に中間発表する。

#### 【11月】

・フィールドワークで学んだことをもとに、検討内容を深める。

#### 【12月】

- ・宮城大学教員による助言を受けて、報告書にまとめる。出前講義時の意見交換会では各自の探究内容についての概要を2分程度で口頭報告する。
- ※研修の成果物として、研修報告書(共同探究テーマ5,000字程度、個人探究テーマ3,000字程度)を作成する。この報告書は美里町産業振興課、宮城大学に送付する予定。

校内で取り組む時間は限られていたが、美里町のホームページに公開されている諸資料などを参照しながら、班ごとに協議して課題を抽出する取り組みを行った(協議にはオンラインホワイトボード Miro を活用した)。11月12日(金)に予定されている現地調査(フィールドワーク)の前に、各班の調査結果の発表会を実施した。共同探究テーマについては、計画通りに進めることができ、1月初旬に各班より報告書原稿(5,000字程度)が提出されたが、個人探究テーマまで進める時間的な余裕はなく、10月末の中間発表と12月の口頭報告は実施することができなかった。そのため計画を修正して、個人探究テーマの報告書原稿(3,000字程度)の提出は2月末日に繰り下げ、すべて自主的な活動とした。

#### (2) 現地調査 (フィールドワーク)

11月12日(金)に生徒8名、1学年教員3名の合計11名で美里町を訪問した。訪問先は、美里町役場南郷庁舎(産業振興課)、花野果市場、JA新みやぎ南郷カントリーエレベーター、山神社、美里町郷土資料館、起業サポートセンター Kiribi、美里町社会福祉協議会(駅東地域交流センター内)である。町内の移動は美里町住民バスとタクシーを利用した(行程表は資料2を参照)。

#### 資料2 現地調査(11月12日)行程表

- 8:40 仙台駅2番線(東北本線)ホーム集合
- 9:02 仙台駅乗車(JR東北本線小牛田行普通)

↓電車

9:37 鹿島台駅下車、東口からタクシーに分乗

↓タクシー

- 9:50 美里町南郷庁舎(産業振興課講話・意見交換)~11:00
- 11:00 南郷庁舎よりタクシーに分乗

↓タクシー

- 11:20 花野果市場・JA新みやぎ南郷カントリーエレベーター見学(施設案内、出荷体験)
- 11:59 美里町住民バス乗車(大崎市民病院行き)

↓バス(南郷地区から小牛田地区へ移動)

- 12:31 山神社前下車
- 12:35 昼食・休憩・山神社境内散策 ~13:10

↓徒歩

13:15 美里町郷土資料館・起業サポートセンター Kiribi 見学(施設案内) ~13:45

↓徒歩

14:30 駅東地域交流センター(美里町社会福祉協議会講話)~15:00

↓徒歩 ※美里町総合案内所(小牛田駅1階)

15:33 小牛田駅乗車(JR東北本線仙台行普通)

↓電車

16:19 仙台駅下車 ホームにて解散



図版 1. 美里町産業振興課での講話



図版 2. 南郷カントリーエレベーター見学



図版 3. 山神社散策



図版 4. 美里町社会福祉協議会での講話

11月中旬は、幸運にも新型コロナウイルスの流行が小康状態にあり、感染対策に留意しながら全行程を計画通りに実施することができた。晴天にも恵まれ、事前調整が短期間であったにもかかわらず、どの訪問先においてもとても暖かく迎えていただき、充実した時間となった。特に美里町産業振興課においては町営バスの運行時間の関係で、短い滞在時間ではあったものの、たくさんの資料とともに、とても丁寧な御講話をいただくことができた。事前打ち合わせから当日の講話まで御担当いただいた、産業振興課の川名秀明氏をはじめ、訪問先でお世話になったすべての方々にこの場をお借りして深く感謝申し上げたい。

#### (3) 宮城大学出前講義と振り返り

現地調査終了後は、総合的な探究の時間は充分に確保できなかったが、1コマ分は振り返りの時間を取ることができた。また、12月8日(水)の $10:00\sim11:30$ に宮城大学事業構想学群の佐々木秀之准教授の出前講義をオンラインで実施した。これまで取り組んできた事前調査や現地調査は、限られた時間の中で行ってきた、いわば手さぐりのもので、筆者自身を含めた教員も地域探究活動やフィールドワークの知識や経験が豊富にある訳でもない。専門家のアドバイスを受けて、より意義のある取り組みにしたいと考えて企画した。宮城大学高大連

携推進室が実施している、「大学見学・出前講義・探究型学習の指導支援」に応募するかたちで企画書を提出し、佐々木 准教授の講義を実現することができた。

佐々木准教授は事前に提出した企画書やメールでのやりとりを通じて、今回の地域探究活動に関心を持って下さり、90分の講義内容を準備してくださった。講義のテーマは「地域・経済の視点から考える探求学習の意義」、「地域とともに学ぶ」というもので、フィールドワークの方法や地域資源を活かしたまちづくりについての内容で、とても有益なものであった。講義の中で、生徒全員に対して現地調査をした感想や質問について丁寧に答えていただいたことも、教員・生徒ともに大きな感銘を受けた。佐々木准教授にも深く感謝申し上げたい。



図版 5. オンライン出前講義

#### 表2. 振り返りの内容

実施日	活動内容					
11月26日(金)	現地調査振り返り					
12月8日(水)	宮城大学(佐々木秀之准教授)出前講義 45分×3コマ					
12月10日(金)	報告書構想案検討					

出前講義終了後は、共同探究テーマに関する報告書の構想を各班で立てる時間とした(報告書原稿の提出締め切りは1月11日に設定)。教室において学年全体で取り組んだ時間は以上である。12月中旬よりIBDPトライアルが始まったこともあり、この後の報告書原稿の執筆や「みやぎ高校生フォーラム」の動画制作などはすべて生徒たちが自主的に行うかたちとなった。

#### (4)「みやぎ高校生フォーラム」への参加と活動報告書の完成

1月11日(火)に予定通り3班の報告書原稿が提出された後、その内容を各班で動画にまとめて宮城県教育委員会主催の「みやぎ高校生フォーラムー私たちの志と地域貢献ー」のポスター発表部門に応募し、1月31日~2月18日までweb上で公開した。動画の内容については、事前に美里町産業振興課と宮城大学の佐々木准教授に送付し、確認していただくことができた。

提出期限を延長していた、個人探究テーマの報告書原稿が2月末日に出揃ったため、共同探究テーマの報告書原稿と合わせて、『宮城県の大都市近郊地域の振興について−遠田郡美里町の総合的研究−』と題する1冊の活動報告書(全62頁)にまとめた。内容はⅠ. 探究活動の概要、Ⅱ. 共同探究報告、Ⅲ. 個人探究報告より成っている。このうち、共同探究報告は10月~12月にかけて各班で協議した内容をまとめたものであり、生徒たちの承諾を得て、次章に3編を掲載する。

#### 3. 探究活動の成果報告(報告書からの抜粋)

\_\_\_\_\_

#### 【報告1】 工業振興班の報告と提案

佐久間來穂 登り実美 松本色葉

#### はじめに

私たち仙台育英学園高等学校秀光コース1学年は今までの総合的な探究の時間の中でそれぞれの研究分野を持ち探究を続けてきた。特にIBMYPの集大成であるPersonal Projectでは「歴史」や「物流」など個人の興味をもとにした研究を行った。フィールドワークを含めた調査内容から美里町が持つ課題を理解し、今までの学習や自分たちの研究分野を組み合わせて、地域貢献として、さらなる町の活性化のための提案を行うことがこの提案書の目的である。

美里町をフィールドに設定した理由は、農業が盛んであり少子高齢化が進んでいるという日本国内の地方でよく見られる状況下にあって、小牛田駅周辺の住宅地開発等の活発化やレタス工場の建設等のユニークな施策が目立っており、他の都市にとっても良い例である可能性があったためである。

本提案書では、事前調査ならびに現地調査を行って得られた知見を述べ、それらを基に課題解決のための提案を行うという流れで述べていく。

#### 1. 事前調査

#### (1) 現状の把握

#### ○工業について

10月に国内最大級のレタス工場が完成し、東北地方の大手コンビニチェーンやスーパーへ出荷の予定を立てている。また、木の屋石巻水産の缶詰工場があり、仙台うみの杜水族館とコラボで「缶詰キャンペーン」を行うなどしているが、さんま漁の不振により、さんま缶の製造を一時停止している。

#### ○農産物直売所とその他関連施設について

農産物直売所は、南郷地域と小牛田地域それぞれに一つずつある。南郷地域には各種特産品や加工品などを扱う「花野果市場」があり、農家レストラン「はなやか亭」が併設されている。同施設は大崎圏域で第3位の入込数である。小牛田地域の「Aコープこごた店」では元気くん市場を運営している。その他、美里町には四ヶ所の

食品スーパーマーケットがあり、大崎市古川、涌谷町にイオン系の総合スーパーマーケットが立地している。 ○交通について

美里町は大崎市、東松島市、石巻市に近い。小牛田駅には東北本線、石巻線、気仙沼線、陸羽東線が通っている。鉄道以外の交通手段としてバスとタクシーがある。バスの経路は小牛田駅周辺が主である。その代わりに南郷地域には、デマンドタクシーが運行している。運賃は一回定額200円で、障がい者の方や小学生以下のお子さんは無料。「美里町住民バス・デマンドタクシー運行に関するアンケート調査の結果」という資料では、26人中25人が満足またはほぼ満足という結果が出ている。ただし、どちらも土・日・祝日は運休である。そのため、バスの運行に関するアンケートでは満足、ほぼ満足の回答が大部分を占める一方で「バス利用で不便に感じる点」という項目では「便数が少ない」「土・日・祝日の運行がない」の回答が多くある。

#### (2) 課題の抽出

①地産地消機会の不足(「美里町産業活性化拠点施設基本計画の概要」< p.7 > より)

小牛田地域には専用施設としての農産物直売所はなく、移住者は地元農産物を購入する機会が限定されている。

#### ②商業機能の不足

近隣の大崎市古川、涌谷町には総合スーパーマーケットが立地しているが、美里町には総合スーパーマーケットの立地がなく、小牛田地域では付加価値商品、南郷地域では最寄品、買回り品において町外の商業施設に依存している状況である。

#### 2. 現地調査

#### (1) 現地調査で得た情報、知識

実際にKiribiを訪れ、職員の方のお話を伺うことができた。Kiribiというのは時代劇などで人の背中に向かって石をならす「切り火」からきており、火打石を打って火花を起こすことにより無事を祈り、縁起が良いことが起こりますようにという意味が込められている。また、Kiribiでは利用料は光熱費のみでWi-Fiなどの設備を利用できるため、イラストレーターなどの多様な職種の人達が使用している。

#### (2) 現地調査の振り返り

バスや徒歩、デマンドタクシー、電車などの交通手段を利用して美里町を移動した。バスは、病院やスーパーなどの場所を周り、バスが走っていない場所ではデマンドタクシーが美里町民の生活に欠かせない足となっていることが分かった。事前調査の段階でも把握していたが、全体での年齢層が高いということを改めて実感した。駅の東側は小学校や中学校、社会福祉協議会があり、比較的年齢層が低く新しい住宅が多い印象だった。私たちは、事前調査でバスの本数やデマンドタクシーの台数が少ないと感じていたが、実際に使用してみるとそこまで不便と感じなかった。だが、事前に計画を立てない観光客などには不便と感じる可能性もある。

#### 3. 分析・考察・提案

#### (1) 分析と考察

事前調査と現地調査を基にSWOT分析を行った。この結果を以下の表に示す。

地域が持つ強み (Strength)	<ul><li>・日本有数のレタス工場や缶詰工場を所有する。</li><li>・大崎市を始めとした近隣地域まで公共交通機関を利用して移動できる。</li><li>・小牛田地域には市民バス、南郷地域にはデマンドタクシーがあり、市民が安価で利用できる移動手段が存在している。</li></ul>
地域が持つ弱み (Weakness)	<ul><li>・日用品や食料品を購入するための商業施設までの距離が遠い。</li><li>・休日に市民バスやデマンドタクシーの公共交通機関を利用することができない。</li><li>・学生の進学先や就職先が町外であることが多い。</li></ul>
外部からの機会 (Opportunity)	・他の市町村や施設との協力体制がある。 ・コロナウイルスの拡大によるマイクロツーリズムの流行により、地方都市観光の見 直しがされている。
外部からの脅威 (Threat)	<ul><li>・コロナウイルス感染防止のため、対面式行事の中止や規模を縮小せざるを得ない状況にある。</li><li>・サンマ漁の不振により缶詰製造が中止される。</li></ul>

これらの分析から、美里町は高齢者の人口は多いものの、地域コミュニティ間の連携や住民同士の相互の見守りも強いことから、安心して生活できる街づくりが進んでいる地域であることがわかる。しかしながら、国内の例に漏れず、若手人材の流出や減少の脅威に晒されており、労働人口の確保は依然として課題であることも把握できる。

また、「美里町産業活性化拠点施設基本計画の概要<p,12>」によれば、地元住民、周辺住民の消費者の二一ズとしては、「日常的な買い物(食料品や日用雑貨などの最寄品の購入)をする場としての機能」が必要という意見が強くみられており、商業施設までの距離が遠いことからも今後さらなる店舗数の確保やサービスの強化が必要とされている。また、意外だったことに、公共交通手段については休日運休でありながらも商業機能の二一ズに比べれば半分程度であることが読み取れる。現地調査でも巡回バスは公共施設や商業施設を回るように設定されており、住民の交通手段として重要かつ有効な役割を果たしている。これらから、交通手段に関してのサポートの改善は優先順位としては低いことが分かった。

#### (2) 提案

以上の分析から、①商業施設の不足改善や地産地消の機会の設定、②労働人口の増加の二点に関する提案を行う。

#### ①移動直売所・移動コンビニ

地元で生産された農作物の購入ならびに日用品の購入機会の増加のために、移動直売所や移動コンビニといった、訪問販売型の商業施設を提案する。先行事例として、2つ挙げることができる。

1つ目はJA八王子の移動直売車(旬菜号)である。農産物直売所「ふれあい市場」の出荷野菜や切り花、惣菜などを積み込み、週に4日巡回する仕組みである。美里町で類似する内容を実行に移す場合、花野果市場と連携を取ることで類似した事例を再現することが可能である。似たような状況として、Aコープ東北主催の移動スーパーとくし丸も挙げることができるが、こちらは現在の範囲は大崎市までである。スーパーとくし丸を美里町まで移動範囲を広げてもらうことでも同様の機能を果たすことができる。

2つ目はコンビニの移動販売である。移動販売車の中には、即食性のあるおにぎりやサンドイッチ、日常生活の中で必需品である使用頻度の高いアイテムを揃えている。現在東北では3車輌稼働している状態であるが、これを美里町に招致することによって、住民の声にある「日常的な買い物(食料品や日用雑貨などの最寄品の購入)をする場としての機能」の向上が見込まれる。

#### ②産婦人科の設置

周辺の大崎古川、石巻、富谷には産婦人科があるものの美里町にはない状況である。出産や子育てに関わる母の支援として、出産や産後の不安を相談できる、あるいはサポートしてもらえる産婦人科が周りにあることで、安心して出産準備に移ることができることが予想される。実際に、出産に際して、生まれてくる子供だけではなく、出産後6~8週の母親は妊娠前の身体に戻ろうと心身ともに不安定な状態となる。富谷町のアンケート「富谷町まちづくりアンケート【分析結果報告書】」によれば、子供の教育環境のよさ、子育てのしやすさが今後もそのまちで暮らしたいと思う理由に入っている。このことからもわかるように、産後うつを防ぐことや育児指導のサポートなど、安心できるサービスの有無は定住の決定に大きく影響することがわかる。これらの理由からも、近隣に安心して相談できるような産婦人科がある状況は若年層の人口増加に直結するものである。

#### 参考資料

- ・セブンイレブン・ジャパン(2012)[仮設店舗] [移動販売] 東北で、始めました。東北での取り組み https://www.sej.co.jp/sej\_case/area/tohoku(閲覧日:2022年1月11日)
- ・富谷町(2016)富谷町まちづくりアンケート https://www.tomiyacity.miyagi.jp/uploads/pdf/9622c45e6eaa1360081b56be3f4d28a2cc5eb560.pdf (閲覧日:2022年1月11日)
- ・美里町(2021)市民バスアンケート https://www.town.misato.miyagi.jp/16bus/pdf/zyuuminnbasu.pdf(閲覧日:2022年1月11日)
- ・美里町(2021)美里町産業活性化拠点施設基本計画の概要 https://www.town.misato.miyagi.jp/04sigoto/pdf/K\_keikakugaiyou.pdf (閲覧日:2022年1月11日)
- ・JA八王子(2022.1.11)移動直売車(旬菜号)のご案内 https://ja-hachioji.or.jp/info/340/(閲覧日:2022年1月11日)

.....

#### 【報告2】 観光振興班の報告と提案

青木美緒 加藤 光 小舘美冬

#### はじめに

美里町公式ホームページで公開されている、「美里町の現状把握及び課題整理」p.15によると、平成25 (2013) 年の宮城県内の市町村別観光入込客数において、美里町は35市町村のなかで26位となっている。1位の仙台市が18,671 (千人)、2位の大崎市が7,325 (千人)であるのに対して、美里町は386 (千人)である。また、p.17の平成25年の大崎圏域の市町別入込数で見ても、大崎市の730 (万人)、加美町130 (万人)に対して、美里町は40 (万人)であり、拠点的な観光地がないことが課題として指摘されている。

今後、観光入込客数を増やし、美里町の魅力と伝統を広く継承するためには、他地域や他国とより深い交流を行うことが必要である。新しい施設や観光地を増設するのではなく、現存する町の魅力をいかに伝えられるかが 美里町の振興に繋がると考え、外国人観光客の増加と他地域交流を目標に、その手法を発案することとした。

#### 1. 事前調査

#### (1) 現状の把握

①でんえん土田畑村

- ・概要:一戸2階建て貸切ログハウスや宿泊施設の提供を通年行なっている。カフェ「Misatoko」があり、バーベキュー施設や自炊施設も備わっているため、好みや状況に合わせて食事を楽しめる。施設内には檜風呂があり、情趣を味わいながらリラックスしつつ、非日常的な空間で疲れを癒すことができる。近隣には農場があり、ミニトマトや季節に合わせた野菜の収穫が体験できる。宿泊施設全体の収容可能人数は61名であり、大人数での宿泊も可能である。
- ・イベント: DoTaBaTaナイトマルシェ 田園風景に広がる夕暮れと満点の星空を眺めながら、美味しい食事やお酒が楽しめるナイトマルシェ。会場に は年齢問わず体験できるワークショップがあり、ステージでは音楽ライブやトークセッションが行われる。最 後には観客を含めた大合唱があり、真夏の夜に相応しいあついフィナーレを楽しむことができる。
- ・SNS:Instagramを通して、施設や食べ物の紹介、イベント風景の発信を行っている。
- ②美里町郷土資料館

インターネットやパンフレットに情報が掲載されていなかったため、事前調査をすることができなかった。 そのため、訪問にて現地調査を行うこととする。

#### (2) 課題の抽出

美里町の観光入込客数は他地域に比べて少なく、停滞状態にある。宮城県の観光入込客数は仙台市や大崎市などの主要都市が大多数を占めており、美里町の観光入込客数は大崎市の1/20となっている。他地域や他国と交流を深めるためにはこの停滞状態を抜け出す必要がある。

#### 2. 現地調查

#### (1) 現地調査で得た情報・知識

- ・でんえん土田畑村には現地調査で訪問することができなかったが、美里町南郷庁舎産業振興課の方々の講話より、特産品についての多くの情報を得た。
- ・美里町全体の土地の約70%は主に水田が占めており、穀倉地帯では米の生産を中心に大豆や麦の生産を行っている。観光客入込数の9割は、花野果市場と山神社が占めている。
- ・美里町の特産品として「夏黄金」という小麦を生産しており、町内の学校では給食でこれを使用した学校給食 用パンを提供している。
- ・美里町の土地利用5%を占める畑においては、地域振興作物として馬鈴薯、ねぎ、玉ねぎ、にんじん、キャベッの5品目の産地化を推進している。果樹においては、美里町の特産品「北浦梨」を主に生産している。
- ・郷土資料館では、古くから日本で使われていた農機具や蓄音機、伝統的な能面などの展示が行われていた。

#### (2) 現地調査の振り返り

事前調査では主に観光に着目して、施設に関する情報を調査していたため、米や野菜などの食料生産に関して はあまり調べることができていなかった。そのため、産業振興課での講話を通じて、調査できていなかった情報 や知識を得ることができ、観光と特産品の二つの視点から課題解決を考えることができるようになった。

#### 3. 分析・考察・提案

#### (1) 分析と考察

事前調査と現地調査の内容を踏まえ、美里町の観光入込客数が少ない理由は施設の有無ではなく、その認知度にあると考えた。SNSは運営されているが、あまり知られておらず、美里町の魅力が十分に伝えられていないのではないかと分析した。また、美里町の観光入込客数を増やすために、町の米や野菜などの特産品、美里町郷土資料館の展示物や訪問した際の美里町の風景から、観光客に対して伝統的で日本ならではのもてなしをすることができるのではないかと考えた。

近年では国内で古き良き伝統的な体験ができる場所が少なくなっているように見受けられるため、日本でしか味わえないサービスを提供することで、日本に興味のある外国人、海外で日本の伝統に関して調査・研究をしている外国人学生に訪問してもらう機会を増やすことができるのではないかと考えた。

#### (2) 町への提案

- ・国土交通省のホームページで公開されている『令和3年版観光白書』のうち、「第 I 部 令和2年 観光動向」p.4 によると、日本の外国人観光客数は世界で12位、アジアで3位というランキング上位に位置している。また、JNTO(日本政府観光局)のホームページで公開されている「日本の観光データ」のうち、2019年の都道府県別訪問率ランキングによると、宮城県が全国に占める割合は1.0%であり、47都道府県中32位である。来日する外国人観光客の目を宮城県、さらには美里町に向けるための方策を練る必要がある。美里町が持つ強みを活かした、日本ならではの伝統や施設、風景などを楽しめるツアーを企画する。
- ・Instagramなどの、日本語が分からなくても写真で情報が伝えられるようなツールを活用し、美里町にしかない魅力を発信することで、外国人の方の目にもとまるようなSNSを運営する。
- ・美里町の公式ホームページには「心豊かな人材を育む」というスローガンが掲げられている。これを実現する ために、外国人観光客と交流し、多様な人材の育成に貢献する。美里町の外国人観光客数を増やすことで、宮 城県の外国人観光客数の増加も図る。
- ・観光客数を増やす方法としては、周辺の小さな地域から魅力を伝えていき、その地域を広げていくことが一般 的であるが、逆に世界を視野に入れた大きな地域に魅力を発信するという方法をここでは提案したい。この方 法によって、外国人だけでなく、美里町に興味を持ってくれる日本人も増えるのではないかと考える。

(提案プラン)【宿泊施設として提供しているでんえん土田畑村で、古き良き伝統的な体験ができるプログラムを設定する】

#### プログラム内容

対象:主に、日本ならではの伝統的な体験をしたい外国人、海外で日本に関する研究などを行なっている外 国人向け。

- 美里町郷土資料館での日本伝統巡り
  - →日本の昔の生活や農業に触れてもらう。
- ・小牛田公園にてSL見学
  - →海外にもSLが使用されていた地域があるため、母国との比較も楽しめる。初めてSLを見る人には、その迫力や感動を味わってもらえる機会になる。
- ・地域の人との交流
  - →例:美里町産の特産品を使用した料理を地元の人たちと一緒に作る。
    - 日本の伝統料理(米、味噌汁、煮物、漬物)だけでなく、美里町の伝統料理すっぽこ汁も提供し、より 美里町の魅力を味わってもらう。参加した外国人観光客の郷土料理などを提供してもらい、食を通して 交流する。
- ・山神社に訪問
  - →日本の神社文化(神社という建造物や祀られている神様、おみくじや開運など)について知ってもらう。

#### 〈参考資料一覧〉

- ・美里町ホームページ「美里町の現状把握及び課題整理」(PDF) P.15、17 https://www.town.misato.miyagi.jp/04sigoto/pdf/K\_01kadai.pdf (2022.1.7 閲覧)
- ・国土交通省ホームページ『令和3年版観光白書』「第I部 令和2年 観光動向」〔PDF〕P.4 https://www.mlit.go.jp/statistics/content/001408959.pdf (2022.1.7 閲覧)
- ・JNTO(日本政府観光局)ホームページ 日本の観光統計データ「2019 都道府県別訪問率ランキング」 https://statistics.jnto.go.jp/graph/#graph--inbound--prefecture--ranking (2022.1.7 閲覧)

- ・公益社団法人 宮城県観光連盟 宮城まるごと探訪「でんえん土田畑村」 https://www.miyagi-kankou.or.jp/theme/detail.php?id=11569 (2022.1.7 閲覧)
- 美里町交流の森・交流館でんえん土田畑村ホームページ https://www.dotabata-mura.net (2022.1.7 閲覧)

#### 【報告3】 農業振興班の報告と提案

岸本明士 横山 遼

#### 1. 事前調査

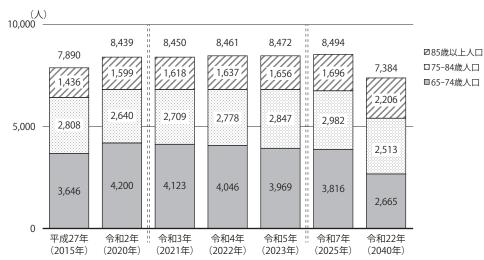
#### (1) 現状の把握

美里町が抱えている高齢化と農業従事者の減少について、美里町企画財政課より御教示いただいた資料 $1\sim3$ をもとに以下にまとめてみたい(資料 $1\sim3$ は許可を得て転載した)。

平成27 (2015) 年度の国勢調査をもとにした国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、美里町の人口は減少傾向であることが分かる。令和3 (2021) 年の美里町の高齢化率は35.2%であるが、令和22 (2040) 年度には43.7%になると見込まれている。さらに65歳以上の高齢者の中でも75歳以上の後期高齢者の割合が次第に増加している。

#### 資料1

#### ■高齢者人口



資料2

#### 農業の推移

各年2月1日現在

年次		総農家数	市業典宗	東業農家 東業農家			農業従事者数
+-次		心辰豕奴	<b>守未辰</b> 豕	計	第1種	第2種	辰未從爭有奴
昭和 60 年	小牛田町	1,498	116	1,382	437	945	4,103
四和 00 平	南郷町	1,254	84	1,170	461	709	3,481
平成2年	小牛田町	1,290	130	1,160	284	876	5,195
十八八二十	南郷町	1,157	116	1,041	306	735	2,913
平成7年	小牛田町	1,135	96	1,039	281	758	3,384
十八八十	南郷町	1,029	93	936	296	640	2,529
平成 12 年	小牛田町	1,032	90	869	194	675	3,153
十八八十	南郷町	953	109	763	196	567	2,479
平成 17 年	小牛田町	965	93	726	174	552	2,624
一	南郷町	798	85	632	204	428	2,160
平成 22 年	美 里 町	1,309	82	940	121	819	2,946
平成 27 年	美 里 町	819	118	376	146	230	1,447
令和 2 年	美 里 町	741	-	-	-	-	-

資料:世界農林業センサス、農林業センサス

資料2に示した農業の推移の表を見ると、年々総農家数が減っていき、農業従事者数も減少していることが分かる。小牛田町と南郷町が合併したが、総農家数、農業従事者数の減少傾向は変わっていない。こうした傾向から人手不足によって、野菜や果物、米類の収穫が減少し、そのうえ、若者の農業就業者は少ないため、高齢者による農業だけでは、できる範囲が決まってきてしまう。

#### 資料3

#### 経営耕地面積と農家数の推移

各年2月1日現在(単位:戸、a、%)

年次		総面積	E		灯		樹園		構成比		
年次		総則傾	農家数	面積	農家数	面積	農家数	面積	田	畑	樹園地
昭和 60 年	小牛田町	237,570	1,472	224,950	1,285	10,944	119	1,676	94.7	4.6	0.7
PD/10 00 4	南郷町	205,079	1,251	197,938	963	7071	1	70	96.5	3.4	0.1
平成2年	小牛田町	228,806	1,278	216,206	1,068	11,009	89	1,591	94.5	4.8	0.7
十八人 2 午	南郷町	200,704	1,152	193,377	863	7,224	7	103	96.3	3.5	0.2
平成7年	小牛田町	220,227	1,130	208,132	947	10,246	79	1,849	94.5	4.7	0.8
一一八八 十	南郷町	194,763	1,021	187,516	741	7,150	12	97	96.2	3.6	0.2
平成 12 年	小牛田町	209,217	1,014	198,715	766	8,889	72	1,613	95.0	4.2	0.8
十八八 12 午	南郷町	195,000	930	188,400	650	6,500	3	100	96.6	3.3	0.1
平成 17 年	小牛田町	187,981	813	176,331	636	10,126	59	1,524	93.8	5.4	0.8
一一儿八十	南郷町	186,596	710	180,989	499	5,546	4	61	97.0	3.0	0.0
平成 22 年	美里町	186,873	978	172,502	748	12,824	50	1,547	92.3	6.9	0.8
平成 27 年	美里町	125,130	306	114,750	345	8,379	47	2,001	91.7	6.7	1.6
令和2年	美里町		·								

資料:世界農林業センサス、農業センサス、農林業センサス

※販売農家における経営耕地面積

※資料:県統計課送付「2015 年農林業センサス経営体調査一覧表集計結果

資料3は田、畑、樹園地ごとの経営耕地面積と農家数の推移を示したものであるが、この表により、田と畑の 耕地面積は減少しているが、町を代表する特産品である梨を含む樹園地は増加していることが分かる。高齢化に より、仕事ができる範囲が減少すれば、収穫量も減少することになり、美里町への農業面での収益が減り、農業 に回す資金が減ってしまう可能性がある。

#### (2) 課題の抽出

町の現状の分析から、人口減少、総農家数の減少という課題があることが分かった。また、少子高齢化が進んでいる中で、農業人口の高齢化もまた取り組むべき課題である。私たちは次の4つの取り組みが必要であると考えた。

- ・町の人口を増やすための取り組み
- 若者を中心に農業に興味を持ってもらうための取り組み
- ・収穫できる野菜の確保
- ・美里の魅力をどう伝えていくのかについて

#### 2. 現地調査

美里町へ現地調査に訪れた時に、美里町と教育委員会、JA新みやぎが美里町産の小麦「夏黄金」を使った学校給食用パンの供給に関して協定を結んでいることを知り、大きな魅力を感じた。その具体的な内容を、現地調査において美里町産業振興課よりいただいた資料をもとに以下にまとめてみたい(資料4はその時の資料をもとに作成した)。

#### 【協定の目的】

- ・安全安心な学校給食の提供及び美里町産小麦の生産拡大を推進するため。
- ・美里町産小麦の加工流通体制の構築を図ることにより、学校給食用パンの安定供給を実現するとともに、美 里町産小麦の付加価値の向上及び地域内消費の促進に寄与すること。

#### 【JA新みやぎの役割】

・原材料の確保 ・小麦粉の製造 ・パンの製造

#### 【教育委員会の役割】

· 給食提供 · 情報提供

#### 【町に期待される効果】

・食育 ・地産地消 ・生産振興

美里町の農作物作付上位3品目は、水稲62%、大豆13%、小麦7%である。小麦の農業作付面積が7%でも、 美里町の小麦の作付面積及び収穫率は宮城県内で最大であり、資料4に示す通り、作付面積のうち「夏黄金」が 43%を占めている。

#### 資料4

#### 【令和元年産の小麦作付面積等】(出典:作物統計)

	宮城県	美里町
作付面積	1,130ha	329ha
収穫量	4,320t	1,420t
10a当たりの収量	382kg	432kg
作付品種	シラネコムギ 夏黄金 あおばの恋	シラネコムギ(57%) 夏黄金(43%)

#### 【夏黄金生産量】(全農みやぎ確認)

	宮城県全体	みどりの地区	登米・石巻
生産者	970t	915t	55t

小麦は、パン、麺、菓子、みそ、しょうゆなど多様な用途に利用することができる。宮城県の学級給食用小麦粉は、令和2(2020)年度から「夏黄金」に変更されていて、「夏黄金」の生産量は、美里町みどりの地区が県生産量の9割以上となっている。美里町の農業は、高齢化による農家数、農業従事者数、田・畑の面積の減少という短所を持ちながらも、学校給食用パンにも使われる小麦「夏黄金」、特産品の梨という大きな長所を備えている。今後は「夏黄金」の産地として、地位確立を図るための取り組みが求められるとともに、小麦の生産振興に加えて、付加価値の創出が求められている。

#### 3. 分析・考察・提案

#### (1) 分析と考察

美里町の現地調査で学んだことを踏まえて、私たちは美里町の食材を使用した新商品を花野果市場で提供して みてはどうかと考えてみた。

山形県鶴岡市にあるアル・ケッチァーノというレストランのオーナーである奥田政行氏は、「開店以来、庄内に暮らす生産者のもとを訪ね歩き、食材の持ち味を最大限にひきたてる料理にして店で提供し、また県内外へと紹介して販路を築き、強い絆を結んできました。(中略) その食材で、お客様にも生産者にも喜んでいただける料理をつくることが、ここ庄内の幸せにつながるのだという思いが、奥田の、そしてアル・ケッチァーノスタッフ全員の力になっているのです」と述べている。奥田政行氏の「人々の熱い思いに支えられて、味わい深いさまざまな食材が生まれてくる」という言葉にも学びつつ、以下の新商品を考案した。

#### (2) 提案

私たちが考案した新商品は、資料5に示した美里町の食材を活用したライスバーガーと夏黄金バーガーである。地産地消をして、食材の持ち味を最大限にひきたてる料理、若い世代の方々にも食べてもらうために美里町で産出された食材そのものの味、香りなどを味わうことのできるようなオリジナルハンバーガーにしたい。ライスバーガーには美里町産の米、北浦梨を使った焼き肉のたれ、グリーンベースのレタスを使い、夏黄金バーガーでは美里町産の夏黄金、グリーンベースのレタス、デリシャストマトを使用する。

ライスバーガーのレシピは以下の通りであり、バンズは美里町の白ご飯と、夏黄金(小麦粉)で作り、焼き肉は美里町の特産品の梨を含めた焼肉のたれと牛肉をマリネしたものを盛りつければ「ライスバーガー」「夏黄金バーガー」が完成する。

新商品の開発で期待できる効果は三つあり、一つ目は若い世代の方々にも農業や食に関する意欲、関心を持ってもらうことができるということから、美里町の農業発展や農業人口の増加が見込まれること、二つ目は地産地消を行うことで美里町の農作物の消費を増加させ、さらに農業を盛んにすることで美里町内の食産業の発展にもつながること、三つ目は若い世代向けの商品を開発することで、今よりもより多くの若者が美里町に目を向けることができるということである。これが美里町の今後の観光業、産業発展の足掛かりとなるのではないかと考えた。

#### 資料 5 私たちの提案するオリジナルバーガー

# ライスバーガー

# 夏黄金バーガー

美里町産の米→

美里町産の<mark>北浦梨</mark> を使った焼き肉のたれ・



←美里町産の夏黄金

←美里町産グリーン ベースのレタス

美里町産グリーンベースのレタス↑

↑美里町産の デリシャストマトが中に

#### 【ライスバーガー】 レシピ

- 1. ボウルに温かい美里町の白ご飯とごま油、塩、夏黄金(小麦粉)を入れて混ぜ合わせ、2等分にして、厚さ 1.5cm程度の丸形に成形する。
- 2. 焼肉のたれを作る。⇒美里町の特産品の梨 1/2 個、玉ねぎ 1/2 個、しょうゆ 100cc、砂糖大さじ 2、みりん大さじ 2、酒大さじ 2、レモン汁大さじ 2、味噌大さじ 2、白ごま大さじ 2、にんにくチューブ 20 によい 小さじ 21 を混ぜる。
- 3. 焼肉のたれとオレンジの果汁と砂糖を混ぜたものに、牛肉をマリネする。30分くらい漬けた後にフライパンで牛肉を炒める。レタスとデリシャストマトは水で洗う。
- 4. フライパンで強火に設定して予熱する。
- 5. 温まったらサラダ油を塗り、1で作ったお米バンズの両面に焼肉のたれをさっと塗っておいて、両面がカリッとなるまで火を通す。
- 6. 3と5を盛りつければ「ライスバーガー」が完成。

#### 【夏黄金バーガー】 レシピ

#### [バンズ]

・小麦粉:80g ・薄力粉:16g ・ドライイースト:適量 ・砂糖:6g

・塩:小さじ1杯(5g)・水:60~80cc・バター(無塩):適量

・溶き卵:1個分・白ごま:適量

#### [肉だねに入れるパウダースパイス]

・肉だね:おまかせ ・コリアンダー (パウダー):小さじ1

・クミン (パウダー):小さじ1 ・レッドペッパー (パウダー):小さじ1/4

・ブラックペッパー (パウダー):小さじ1/2 ・塩:小さじ1

#### [用意する野菜たち]

・美里町レタス:2枚 ・デリシャストマト:1個 ・きゅうり:1本

#### [ピクルス液]

#### 材料

・お酢:90cc ・水:60cc ・砂糖:20g ・塩:小さじ1

・ローリエ:2枚 ・タイム:1本

#### バンズの作り方

- 1. ボウルにふるった小麦粉、薄力粉と砂糖、塩、ドライイーストを入れて手で混ぜ、水を入れてさらに混ぜる。
- 2. まとまってきたらバターを加え、さらによくこねて、均一になったらボウルから取り出し、台の上でこねていく。ベタつきがなくなって、なめらかになるまで作業を続ける。
- 3. 表面が張るように生地を丸くまとめてボウルに戻し、ラップをボウルにかぶせて発酵させる。発酵時間は季節によっても変わるので、生地の大きさが約2倍になるまで発酵させる。
- 4. 打ち粉をした台に生地を取り出し、軽く押してガスを抜く。生地を2等分し、それぞれまるめてとじ目を下にして置き、ベンチタイムを設ける。
- 5. ベンチタイムが終わったら軽くガスを抜いて丸め直し、クッキングシートを敷いた天板の上に生地を並べ、 二次発酵させる。
- 6. 生地が2倍に膨らんだら、ハケで溶き卵を塗って白ごまをふりかける。
- 7. 180℃に予熱されたオーブンで15分焼き上げる。

#### パティの作り方

- 1. ひき肉にコリアンダー、クミン、レッドペッパー、ブラックペッパー、塩を入れて混ぜる。
- 2. その次にパン粉と卵を混ぜたものを投入して混ぜ合わせる。
- 3. その肉だねをパティの形に整えて、空気抜きをして、両面に焦げ目がつくように、そして中もしっかりと火が入るように、最初は弱火で、火が通ってきたら、一気に強火にして、焼き上げたらパティの完成。

#### ピクルスの作り方

- 1. ピクルス液を作るためにお酢、水、砂糖、塩、ローリエ タイムを混ぜ合わせ、液を作っておく。
- 2. キュウリをしっかりと斜め切りにして、味がしみこみやすい状態にする
- 3. きゅうりを1の液につけて、一日冷蔵庫に入れて、完成。

#### 最後に

1. バンズ、パティ、ピクルス、デリシャストマト、美里町のレタスを盛りつければ完成!

#### 参考資料

- ・美里町産業振興課「美里町の産業振興の取組」(2021年11月12日の現地調査時に提供)
- ・美里町企画財政課資料(2021年12月23日・24日にe-mailで提供)
- ・アル・ケッチァーノ 美しい食の大地から

http://alchecciano.com/al-checciano.html(2022年1月2日閲覧)

\_\_\_\_\_\_

#### おわりに

本稿は、令和3(2021)年度3・4学期の総合的な探究の時間での取り組みをまとめたものである。教室で協議した時間はわずかに45分×8コマ程度であったが、共同探究テーマと個人探究テーマの2種類の報告書原稿の執筆と、口頭発表のためのスライドや動画作成はすべて生徒たちが自主的に取り組み、完成させることができた。これは、これまでのIBMYPでの毎日の取り組みと、PPでの探究活動の成果であると考える。 $1 \cdot 2$ 学期に取り組んだPPを、 $3 \cdot 4$ 学期に発展的に継承させるという学年の目標も達成することができたと考える。

本来であれば、地域探究活動はより長期的な計画のもとに年度を超えて継続的に実施すべきものであり、現地調査(フィールドワーク)においても町の人々の声を直接聞くべきであったが、今回はコロナ禍に急遽企画した短期間の活動であり、活動成果が未熟なものとなったことは否めない。このことは今後の課題である。今回の活動を生徒たちがさらに発展させてくれることを期待したいと思う。

# (2) 令和4年度実施の「新学習指導要領」に向けての取り組み = 「観点別評価」のための「評価規程」改訂と「評価システム」作りについて =

カリキュラム・マネージャー 小松 敦

令和4年度実施の「学習指導要領」の改定に伴い、これまでより「観点別評価」の実施方法が明確化され、大幅な「評価方法」の改善と「生徒指導要録」の記載の様式の変更が行われた。これにより、本校では新年度に向け、「新学習指導要領」に対応するために、関係部署と連携の下、新たな環境整備を実現するための取り組みが進められた。

「学習指導要領」の改定の趣旨は、①「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」②「何を理解しているか何ができるか」③「理解していること・できることをどう使うか」の3つを育成すべき資質・能力の三つの柱として規定して、これを実現するため「評価」方法を改善したということである。

具体には、「観点別学習状況の評価」の観点が、これまでの①「関心・意欲・態度」②「思考・判断・表現」③「技能」④「知識・理解」の4観点から、①「知識・技能」②「思考・判断・表現」③「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に整理された。また、その評価は、A・B・Cという3段階で総合的に判断して、最終的にはこの「観点別学習状況の評価」によって「評定」を決定するというものである。

併せて、「総合的な探究の時間」と「特別活動」の評価にも、「観点別評価」が導入されることになった。

このような「新学習指導要領」に対応するために、今年度、本校でも「評価規程」の改定と「評価システム」作りを行ない、一応の環境整備ができたと考えている。本拙稿は、カリキュラム・マネージャーという立場から、その経緯を記録としてまとめたものである。

なお、<2「新成績評価表」と「新教育通知票」について>として、「観点別学習状況の評価」の導入に対応するために行った「成績評価表」と「教育通知表」の刷新についての内容も簡単に記載しておく。

#### 1. 「新評価規程」の改定と「評価システム」作りの基本方針と経緯

各コースの教務部長の協力により、「新評価規程」の改定と「評価システム」作りを同時並行で進めた。 基本方針としては、「新評価規程」と「評価システム」は、各コースの特徴を最大限に生かしつつ、原則、全コース共通の「評価規定」と「評価システム」を作成するということである。その理由は以下の2点である。

- ①「新評価規程」と「評価システム」を統一することにより、共通性を持たせて「学習指導要領」の趣旨の 正確な実現が学園全体として可能になる。
- ②コース横断的教科指導や人事異動に対応するため、一定程度の様式・運用に共通性を持たせる必要性がある。

以上のような基本方針に基づき、「新評価規程」の改定と「評価システム」作りを進めた。

以下はその経過を、成案を見るまでの過程が分かるように、進捗状況も含め時系列で表記したものである。

#### (1)「評価規程(教務規程)」の改定について

- ◎令和3年5月
  - ○新しい評価規定の作成についての手順と予定日程を、各コースの教務部長に提示する。
  - ○新しい評価規定の論点を提示し、各コースの意見を求める。
- ◎令和3年5月
  - ○各コースの教務部長の意見をもとに、課題に対する統一的なたたき台として、以下の点について「案」を 提示する。
    - ①「定期考査」のあり方および「評価」の仕方について
    - ②学校全体としての「評価規定」の適用について
      - ア)「評価規定」の適用方法について
      - イ)「評価規定」の弾力的運用について
      - ウ)「観点別評価」=「評定」について
    - ③その他
      - ア)「評定」の扱いについて
      - イ) 文部科学省の「評価」の原則に従って「評定」を算出することについて
      - ウ)「評定平均値」と「推薦入試選考委員会の会議資料」の関係について

#### ◎令和3年6月

- ○「新評価規程」の「課題」の私案について、各コースの部長と何度も審議し、調整と修正が繰り返される。
- ○大学進学本部長と大学入試推薦委員会委員長及びカリキュラム・マネージャーで、推薦会議の資料における「評定」の扱いについて協議する。

#### ◎令和3年7月

○「新評価規程」に盛り込む全コース共通の「観点別学習状況の評価」条文の案を作成・提示して、各コースの評価規程と整合性が取れるように調整する。

#### ◎令和3年8月

- ○各コースの「新評価規程」の条文の文言整理など、詳細な検討を行う。
- ○8月20日(金)に「新評価規定研修会(兼「新任者研修会」)」を「新教育課程と新しい評価方法」=「観点別学習状況の評価」について= というタイトルで、全職員対象にオンラインで研修会を実施する。主に、「学習指導要領」改訂の概略と、本学園の「観点別評価」導入に伴う評価方法と、「新評価規程」の条文の内容を説明する。

#### ◎令和3年9月~

- ○コースごとに、「新評価規程」の内容を最終確認して発議をする。これによって、一応の完成を見る。(後日、部分修正あり)
- ◆各コースの令和4年度対応の「評価規程(教務規程)」の掲載は、その性質上、割愛する。

#### (2)「評価システム」の作成について

- ◎令和3年4月·5月
  - ○校長室長より、「各教科の観点別評価のアイディア」として、学習評価のための「評価入力システム」を 提示される。
  - ○校長室長より、「総合的な探究の時間」及び「特別活動」におけるにおける「構造、学期指導計画(シラバス)、振り返りシート」について提示される。
- ◎令和3年8月
  - ○各コースに、「各教科の学習評価」及び「総合的な探究の時間」、「特別活動」の「評価入力システム」を、 3学期に2名以上で試行運用を実施して検証することを依頼する。
- ◎令和3年10月~12月
  - ○各コースで、「各教科の学習評価」及び「総合的な探究の時間」、「特別活動」について「評価入力システム」を使用して検証を行う。(各コースで、2~20名程度で試行運用で実施された。)
- ◎令和4年1月
  - ○各コースでの「評価入力システム」の試行運用に結果を整理して、各コースの教務部長に提示し、意見調整を行う。
  - ○校長室長及び副校長、各コースの教務部長の意見をもとに、「評価入力システム」の修正版を別に作成し、システム選択の幅と裁量範囲を広げた運用方法の含め、臨機応変に利用できる学園共通の「評価入力システム」の提案を行う。
- ◎令和4年2月
  - ○「評価入力システム」をベースとした「評価入力システムA」と、修正を加えた「評価入力システムB」を、各コースの了解を得て発議し、校長より決裁を得る。
  - ○各コースの「新評価規程(教務規程)」と「総合的な探究の時間」及び「特別活動」を併せた「評価入力システム」を全教職員に提示し、次年度に向けた準備と運用を指示する。

#### 2. 「新成績評価表」と「新教育通知票」について

- ◇「観点別学習状況の評価」の導入による「評価規程」の変更により、成績を入力する教務部管轄の「成績評価表」と「教育通知表」を刷新することになる。
- ◇かなり複雑多岐に渡る大規模改修になるため、各コースと調整協議が頻繁に行われる。
  - ◎令和3年9月~12月
    - ○全体システムに組み込むことを前提に「成績評価表」を改修する。

#### <主な改修ポイント>

- ア)4学期の呼称の統一と設定方法
- イ)「観点別学習評価」の項目の設定と自動計算による評定の設定
- ウ)「平常点」の項目の削除と「基準点」の設定
- エ) 各コースの評価方法に対応した様式の設定(2種類の様式を設定)

- オ)「教育通知表」との連携設定
- カ)システム側で使用する取込み時のエラーチェック列の追加
- キ)「定期考査観点別評価実施期間」の枠を追加
- ク) その他
- ○各コースの「評価規程」及び「「成績評価表」の改修に対応した「教育通知表」の改修を行う。

#### <主な改修ポイント>

- ア) 4学期の呼称の統一と設定方法
- イ)「平常点」の項目の削除と「基準点」の設定(40点未満に\*)
- ウ) 各コースの評価方法に対応した様式の設定(3種類の様式を設定)
- 工)「成績評価表」の内容を「教育通知表」に自動反映する設定
- オ) 各コースの評価規程に合わせた単位数の設定
- 力) その他

以上、令和4年度実施の「学習指導要領」の改定に伴う、本校の「評価規程」の改定と「評価システム」作り及び「成績評価表」と「教育通知表」を刷新について、本年度の取り組みの概略を記載した。紙面に都合上、不十分な内容になっていることをご理解いただくと幸いである。

#### ≪資料≫

#### ◇次年度から使用される「評価入力システム」の概要と運用方法(概略)◇

#### 1. 「学習評価」 について

- (1)「評価入力システムA」と「評価入力システムB」の2つのシステムを設定する。
- (2)「評価入力システムA」と「評価入力システムB」の特徴と運用方法について
  - ◇「評価入力システムA」
    - ◎特徴
      - ○評価規準設定方法の中心に「ATL」スキル≪\*注》(P22)を据えている。
    - ◎運用方法

下記の「評価入力システムA」専用の①および②の「評価入力システム」を使用して評価する。

- ①「学習計画表」、「評価課題別の評価観点」、「評価課題の振り返りシート」
- ②「評価課題別の評価一覧」、「仮評定・評定の一覧」、「生徒の評定」
- \*「振り返りシート」に関しては、そのまま活用しても良いが、各教科担当者が「振り返りシート」を使用することなく、教科・科目の特性に応じて、様々な手法を用いて行うこともできることとする。
- ◇「評価入力システムB」
  - ◎特徴
    - ○評価規準の作成に関して、各教科の特性に応じた裁量を認めている。
  - ◎運用方法

下記の「評価入力システムB」専用の①および②の「評価入力システム」を使用して評価する。

- ①「学習計画表」、「評価課題別の評価観点」、「評価課題の振り返りシート」
- ②「評価課題別の評価一覧」、「仮評定・評定の一覧」、「生徒の評定」
- \*1.「学習指導計画(シラバス)」の実施計画の区分は、1学期ごと、2つの学期(1学期と2学期あるいは3学期と4学期)、年間の3通りの区分で作成して良い。
- \*2.「評価課題別の評価観点・評価項目・評価基準」について、シートの形式は「評価入力システムA」と同様であるが、「評価項目」と「内容」及び「評価規準」はATLスキルによらず、各教科・科目の担当者が指導内容や特性に応じて作成する。ただし、その際は「評価入力システムA」のATLスキルの評価規準も参考にする。
- \*3. 「振り返りシート」に関しては、\*2に合わせて各教科担当者が作成して活用しても良いが、「振り返りシート」を使用することなく、教科・科目の特性に応じて、各教科担当者が様々な手法を用いて「振り返り」の評価を行うことができることとする。
- (3)「個別課題の観点別評価」の集約及び「仮評価」・「最終評価」の決定について
  - ◎「評価入力システムA」と「評価入力システムB」のどちらにおいても、教科担当者の判断により、次の① か②のいずれかを選択して「評価規程」に基づき「評価」する。
    - ①「評価入力システムA」と連携させ、「評価課題別の評価入力と評定入力」の「評価課題別の評価一覧」、「仮評定・評定の一覧」、「生徒の評定」などのシステムをそのまま活用して、「観点別評価」の集約及び

「最終評価」する。

- ②「評価入力システムB」と連携させ、「評価課題別の評価入力と評定入力」の「評価課題別の評価一覧」、「仮評定・評定の一覧」、「生徒の評定」などのシステムをそのまま活用してしても良いが、これによらず、各教科・科目の担当者が、指導内容に応じて各自の方法(エクセルの利用など)で必要な集計表や評価表を作成し、「観点別評価」の集約及び「最終評価」の決定を行う。
- (4)「評価入力システムA」と「評価入力システムB」のどちらのシステムを使用するかは、各コースの教科・科目で担当者の合意の下、決定する。
  - \*同一科目を複数人で担当する場合は、「評価入力システム」を統一する。単独で教科・科目を担当する場合は、 担当者の選択による。

#### 2. 「総合的な探究の時間」の評価について

- ◎次の(1)か(2)の2つの方法のうち、いずれかで実施する。
  - (1) 「総合的な探究の時間の評価①(「シラバス」、「各学期の振り返りシート」)」のシステムを利用して評価し、「総合的な探究の時間の評価②(「各活動の生徒の振り返り一覧」、「評価の一覧」、「生徒の評価」)」を利用して、各学習内容の評価を集約し、最終評価を行う。
  - (2) (1) の「総合的な探究の時間の評価①」及び「総合的な探究の時間の評価②」のシステムを参考に、コースごと、自由に「指導計画書(シラバス)」と、学習の「評価規準」を作成し、適切な「振り返り」をさせることによって、公正な評価をできるような方法で実施する。

#### 3. 「特別活動」の評価について

- ◎次の(1)か(2)の2つの方法のうち、いずれかで実施する。
  - (1) 「特別活動の評価①(「シラバス」、「振り返りシート」)」のシステムを利用して評価し、「特別活動の評価②(「生徒のHR活動振り返り一覧」、「生徒の生徒会活動振り返り一覧」、「生徒の学校行事活動振り返り一覧」、「評価の一覧」、「生徒の評価」)」を利用して、各活動内容の評価を集約し、最終評価を行う。
  - (2) (1) の「特別活動の評価①」と「特別活動の評価②」のシステムを参考に、コースごと、自由に「指導計画書(シラバス)」と、活動の「評価規準」を作成し、適切な「振り返り」をさせることによって、公正な評価をできるような方法で実施する。

#### ≪\*注≫

「観点別評価」の規準として、「ATL(Approaches To Learning)スキル」を採用している。「ATLスキル」とは、「IB(International Baccalaureate <国際バカロレア>)」プログラムの「学習の方法」(ATL)のことである。これは、生徒のカリキュラム全体に関連するスキルを発達させるものであるが、特に「学び方を学ぶ」のに役立つものである。「ATLスキル」は、生徒と教師が学習プロセスを振り返り、そのプロセスを明確に示すための共通の言語としてはたらく。

このことは、IBのみならず、どの教科・科目の学びにも有効に機能するので、今回、「評価入力システム」に「ATLスキル」を採用し、「観点別評価」の規準として積極的に活用するように設定している。これは本校独自の「評価入力システム」の大きな特徴だと言える。

- ◆「評価入力システム」は、電子データで作成されており、各シートには自動挿入や自動計算、プルダウン等が 組み込まれており、教員の成績処理に関する負担軽減が図られている。
- ◎次のページに参考として、「評価入力システムA」の「評価課題別の評価観点・評価項目・評価規準」の入力シートのサンプルを掲載する。このシートは、「ATLスキル」を採用し、「観点別評価」の規準として積極的に活用する様式で設定されている。(他の入力シートの掲載は割愛する。)

		【生徒配布】評価課題別の評価観点・評価項目・評価基	基準	(課題番号: )			
コース (コース)		※MYP · DP受講生対象外			2022/2/28	詩占	
学年 (高等学校)							
教科 (高等学校) 科目名				Approaches To Learning) スキ ラムの「学習の方法」(ATI)に	<b>ルとは</b> よって、生徒はカリキュラム全	<b>体に関連するスキルを発達させ</b>	ますが、特に
担当者名			「学び方す	ヒ学ぶ」のに役立ちます。ATLス	キルは、生徒と教師が学習プロ		
学期 本学期のねらい (育む資質・能)	hなど)	※複数学期となっても可 7	ための共通	風の言語としてはたらきます。			
生活信条七か条 (=人間性)	, , , ,			ł.			
その他のねらい							
(育む資質・能力など)							
評価課題種類 評価課題の内容		※選択肢にない場合は直接入力(毎授業・毎週行うような確認テストや小テストは含まない	١)				
評価観点	評価項目	内容	使用項目		評価基準		
※各評価課題で1つ以上 の評価観点を使用	計画外日	※「各教科の単元に応じた観点」と【ATL】の内容が類似しても可	EHAI	A(十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)	評価なし
	各教科の単元に応じた観点						
	※学習指導要領の目標等を参考に担						
	当者が独自に作成 ※学校設定科目等は独自に作成						
		点は必ず1項目以上使用ください。 → チェック項目(青色は1項目以上使用、赤色は未使用)	0	desi.			
		目的に応じたメモの取り方や、読み手にとって分かりやすい記述方法を用いる。 多様なデジタル環境とデジタルメディアを用いて、様々な人と考えを共有する。		が. 評価基準①	例。 評価基準(1)	(PI).	
		情報を得ることや、その楽しさを知るために多様な資料を読む。		広範囲の用語を正確かつ適切 に使用することで、本単元に	用語をおおむね正確かつ適切 に使用することで、本単元に 関連する知識や概念を理解し	評価基準① 限られた用語をおおむね使用 することで、本単元に関連す	
	【ATL】コミュニケーションスキル	様々な専門用語やシンボルを理解し、活用する。 数学的表記を理解し、用いる。		関連する知識や概念を体系的			
		文章を見直す、または拾い読みすることで内容を理解する。		に理解していることを示して いる。	ていることを示している。	る知識や概念を把握している ことを示している。	取り組んで
知識・技能		学習のために効果的な要約メモを作成する。 書く内容を整理する際に、多様な情報整理ツール(図や表)を活用する。			評価基準②	LEGAL CUO.	いない
		データを収集し、記録し、検証する。		評価基準② - 正確な記述・説明・事例を通	記述・説明・事例を通じて、	評価基準② 限られた記述・説明・事例を	
		様々な情報を関連付ける。 コンピューターやプログラミングなどICTシステムを含む技術システムを理解し、用いる。		じて、本単元に係わる技能と	本単元に係わる技能と指定し たATL スキルをおおむね実践	通じて、本単元に係わる影散 と指定したATL スキルを試み ていることを示している。	
	【ATL】情報リテラシースキル	知的所有権について理解し、行使する。		指定したATL スキルを一貫し て実践できていることを示し	できていることを示している。		
		参考文献への言及を行う。もしくは文献からの引用を行い、必要であれば脚注(もしくは文末脚 注)を使用する。		ている。			
		一次資料と一次資料を加工・編集した二次資料を適切に使い分ける。					
	【ATL】転移スキル	多数の教科や学問分野を横断して概念的理解を比較する。 複数の教科や学問分野を関連づける。		-			
	[att ] (- + 11 ± 40	現在持っている知識・スキルを新しい知識・スキルを学ぶために転移する。					
	AIL』に応じた観点 各教科の単元に応じた観点	点は必ず1項目以上使用ください。 → チェック項目(青色は1項目以上使用、赤色は未使用)	0				対象 あまたとと 表現 取り組んでいない いない にない いない
	※学習指導要領の目標等を参考に担				機断、土地、万が、保険、評価、要約、モデル化、複要表 規 証明、作成、の一部また は全てを上確に行うことで、 本単元に関連する思考か、判 断力・表現力を発揮している ことを示している。 評価基準別、分析、解釈、評価、要約、モデル化、複要表 個、要約、モデル化、複要表	例。 評価基本① 別域、主張、分析、解釈、評 思、課別、モデル化、視覚表 思、課別、作成、の一部まさ で、本単元に関連する思考 でいることを元しても。 評価基本② 別域、異別、モデル化、視覚表 の、課別、モデル化、視覚表	
	※子自指导安領の自然寺で参与に担 当者が独自に作成						
	※学校設定科目等は独自に作成	点は必ず1項目以上使用ください。 → チェック項目(青色は1項目以上使用、赤色は未使用)	0				
	115ATT ->> 01C) 0 O 7C 80	正確かつ簡潔に言い換える。	Ť	例。 評価基準① 議論、主張、分析、解釈、評 価、要約、モデル化、視覚表 現、証明、作成、の一部また は全てを詳細かつ正確に行う			
	【ATL】コミュニケーションスキル	多様な会話のテクニックを用いて、様々な相手との豊かな情報共有をする。 表情、ジェスチャーなどの言葉によらないコミュニケーションの方法を理解し、活用する。					
		情報を論理的にまとめ、描写する。					
	【ATL】メディアリテラシースキル	様々な資料やメディア(SNS、電子書籍、WEB記事などのデジタルソーシャルメディアも含む) から情報を見つけ、整理、分析、評価、統合し、そして倫理的に用いる。					
		情報を視聴する経験を積み重ねる上で、様々なメディアの特徴を踏まえ、メディアの選択を行					
		つ。 メディアの表現や発表形式がもたらす影響を理解する。		ことで、本単元に関連する思 考力・判断力・表現力を効果			
思考力・判断力・表現力		問題を認識するために注意深く観察する。 述べられていない思い込みや偏見を認識する。		的に発揮していることを示し ている。			
		が 証拠や議論を評価する。					
		課題を認識し評価する。 理にかなった結論や一般論を導き出す。		評価基準② 議論、主張、分析、解釈、評			
		一般論や結論を検証する。		伍、要約、モデル化、視覚表			
	【ATL】批判的思考スキル	新しい情報や証拠に基づいて理解を見直す。 事実に基づいて、時事的で、概念的な、議論の余地のある問題を提起する。		現、証明、作成、の中で指定 したATL スキルを一貫して実	したATL スキルをおおむね実	現、証明、作成、の中で指定 したATL スキルを試みている	
		反対の、あるいは対立する議論を展開する。		践できていることを示してい	践できていることを示してい る。	ていことを示している。	
		様々な解決策を提案し、評価する。 障害や課題を特定する。		<b>3</b> .			
		複雑なシステムや問題を探究するためにモデルやシミュレーションを用いる。					
		傾向を特定し、可能性を予測する。 起こりそうにないものや不可能と思われていることも含めて、多数の代替案を検討する。		-			
	【ATL】創造的思考スキル	推測し、「もし~だったら」という問いかけをし、検証可能な仮説を立てる。					
	【ATL】に応じた観	独自の作品やアイディアを創造する。既存の作品やアイディアを新しい方法で用いる。 点は必ず1項目以上使用ください。 → チェック項目(青色は1項目以上使用、赤色は未使用)	0				
	各教科の単元に応じた観点						
	※学習指導要領の目標等を参考に担						
	当者が独自に作成 ※学校設定科目等は独自に作成						
	各教科の単元に応じた観	点は必ず1項目以上使用ください。 → チェック項目(青色は1項目以上使用、赤色は未使用)	0				
		自分自身或いはチーム・集団で意思や行動を決定する際に、他者と決定する責任を共有した り、他者を信頼して決定を任せたりする。		例。			
		対立を解決し、チーム・集団で協力して行動する。		評価基準①	数やい点刺を担し、キャエル 関連する見か、考え方を動か せようとする姿が見られる。 関連するとす 呼低基準② 指定したATL スキルの内容に ついて自己分析を通じて影響 し、指導を得て、ATL スキル の実験を述っている家が与。 しょう ナオ	例. 評価基準①	
	【ATL】協働スキル	意見や考えを他者と交換し合い、意見や行動の合意を形成する。 他者の見解や考えに積極的に耳を傾ける。		教科の活動を通じ、本単元に 関連する見方・考え方を働か			
		他者がチーム・集団のために貢献することを促し、鼓舞する。		せようとする姿が見られる。 評価基準② 指定したATL スキルの内容に ついて理解を示し、自身で実 践しながら、その意義やノウ		教科の活動を通じ、本単元に 関連する見方・考え方を働か	
主体的に学習に取り組む態度		リーダーシップを発揮し、チーム・集団の中で様々な役割を引き受ける。 チーム・集団での意見交換が活発になるように、他者に助言(フィードバック)を与え、また受け				せようとする姿が見られる。	取り組んでいない
	【ATL】整理整領する力	取る。 短期的課題や長期的課題に向けて計画を立てる。締め切りを守る。					
		短期的課題や長期的課題に同げて計画を立てる。締め切りを守る。 困難だがやりがいがあり、現実的な目標を設定する。				指定したATL スキルの内容に ついて自己分析を通じて把握	
		必要な器具やものを授業に持ってくる。		ハウを他者に伝えることで他 者を導こうとする姿が見られ			
	【ATL】情動スキル	集中力を向上させる方法を実践する。 ストレスや不安を減らす方法を実践する。		5.			
		失敗の原因を分析し、特定する。 「今日、何について学んだのか?」を考える。		-			
	【ATL】振り返りスキル	「まだ理解していないことは何か?」を考える。					
		「今、どのような質問があるのか?」を考える。 「上手に学習できるようになるために重要な要素は何か?」を考える。		-			
		(金理的、文化的、現境的な影響を考える。 合理的、文化的、現境的な影響を考える。 合けみず[頭目以上使用ください] → チェック頭目(書色は1頭目以上使用 赤色は主使用)					

# (3) 情報科学コースにおけるslackの活用について

情報科学コース 吉野 裕貴

#### 1. はじめに

情報科学コースでは「コミュニケーションツールとして自在に活用できるコンピュータ技術の習得」を目的としており、情報技術に係る生涯学習者としての自覚・感性・能力を持ち、地域振興に寄与する情報技術のエキスパートの育成を教育目標として掲げております。

そこで、情報科学コースではClassiとは別に、メッセージングプラットフォームであるSlackを2021年度より試験的に導入しました。以下では、まずSlackについての説明から入り、Slackの活用事例とその効果、生徒の感想、今後のSlack活用の構想について述べていきます。

#### 2. Slackついて





Slackとは、2013年8月に米国でリリースされたビジネス向けのオンラインチャットツールです。グループチャットと個人チャットはもちろん、ファイル共有、音声・ビデオ通話などの機能を利用できます。

SlackはWebブラウザまたはアプリから利用できます。デスクトップアプリは、Windows、macOS、Linuxに対応し、モバイルアプリはiOS、Android、Windows Phone の環境に対応しているため、PCとスマートフォンの両方で利用が可能で、1つのアカウントを複数の端末からログインすることもできます。

また、Slackのメリットの一つとして外部webサービスとの連携が可能であることがあげられます。Googleの各種サービス、DropBox、zoomとの連携は授業や学級運営を行う上でも非常に便利です。

但し、Slackは便利なコミュニケーションツールであると同時に自由の幅が広い SNS でもあるため、情報科学コースでは基本的共通使用ルールを設定しています。以下に何点かそのルールを抜粋します。

- ・「閲覧したら、確認したサインでがタンを押す」ことを生徒に周知
- ・生徒からのダイレクトメッセージ等の返信は原則休日以外の9:00~17:00で実施
- ・SlackはSNSとして生徒はソーシャルメディア・ポリシーを遵守する

これらのルールはLINEのような既読機能の代わり、教員間での対応の統一、生徒間、教員と生徒の間でのトラブル防止等の為でもあります。ルールを守りながら扱うことで規律ある運用が可能となります。

#### 3. 授業、学級運営における Slack の活用事例

#### 〈活用事例1数学〉

数学ではSlackで課題や試験範囲などの連絡事項を伝えるほかMicrosoft formsを活用した小クイズを行っています。Microsoft formsでは簡単にアンケートを作成できる以外に、LaTeXによって数式を打ち込むことも可能なため、数学の簡単なクイズを作成することができます。作成したクイズのURLをSlackで共有し、授業の導入や復習において活用しています。



図1 Slack の画面

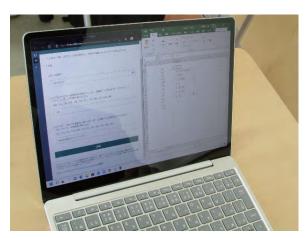


図2 生徒がクイズに取り組んでいる様子



図 3 Microsoftforms の画面



図4 クイズの解説の風景

#### 〈活用事例2学級〉

主に時間割や提出物、各種行事の連絡など、ホームルームでの連絡をリマインドするために使用しています。 (図5)

ほかにも時間割変更や忘れ物、非常時などの緊急連絡の際にもメンションなどの工夫をしながら使い分けています。

また、特別活動のグループ活動の際にもグループごとのチャンネルを作成し、生徒間で作成した資料を共有しながら課題に取り組んでいました。(図6)



図5 クラスホームルームの画面

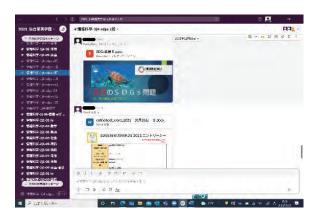


図6 グループ活動の画面

#### 4. 生徒の感想

- ・シンプルで使いやすく、生徒同士だけでグループを作ることが出来るので、とても助かっています。生徒間でのコミュニケーションがとりやすく便利で楽しいです。
- ・スマートフォンと連動しているので、なにか通知がきてもすぐ気づくので良いと思いました。
- ・グループワークで素早く連絡が取れ、利便性が高く課題をスムーズに配信してもらえるので助かります。
- ・先生に直接確認したいことを直接DMなどで家からでも伝えることができるので便利です。
- ・個人で質問できるのがありがたいです。みんなの前だと言いづらいけど個人チャットで聞けるのはすごく助かります。
- ・学校にいなくても先生に質問や連絡できるのが良く、またSlack はとても見やすいです。

#### 5. 今後のSlack活用の構想

情報科学コースとしての到達目標としては以下の2つをあげています。

- ・コース内あるいはコースを横断して生徒間が学習や課外活動(部活動等)で共同作業を行ったり、連絡を取り合ったりするワーキングスペースがないため、Slackの中で生徒間が主体的にコラボレーションできる体制の整備(利用例 学校からの全体連絡、担任の先生との連絡、友だちと連絡等、作業の共有やデータの受け渡し)
- ・Slack と連携するアプリケーションで共同作業を行い、他アプリやOffice365・google・Zoomとの連携を深めて教科指導ができる授業の展開に努める

これらの目標の中でも、特に連絡をとるという点に関しては、コース全体、学年、学級、個人の間でもわかりやすく成果を得ており、LINEなどのSNSを使い慣れている生徒らにとっては扱いやすく、より気軽に教員とのコミュニケーションが可能になったと感じています。

すでに様々なアプリケーションやwebサービスをSlackを介して授業に導入している先生はいますが、今後のSlack活用の構想としては、アクティブラーニングの一環として生徒間のワーキングスペースの活用や、共同作業が可能となる(OneDrive, OneNoteのような)アプリケーションとの連携などがメインとなっていくと考えます。

#### 6. おわりに

2020年度から新型コロナウイルス感染症拡大によって、オンライン授業の重要性は急激に高まっています。Slackは場所にとらわれることなく生徒と教師のコミュニケーションの場を設けることができました。SNSに慣れている生徒たちにとって、チャットで教員と会話できることは、質問や相談のハードルがぐっと下がり、教員側からも生徒ひとりひとりの対応が以前よりもやりやすくなったと考えます。

また、Slackの強みの一つである他アプリケーションとの連携はICT教育において生徒、教員の創造性を高め、様々なアプリケーションを授業で取り扱い、その新鮮さに生徒も教員も刺激を受け、さらなる可能性を求めて時代に合った教材研究が進むことと考えます。

#### 7. 謝辞

恵まれた教育環境を整えて頂き、多大なる御指導、御配慮を賜りました理事長 加藤雄彦校長先生に心から感謝申し上げます。また、常務理事 加藤聖一先生はじめ諸先生方には常日頃たくさんのご支援を頂き感謝を申し上げ、結びとさせて頂きます。

# 能動的学修におけるICT活用

情報科学コース 佐々木りせ

#### 1. はじめに

コロナ禍において、世界が分断せざるを得ない状況で、少なくとも各クラスの中だけは異文化コミュニケーションを活発に行いたい。協同学習を主とした能動的学修はコミュニケーションを積極的にとるよう働きかけるには適している。能動的学修というからには教師が英語を話すことよりも生徒にいかに話させるかにフォーカスされるわけだが、特に情報科学コースの生徒については話すことを好まない生徒が多い。一方で異文化コミュニケーションに必要な他の個性を受け入れることを考えるならば、話すことを苦手とする生徒の個性をも受け入れる姿勢を育てたい。この矛盾の解をどう出すかは外国語科教員の課題である。そこで特にICTを活用して授業をどう工夫したか、研究授業を行った1J2に加えて2J1の授業例を軸にして記す。指導案を載せたので、本論文と併せて参照願いたい。

#### 2. 生徒観を踏まえて工夫した授業の一例

#### 2.1 情報科学コースの生徒観

アクティブラーニングを授業に取り入れるにあたり、生徒の趣向をまず把握しなければいけない。授業を行う全クラスの生徒に学期始めにアンケートを実施し測った診断的評価(「アンケート1」参照)によると多くの生徒が教室での発言を得意としていない。中にはクラスメイトとの会話を好まない生徒もいる。しかし自身を表現することへの意欲を内側に秘めており、好きな話題や自信のあることに関しての発信力には目を見張るものがある。また情報スキルが高く、ICTを使った学習に慣れていることも情報科学コースの生徒の特長である。以上を踏まえてある程度自由に表現したいものを伝えることを動機付けとして各活動に入ることが肝心と考えた。

#### 2.2 授業例

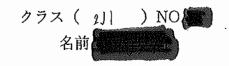
2J1組の授業の一例を挙げる。(「指導案 1」参照)Lesson 5 は日本人にはなじみ深いが国外ではあまり食べられていない海藻の魅力について、Lesson 6 では畑でなく工場で作る野菜について英語で学ぶ。どちらも食に関する題材であることから、表やグラフを用いた説明やレシピの作成など、どちらの課でも行える演習課題が多い。したがって二つの課をまとめて指導し、教科書に例が載っている他の課の課題を応用的に行うことでそれぞれの題材への深い理解を図った。2.1 での「ある程度自由に」というのは具体的には、Lesson 5 では(1)どの海藻をおすすめするか(2)その海藻を使った料理のレシピの2点を、Lesson 6 では(1)野菜工場に賛成か反対か(2)おいしいグリーンジュースのレシピの2点を必ず含めることだけを条件とし、スライドまたはポスターを作成・発表させた。文法指導は作品制作や発表の際に使えるツールとして、倍数表現と分詞構文を紹介するにとどめた。

# 指導案1

	時間	活動内容	教師の動き	生徒の動き	指導上の留意点
带活動	5分	新出単語の発音確認	生徒が作成したイラスト つきの新出単語のスライ ドを見せながら、それぞ れの単語にイメージを持 たせる。	単語テストまで 終えているた め、日本語を介 さず意味を理解 する。	教科書付属 CD は新出単語のう ち一部を発音し ないので教師に 続いて発音させ る。
復習	15 分	Lesson 6 Part 4 のジ グソーリーディン グ・和訳配布	難しい箇所はヒントを与えながら、生徒の理解を 足す。Part 4 の要約を話 しながら和訳を確認させる。	各文章の内容を 正確にグループ に伝え、Part 4 の内容を思い出 す。	グループで進度 に大きる場合は、早く 終わったグルー プが本文理解の ポイントを踏ま えて他のグルー プにアドバイス する。
展開①	15 分	本文中の文法復習 (分詞構文)	漫画『進撃の巨人』の英語版の台詞を吹き出しに収まるように分詞構文に直すよう指示する。 最後に本文中の分詞構文を使った英文を発音・和訳させる。	興味のある話題 において積極的 に習った文法を 使ってみる。	生徒の様子を見て分詞構文を作る際のポイントを伝える。
展開②	10分	教科書本文の音読	教員用 Surface 2 台と CD プレイヤー 1 台を用 意し、発音を確認しなが ら進める。各グループを 巡回して発音に間違いが ないか確認する。	展開①で最後に 発音した文を意 識しながら発音 する。	正しい発音に修 正しながら、各 グループを回 る。

## 指導案2

	1 4 7 6 -						
	時間	活動内容	教師の動き	生徒の動き	指導上の留意点		
帯	5分	新出単語の発音確	生徒が作成したイラストつきの新出単語	単語テストまで終えてい	教科書付属 CD は新出単語のうちー		
活		認	のスライドを見せながら、それぞれの単	るため、日本語を介さず	部を発音しないので教師に続いて発音		
動			語にイメージを持たせる。	意味を理解する。	させる。		
復	15 分	Lesson 6 のジグ	教科書本文の年号を隠した英文を用意す	各文章の内容を正確にグ	グループで進度に大きく差がある場合		
習		ソーリーディン	る。難しい箇所はヒントを与えながら、	ループに伝え、本文の内	は、早く終わったグループが本文理解		
		グ・和訳配布	生徒の理解を促す。要約を話しながら和	容を思い出す。	のポイントを踏まえて他のグループに		
			訳を確認させる。		アドバイスする。		
展	15 分	本文中の文法復習	漫画のキャラクターや著名人を英語で説	興味のある話題において	生徒の様子を見て分詞を作る際のポイ		
開		(現在分詞)	明し、クイズを作る。最後に本文中の分	積極的に習った文法を使	ントを伝える。		
1			詞を使った英文を発音・和訳させる。	ってみる。			
展	10分	教科書本文の音読	教員用 Surface 2 台と CD プレイヤー 1	展開①で最後に発音した	正しい発音に修正しながら、各グルー		
開			台を用意し、発音を確認しながら進め	文を意識しながら発音す	プを回る。		
2			る。各グループを巡回して発音に間違い	る。			
			がないか確認する。				



# 授業前アンケ

はじめまして。これから1年間、英語の授業を担当します、佐々木りせです。 よろしくお願いします。

Q1. 好きなことは? (趣味、はまっていること、好きな歌、人など、なんでもいいです)

ーマンメを見ること。(みんさんかるスターズ!が科問案取しん

ハドミントンをすること、(中学のときにバドミントン部でした)で数数は? パニ病夜では入っていません) Q2. 好きな教科は?

英語

5/20/12 私は"ONEPIECE"ヤ "金良元恕" "七ロアカ"か 女多きですじ

まーってこくりとりほありません。

Q3. 卒業したらやりたいことは? (進路)

大学遊学(まなやりたいことは決まっていません)

Q4. 好みの授業スタイルを一つ選んで、選んだものの下からあまり得意ではない、やりたくないと思うもの があればいくつでも選んでください。

□グループで協力して学ぶ

→ 2 自分から手を挙げて発言する

☑指名されて発言する

☑一人ひとりで静かに学ぶ

→□クラスメートと話す

何か質問や要望などあれば余印裏に何でも書いててごひい!

2021.6.29 #1

1学期末アンケート



1学期の私の授業の感想・意見・要望など、なんでも書いてください;)

ガループリールでみんなと考えるのが楽しくて英語の授業が好きになりました@

次の質問に対して、当てはまる答えの番号にOをつけてください!

#### 質問①

いつものようなグループワークが好きですか?? それとも、最後の2,3時間のテスト対策のような講義形式が好きですか??

- ⁄ (1) グループワークの方が好き。
- (2) 講義形式の方が好き。
- (3) どちらでもいい。

#### 質問②

質問①で(2)を選んだ方に質問です。 <(1)(3)を選んだ人は質問③へ> 周りがグループワークをやっている中で、一人でプリントなどの課題に取り組むことはできますか??

- (1) 問題ないです。
- (2) 嫌です。

#### 質問③

最後に今のグループやペアのメンバーの構成に不満などありますか?? あれば下の口の中に書いてください!(書きづらければ「ある」とだけ書いてくれればあと で直接聞きます!)

特にありません。

#### 3. アクティブラーニングの用い方

話すのが苦手な生徒にとって、アクティブラーニングは大きなストレスとなることは想像に難くない。少なくとも4月当初の情報科学コースの生徒には拒否反応が見られた。先述した筆者独自に行ったアンケートによると、どのクラスでもグループ・ペアワークを主とした授業よりも一斉授業を希望する生徒が半数近くいた。しかし1学期終了後再度アンケートを取ると、1J2組と2J1組では9割の生徒がグループ・ペアワークを積極的に授業に取り入れてほしいという意見を持っていた。この変化の大きな要因は2点あると考える。

まず4月の段階で多くの生徒がアクティブラーニングをあまり経験してきていなかったことに起因しているだろう。実際、アンケートを取っている間生徒から、グループワークとは何か、アクティブラーニングとは何かなどの質問が出ていたからである。

2点目こそ本論文の核であるが、両クラスとも相互学習の効果が表れやすいクラスであった。しかし中にはグループワークを希望しない生徒や向かないクラスもある。2度目のアンケートで大多数がアクティブラーニングを望んでいたとしても、全員ではないことを忘れてはいけない。また授業内容によって、その日のクラスの雰囲気によっても一斉授業が向く回もある。この章では相互学習の効果が表れやすかった1J2組と2J1組に関して授業者の所感を記したうえで、それを踏まえてアクティブラーニングを用いることが望ましい場合と望ましくない場合を2人の生徒を例に挙げて論じる。

#### 3.1 アクティブラーニングが二クラスの生徒の学習意欲を上げた理由

2J1組はクラス全体のまとまりもあるが、少人数グループでの結束が強く、それぞれのグループ内では自身の不得手を隠さずに話す雰囲気がすでにできていた。そのため課題に取り組むよう指示する際、グループで話し合いながら行うことを授業者が許可しただけで自然な流れで、短時間で理解した生徒がまだ理解できていない生徒に教えながら課題に臨んでいた。学期末のアンケートの回答の中には「クラスメイトに教えるのはすごく勉強になる」という意見もあり、グループワークが効果的に授業に作用してくれたと実感している。

1J2組についてはLHRの時間にSDGsへの取り組みをテーマにグループで活動を行っているため、多くの生徒がグループワークによる学習効果を理解していた。1年生らしいフレッシュさや活発さを持ちながらも、教師の指示を聞く姿勢が備わった落ち着きのあるクラスであり、アニメや漫画への関心が強いこと、男女や部活動による隔たりがあまり見られないことが特徴として挙げられる。そのためグループ内だけでなく、グループ同士の教え合いも望めた。

#### 3.2 アクティブラーニングを用いることが望ましい場合と望ましくない場合

アクティブラーニングの向き不向きは必ずしも生徒の性格に一致するわけではない。アクティブラーニングは 読んで字の如く、活動的な学びであり、一斉授業を静の授業とするならば、グループワークなどを積極的に用いた動の授業であるといえる。3.1 で記した通り、アクティブラーニングを行うか一斉授業にするかには向き不向 きがある。これは授業内容や日に対してのみならず、むしろ生徒やクラスに対する。では動の授業に向いている 生徒とはどのような生徒だろうか。端的に考えれば、動の授業には活発な生徒が向いていると言いたいところだが、必ずしもそうとは言い切れない。そもそもアクティブラーニングとは生徒が主体となって能動的に学習する ことである。その代表例が協同学習である。実例を2つあげる。

あるクラスの生徒は静かに課題に取り組むことができ、一人でコツコツと努力を重ね、授業の理解度も高い。そのクラスへのある転コース生は学年始当初はまだクラスに馴染んでいない様子だったが、その生徒と同程度の学力であったことから、同じグループで課題に取り組ませることにした。一斉授業は教員が話す時間が長くなる分、生徒へ細やかに指導する時間を確保できる。しかしこの生徒と同程度の理解度・学力の生徒と切磋させれば生徒の学習意欲を掻き立てるスパイスになるかもしれないと考えた。実際年度末のアンケートにこの2人の生徒は学習意欲が上がったと回答しており、「友達と勝負することや、教えてあげることは自分の勉強になると思った」と答えている。

また静の授業が向いている生徒について、さらに例を挙げる。活発な生徒の中にはオンとオフを切り替えて勉強したいと考えている生徒もいる。診断的評価で判明したことであるが、休み時間の楽しい雰囲気を授業に流れ込ませると、つい周りにあわせてしまい、集中して勉強したいと言い出せない生徒がいた。活動的な生徒に活動的な授業が合うとは一概には言えないと知らされる重要な例と捉えている。この生徒にはあえて一人の時間を作るよう努めて課題を与えた。

#### 4. 能動的学修におけるICTの活用

1で述べた通り、能動的学修は「教師が英語を話すことよりも生徒にいかに話させるかにフォーカスされる」ため、必然的に一斉授業よりも時間を要する。先に一斉授業ではより細やかな指導を行う時間が作られると述べたが、アクティブラーニングでは各生徒が話しやすい雰囲気を作りやすいことから、各生徒の目線に合わせて指

導できるという意味では細やかな指導はどちらも行えるとも言える。ただし難儀なことに 1 対 1 の指導を一クラス 40 人に行っていては時間が圧倒的に足りない。そこで例えばプリントの配布を Classi や Slack での配信に切り替えるだけでも、ICT を活用すれば時間を短縮してくれるため、能動的学修にICT の活用は必要不可欠と言える。さらに能動的学修におけるICT の活用のメリットは時間短縮に限らない。3.2 で述べた協同学習に向かない生徒への配慮にも活かされるかもしれない。

グループを組む際に必ず一人で行っても構わないことを伝えることや、周囲がグループワークを行う中一人で課題を行うことに抵抗がない生徒には一人で行う課題を用意することを徹底してきたが、自分だけ周囲と異なることを行うのは不安に思う生徒は少なくない。そしてそれはまた別なストレスを生む。そこでグループに入らず一人で課題を行っていることが目立たないよう One Drive の同時編集機能を利用することなどの配慮を考えた。加えて、両指導案にも記載があるが、語彙力をつけるためにスライドの利用は欠かせない。初めて情報科学コースで授業をした際、驚いたのは視覚情報に強いことである。ソシュールが定義したシニフィエとシニフィアンを外国語学習に応用して、英単語を覚える際にイラストを用いている。これは異なる言語間で、話し手がイメージを言葉に変換して伝えた後、聞き手がその言葉を母語に翻訳してからイメージに変換すると、シニフィエ→シニフィアン→シニフィアン→シニフィエに変換しなければいけなくなり、イメージ(シニフィエ)を伝える際に誤解が生じる可能性が大きくなってしまうためである。英単語をイラスト(シニフィエ)とともに覚えることで、母語に翻訳することなくシニフィエ→シニフィアン→シニフィエと短い道のりでシニフィアンを共有することができ、変換の際の誤差が小さくて済む。このように根拠を持って行っている帯活動だが、情報科学コースの生徒の成績が凄い。イラストと単語を結びつけて単語を覚えるよう練習を行ったところ、3分ほどの練習で95%の生徒が、英単語20語とイラストを正しく結びつける単語テストで100点を取っている。このようにICTの活用で見える新たな特長もある。

#### 5. 今後の指針

来年度からは高校一年生に新学習指導要領が適用される。評価の仕方が大きく変わるように見えるが、実際の変化は平常点のつけ方を明確に書き出すようになることで、負担は大きくない。しかし、他教科は内容のまとまりが単元とほぼ同等の意味を持つのに対し、外国語科はどの単元においても英語コミュニケーションであれば「読むこと」「書くこと」「聞くこと」「話すこと(やり取り)」「話すこと(発表)」の5領域、論理・表現においては「話すこと(やり取り)」「話すこと(発表)」「書くこと」の3領域となっており、これまでの評価とは角度が異なる。統合的に評価するにあたり、これまで以上に活動的な授業が求められる。活動的な授業は訳してしまえばアクティブラーニングとなってしまいそうであるが、同義ではないだろう。ICTの活用にもアクティブラーニングにもメリットとデメリットがあることは当然であり、ICTを活用すれば授業が洗練されるわけでも、相互学習を行えば生徒全員の学習意欲が上がるわけでもない。使うべきときに最大限の効果を発揮できるようこれら道具の使い方を学んでいかなければいけないのだと認識している。

#### 6. 参考文献

丸山圭三郎『ソシュールの思想』(岩波書店, 1981年)

#### 7. 謝辞

加藤雄彦 理事長・校長先生、常務理事 加藤聖一先生には恵まれた教育環境を賜り、心より感謝申し上げます。 また、阿部文男 教頭先生はじめ諸先生方には常日頃たくさんのご支援をいただき、加えて研究授業に際し教科 コンダクターの新谷仁先生には一からご指導いただき、ありがとうございました。

## (4) 外国語コースにおける韓国語課外活動報告

外国語コース 尹 惠靖

#### 1. はじめに

外国語コース学校設定科目の一つである韓国語では、以前から生徒の韓国語学習を評価するための韓国語試験の受験と習った韓国語を披露することができるスピーチ大会への参加、韓国の高校生徒との交流プログラムへの参加を奨励してきた。2021年度はコロナ禍にもかかわらず、生徒たちの積極的な参加により良い成果を出した1年であった。今回はスピーチ大会と交流プログラムへの参加について報告する。

### 2. 参加概要・内容

#### 1) スピーチ大会

#### ・東北弁論大会

仙台韓国教育院が毎年10月に主催するスピーチ大会で東北6県の韓国語学習者などが参加する。本校の生徒は2015年から参加し始め、毎年いい成績を取っている。

2021年度には2年生2名と1年生1名が参加し、銀賞と銅賞を受賞した。

#### ・「話してみよう韓国語」一青森大会

「話してみよう韓国語―高校生全国大会」の地域予選に当たる大会で、スキット部門とスピーチ部門がある。 スキット部門は地域予選で最優勝を取ったチームだけが全国大会に進出する。

2020年にはスピーチ部門に2名が参加しそれぞれ奨励賞と優秀賞を取ったが、2021年度にはスピーチ部門に2名が、スキット部門に2人1チームが参加した。本校の生徒としては初参加であるスキット部門で良い評価を得、全国大会への進出という快挙を上げた。

#### ・「話してみよう韓国語」 ―東京中高校生大会

「話してみよう韓国語―高校生全国大会」の地域予選に当たる大会で、スキット部門とスピーチ部門がある。 スキット部門とスピーチ部門で最優勝を取ったチームだけが全国大会に進出する。

2021年度に初めてススキット部門に2人1チームが参加し、優勝賞を取った。

#### ・「話してみよう韓国語―高校生全国大会」

駐日韓国文化院が主催する大会で、地域予選や予備審査を通った本選進出者は立命館大学のAO選抜ー文学部「国際方式」への出願資格が自動的に与えられる。

本校の生徒は2016年度の大会から参加し、多数の受賞履歴がある。受賞した生徒の中にはこの受賞履歴を活用し韓国の大学への留学や立命館大学文学部などに進学した。

2021年度にはスキット部門に「話してみよう韓国語」―青森大会で全国大会進出券を取った2人1チームとスピーチ部門に予備審査を受けた1名が参加した。

#### 2) 交流プログラム

#### ・対日理解促進交流プログラム 2021 (JENESYS 2021)

日本とアジア大洋州、北米、欧州、中南米の各国・地域との間で、対外発信力を有し、かつ将来を担う人材を招へい及び派遣、又はオンライン交流を通じ、我が国の政治、経済、社会、文化、歴史等の理解 促進を図るとともに、日本の外交姿勢や魅力等について積極的に発信 してもらうことで、日本への持続的な関心の増進に寄与することを目的とするプログラムである。応募校中、各都道府県から推薦された1校だけが参加できる。2021年度には宮城県から本校が参加を認められ、7名の生徒がオンラインで参加した。

#### 日時及び内容

2021年10月30日(土)14:00~18:00-あいさつ、オリエンテーション

11月6日(土)14:00~18:00—講義、グループごとに学校紹介などの交流

11月13日(土) 14:00~18:00—日韓理解の時間(両国PR動画)、未来への約束

※ コロナ禍により全てオンラインによる交流

#### ・日韓高校生交流プログラム

日本と韓国で共同開催された2002年ワールドカップサッカー大会成功を契機とした「日韓 共同未来プロジェクト」の一環として、日韓両国の青少年を通じて友好親善を一層深め、国際的 な視野と資質を持った青少年の

健全育成を図るための青少年交流を推進し、両国において、韓国語、日本語を第二外国語として勉強する高等学校生の相互交流を図ることを目的とする。日本は独立行政法人国立青少年教育振興機構(文部科学省委託事業)が、韓国は国立国際教育院国際交流協力部が実施機関である。本校から5名の生徒がオンラインで参加した。

#### 日時及び内容

- (1) 10月23日(土) 14:00~17:00 事前研修会 ※日本団のみ
- (2) 10月30日(土) 14:00~17:00 講義、自己紹介、学校紹介
- (3) 11月6日(土) 14:00~17:00 講義、グループディスカッション
- (4) 11月13日(土) 14:00~17:00 まとめ、全体

#### 3. 参加報告

- 1) スピーチ大会
- ・東北弁論大会







## ・「話してみよう韓国語」―青森大会













#### ・「話してみよう韓国語」一東京中高校生大会



#### ・「話してみよう韓国語―高校生全国大会」





## 2) 交流プログラム

・対日理解促進交流プログラム 2021 (JENESYS 2021)

生徒が制作した学校紹介動画



#### Zoom交流







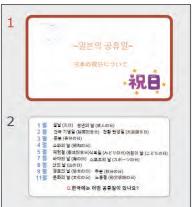


#### ・日韓高校生交流プログラム

#### 参加者5人の発表資料











#### ■氏 名:諸極璃音

■学校名・学年: 仙台育英学園高等学校 2年

#### ■今回の研修で印象に残ったこと(200字以内)

互いの国が、互いの国を知っていくにあたってサブカルチャーを通して学んでいることが印象深かったです。 質疑応答の際は、積極的に質問してくれてグループのみんなが日本に対して関心が大きくあるのだなと思いま 嬉しかったです。交流会の前に行われた講義の時間も、全てが大変興味深いものでした。特に、韓国での日本 の映画やドラマが公開される歴史についての講義が興味深かったです。

#### ■今回の研修で学んだこと (200字以内)

韓国の学生は、日本のアニメや音楽を通して日本語や文化を学び、同様に日本の学生も韓国のドラマや音楽を通して韓国語や文化を学んでいることがわかりました。特に韓国では日本のアニメ人気が根強く、日本は KPOP の人気が根強いことが今回の交流会を通してわかりました。また、稲川さんの講義で、日本のドラマや映画が公開されてゆく歴史がその時の日韓の関係に応じたものだったことに驚きました。

#### ■明日から取り組んでみたいこと (200字以内)

1つ目は、今回知り合った韓国の友達と今後も連絡を取り続けて関係を継続させたいです。

2つ目は、韓国語の勉強にもっと励み、語学の向上を図りたいです。

3つ目は、日韓の関係をより良いものにするために、世界的な視野を持ち日韓の架け橋になれるような人間に なれるように努力をしていきます。

#### 1年教室での参加事後報告



#### 4. まとめ

2021年度には、コロナ禍にもかかわらず生徒たちが積極的に韓国語課外活動に参加し良い結果を出した。 2022年度にも生徒たちの積極的な参加と良い結果を望み、教師として積極的なサポートをしていく。なお、 2021年度までは学習評価にもなる韓国語の試験への受験に消極的な対応をしてきたが、今年度からは積極的な 対応し良い成果を出すよう指導していきたい。

## (5) 英進進学コース ICT推進の取り組みについて

英進進学コース 五十嵐春祐

#### 1. はじめに

今年度も新型コロナウイルスの流行によるオンライン授業が昨年度同様に継続し、ICT授業の活用も更に創意工夫を加えたうえで進んだ一年でした。iPadの操作に慣れている生徒も多々見られるようになり、中には教員でも把握していない機能を使いこなす生徒も見受けられました。その中で、私たち教員の中でも得意不得意はあるため、人によってはICT活用が進んでいない場合もありますが、ICTのデジタル技術のみをやたらと使用していくのではなく、デジタル技術とアナログを必要に応じて使い分け、教員もそれぞれの良い点を教え、磨きあっていく必要があると考えています。

#### 2. 令和3年度ICT導入概要

英進進学コースでは1人1台端末としてiPadを昨年度に引き続き、新1年次へ導入しました。端末上で使用するAppも特に変更は実施せず、"MetaMoji"、"Zoom"、"Classi"のを活用しました。また、ZoomやMetaMojiの基本的使用方法の研修会も昨年度の使用例を含めて全学年教員対象に実施し、オンライン授業の実践力、授業力の更なる向上に努めました。

#### 3. 実態と成果

昨年度に引き続きオンライン授業を都度活用していくこととなり、Ownデバイス導入のされていない3年次においては生徒への連絡が行き届かないことや、生徒の授業参加状況が不十分である状況はありましたが、iPadを導入している1-2年次においては、ClassiやMetaMojiの活用により連絡の徹底や、お知らせプリントや提出物の配布回収を円滑に行うことができました。保護者からは「スケジュールや対応の変更連絡が迅速に行えたため助かった。安心して過ごすことができた。オンラインの際でも、押印が必要のない書類についてはMetaMoji上で提出できたので便利であった。」というような声が多数寄せられました。その一方で、Classi校内グループでは、生徒のiPad上に通知が届く初期設定にも関わらず、通知がならないように設定変更をしていたり、自宅に居る際にiPadへ触れていないという生徒もおり、電話とClassiの両方で連絡を取っているにもかかわらず応答がないというケースもありました。こちらについては、現代の情報化社会においては致命的なことにつながると考えているため、継続指導の実施が必要と考えています。

MetaMojiに関しては、使用する教員も増え、教員同士で使用方法の情報共有を実施している様子がよく見受けられ、さらに活用が進んでいると実感のできる一年でした。紙のプリントを配る代わりにMetaMoji上でデータ配信を行い、そこへ記入ができるため、オンライン授業が続いた今年度も様々な場面において役立つものとなっていました。特に探求学習の授業においては、グループ発表の際にZoomとMetaMojiを組み合わせることにより、自宅からの生徒と学校に居る生徒も交えて円滑な発表が実施できていました。



図 1-2 探求学習の発表におけるメタモジ画面

#### 4. 課題

今年度はオンライン授業の実施とOwnデバイスの活用がスムーズに進めることができた一年間でした。1年次においては非常に助かった一年間となりました。現在使用をしているClassiに加えて、来年度はSlackを全コースに導入することとなります。教科に関することや、その他のことなどにおいて、「教員と生徒」の会話のみならず「生徒同士」での会話もSlackを活用することでより活発に便利になっていくかと思います。しかしながら、便利であるからこそ、ルールーマナー・モラルー生まれ育った環境や文化の違い等を意識した利用や会話の仕方がより重要になってくるとも私は考えております。現状においても、緊急ではない内容のClassiメッセージを夜中に送信する生徒などがいます。情報化社会だからこその教育や指導の実施にも今後はより力を入れていく必要があるかと感じておりますので、来年度以降は教科指導やホームルーム指導の際に工夫をしていきたいと検討しております。

#### 5. 結びに

加藤雄彦理事長・校長先生はじめ仙台育英学園と取引いただいている様々な業者の方々のおかげで本学園内でのICT環境が今年もよりよいものとなり、コロナ禍二年目におけるオンライン授業実施にあたっても、創意工夫のされた授業等の提供をすることができました。このような環境構築をしていただき、今年度も教育に取り組めたことに心から感謝申し上げます。

これからも日々変わる情勢や環境に対応し、生徒へ迅速で丁寧な教育の場を提供していくことが不可欠かとは 思いますが、各コースの特色を生かしながらよりよい教育を提供できるよう、日々一教員として努力し、また他 の教員に対しても可能な限り技術知識を広めていきたいと考えています。

## (6)「総合的な探究の時間」におけるデジタル教材の活用について

フレックス・技能開発コース 佐藤 佳蓮

#### 1. 緒言

"新しい時代に対応する力"が求められる昨今の世界情勢において、当コースにおいては「総合的な探究の時間」に ENAGEED CORE vol.1 の教材を活用した教育活動を試行的に導入した。その効果を検証することで、当コース教育活動の改善に資するとともに、この場を借りてその内容を広く教員間で共有することで、今後の本校の教育活動をより一層発展させていきたい。「幸せな子を育てるのではなく、どんな境遇に置かれても幸せにはなれる子を育てる」。これを実現したい。幸せになれる素養というのは環境や境遇に依存するだけのものではない。後天的に身につけられる「力」の役割が多いといえる。つまりそれは、育てることができるものであるということである。『社会で活躍している大人や自分の生き方に良い誇りを持てている大人は、原体験として、学生時代に「想いある部活指導者の下で育った経験」や「能動的な感覚を得る機会があった」、つまりある意味、偶発的な環境に恵まれたことが要因として考えられる。このような「偶発的な環境」によってより良い人生があるのならば、その様な場面を共有し、機会均等を目指したい。:(ENAGEED CORE 冒頭部分引用)』。デジタル教材を活用したこのような環境の下で、「生きる力」を育てる、その取り組みについて紹介していく。

#### 2. ENAGEED CORE vol.1 【次の時代に求められる、人の力】

#### 2-1 実施概要

実施期間は令和3年8月(1回)、9月(2回)、10月(3回)、11月(2回)の計8回であり、多賀城校舎ウエストウィング2階2F3組教室、及びイーストウィング1階2K3教室にて、月曜日(総合的な探究の時間)や水曜日(LHR)を使用し、教材を用いた探究学習を行った。実施フローは、①導入・該当分野における動画視聴、②個人ワーク、③グループワーク、④発表、⑤担当者によるフィードバックである。対象生徒及び担当者は2F3組生徒(36名):佐藤佳蓮、2K3組生徒(38名):地崎大知である。

#### 2-2 探究学習のねらいと課題

2020年代を通じて「令和の日本型教育(:文部科学省)」の実現を目指すべく、"一人一人の子ども"を主語にして学校教育を進める動きが加速している。中でも、社会の在り方が大きく劇的に変わる「Society5.0時代」の到来や、昨今の新型コロナウイルスの感染拡大など、先行き不透明な「予想困難な時代」の到来といった文言を用い、社会的変化を乗り越える力の育成に注力している。この力はあらゆる他者を価値のある存在として尊重することや、多様な人々と協働することで育まれるとされており、文部科学省によって「個別最適な学び(ICTの活用)」と「協働的な学び(探究的な学習)」の2本の柱が打ち出された。これらの学びにより「主体的・対話的で深い学び」のシステムが構築されることで、自分のよさや可能性を認識し、豊かな人生を切り拓く、持続可能な社会の創り手の輩出が可能となるのだ。

一方でこのシステムの実施は、懸念材料も含んでいる。探究学習とは、生徒自らが課題を設定し、周囲の人と意見交換したり協働したりしながら解決に向けて情報を収集・整理・分析する主体的な活動を指す。その一方で、「評価の難しさ」や「指導内容やプロセス設計への不安」などの課題が存在する。結果的に探究授業の「実施」自体が目的になってしまう可能性が示唆されている。課題解決に向けて、次項目で詳細を紹介する。

#### 2-3 探究学習実施における課題の解決に向けた "ENAGEED CORE" の活用

ここでは、探究学習実施における課題を1.評価の観点、2.指導内容とプロセス設計の大きく2つに分けて取り扱っていく。

#### 2-3-1 評価の観点

ENAGEED COREでは、<学びに向かう力・人間性等>を評価する観点の例を挙げている。評価の視点は有能性・自律性・関係性・メタ認知・新たな問い・人間性の6つである。先に述べた3つはデシ(Deci, E.L.)が90年代、心理学実験をもとに提唱した視点で、後の3つは新学習指導要領「総合的な探究の時間」に求められる視点からの抜粋となっている。20世紀には、報酬をもらうことでモチベーションを上げるというスキナー(Skinner, B.F.) らが提唱していた行動主義が全盛期であったが、当時大学院生の心理学者であったデシは、好奇心旺盛な幼児が小学校に上がるとそういった好奇心が急激に下るのはなぜなのかと疑問に思い、研究にすすんだという。

やがて、スキナーらが提唱していた行動主義に反して、子どもへの報酬がかえってモチベーションを下げると考えた。その後、心理学実験による実証をもってスキナーらの、外発的動機づけに対し、内発的動機づけを提唱している。

ENAGEED CORE (指導書) においては評価基準に関しても、このあと2-3-2にて述べるVolごとに、時間単位で評価基準の例を示している。これは思考・判断・表現、知識・理解、学びに向かう力・人間性等の三つの観点についての評価の手助けとなる。(図1)

#### 本時の評価基準

評価の基準		具体の評価基準例	ループリック評価におけるAとする具体的な姿
育成を	思考·判断·表現	「総合的な探究の時間」の学び方や、未来について様々な角度から考察し、生 徒各自が気づいた問題を課題として設定させ、自分自身との関わりの中から、 多種多様な価値観を受容し、課題の解決に向けて発案し、実現するために必 要な情報の収集や協働する視点などを身につけるとともに、論理的に組み立 て、テキストや別紙(LEAF)にまとめ表現する力を身につける。	正解が無数にある間に対して、自分の価値観や 想いをしっかり書いている。
育成を目指す資質・能力	知識·理解	「総合的な探究の時間」に取り組む目的や身につける資質・能力について知り、 課題の発見と解決に必要な基礎的な知識・技能を身につけ、自身が気づいた 問題を課題として関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。	なぜ、「総合的な探究の時間」に取り組むのかを 知り、主体的に学ぶ姿勢、進路との繋がりの重 要性を理解している。
Ď.	学びに向かうカー 人間性等	「グループワークの3つのルール」を体現し、生徒各自が気づいた問題を課題として設定させ、主体的・協働的に学習に取り組むとともに、予測不可能な時代を生きていくために視野を広げ、自分自身の生き方や在り方を考える力を身につける。	「グループワークの3つのルール」を体現し、グル ープ内の意見・アイデアをまとめようとしている。

図 1

#### 2-3-2 指導内容とプロセス設計

ENAGEED COREにはグループワークをするときの3つのルールがある。①ポジティブフィードバック(ポジティブな反応)、②アクティブリスニング(あいづちを打つ)、③オーバーコミュニケーション(反応は大げさに)。ENAGEED COREでは、個人ワークのみの進行だけでなく、個人ワーク後に教員や友人とで意見を共有することが推奨されている。グループで共有する際に「恥ずかしがらず、自分の意見を言いやすい空気」や「意見を否定せず、肯定的にフィードバックする空気」を作れるか否かで授業の雰囲気が大きく変わる。したがって担当者はこのルールの徹底に努めた。(図2)

また、全体のストーリーも明確である。「課題感」をもって状況を理解し、あるべき状態を引き起こしていく。 Vol.1を例に挙げると、

Lesson00:私たちの暮らす社会が創られてきた背景には、人の「気づく力」「発案する力」「実現する力」があり、それらがこれからの未来もつくる。

Lesson01:社会が作られてきた背景には人の「気づく力」があることを理解し、「気づく力」を使うと自分自身や身の回り・社会を良くするための「問題」を見つけることができる。

Lesson02:問題を解決するうえで「原因」と「理想状況」が大切であることを確認し、「理想状況」を想像することができれば「どうすれば」という視点で適切なアイデアを発案することができる。

Lesson03:アイデアを実現するために「情報」の収集や、いかに「ヒト・モノ・サービス」を巻き込み、実現できるかを組み立てる視点を身につける。

以上のフローになる。

探究学習の時間にもストーリー性を与え、明確なねらいをもたせることで、終着点が定まり、効果的な学習が期待できるといえる。学習効果を上げ、探究学習を成功させる鍵となるのが「探究の基礎作り」であり、これは生徒と教員間の関係性(エンゲージメント)を強化するものであるが、ENAGEED COREを用いた探究学習の時間が①生徒同士の相互承認の場、②教員から生徒を承認する場と、将来なってほしい生徒の姿を伝える場となるように設計されて



図 2

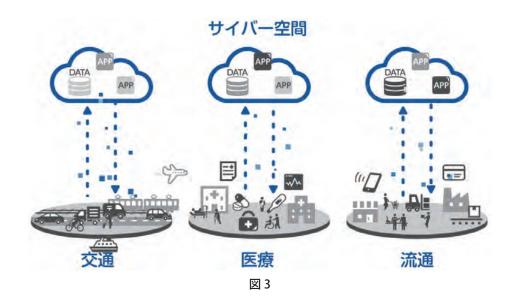
いる。生徒は「承認されている」を感じることでエンゲージメントや心理的安全性が高まることが期待できるので、この学習にふさわしい空間や理想的な空気作りをすることができると考える。

## 3. 新たな時代【Society5.0時代】の到来

探究学習を推し進めるうえで、理解する必要のある政策が、サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会(Society)を指し示す「Society5.0」である。

サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させるとは、現実空間のあらゆる情報を収集し、ビッグデータを人工知能が解析した後、高付加価値を現実空間にフィードバックすることを意味する。(図3)これは第5期科学技術基本計画のなかで、我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱されており、国内課題が増大・複雑化する今日の日本において、科学技術のイノベーション推進の必要性を大きく反映しているといえるだろう。人類はSociety5.0時代に到達するまでに段階的に様々な社会を構築してきた。

- ①狩猟社会(Society1.0)。
- ②農耕社会(Society2.0):人類はステージが上がったことで飢えからの脱出に成功し、自然の脅威もまた人々の絆を深め、「誰かのために生きる」という文化を形成した。
- ③工業社会(Society3.0):より早く、より遠くに、よりたくさん運ぶために、人類は「想像を形に」変えていくことに成功し、人々が膨らませる想像が技術を大きく発展させたといえる。「"生きるため"から"栄えるため"」という文化が形成された。
- ④情報社会(Society4.0): これまで築いてきた歴史には多くの挑戦と挫折があったが、人類は"観察する目"と"助け合う心"をもち、科学技術によって膨大なデータを蓄積できる文化を形成した。(図4)



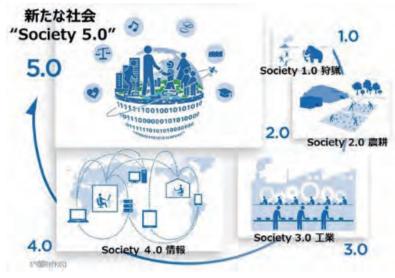


図 4

これに続く新たな社会が「未来社会」と称されるSociety5.0である。第5期科学技術基本計画の第1章では、 先見性と戦略性、そして多様性と柔軟性の意義について述べられているが、同計画2~5章で示された4本の柱 のうち、未来の産業創造と社会変革について述べられたなかに「Society5.0」という文言が登場する。このこと から国の打ち出す計画の中枢に位置し、大きな期待を背負う取り組みであるということがわかる。例えば渋滞や 事故のない、誰でも安全に移動できる社会、どこにいても最適な医療を受けられる社会、農業や漁業の生産を高 め、持続可能性を追求する社会、災害時の迅速な救助・避難情報が共有される社会等、持続可能で強靭な社会が 安全と安心を確保できるようになるのだ。人類がこれまで築き上げてきた経験と知識をENAGEED COREのフ ローを使用し再現することで、段階的に地球の未来を切り拓く人材を育成していく。

#### 4. まとめ

ENAGEED COREの活用は探究学習に効果があるといえる。この教材はPC、タブレット、スマートフォンからの利用が可能で(本学年は紙媒体での実施。Web版では、生徒1人1台の学習者用機器での学習が可能となる。さらに、新1年生ではENAGEED COREの導入が決定しており、Own PCを用いることが可能となる。)、学習の導入部分として、該当分野における動画視聴が新たな概念に触れる機会となる。個人ワークは課題の解決に向けた情報収集・整理・分析の場となり、グループワークによって多様な人々との協働を経験する。出し合った意見の発表を通じてあらゆる他者を価値のある存在として尊重することを学び、教員によるフィードバックから自分のよさや可能性を認識することができるようになる。このような段階的な経験の蓄積が新型コロナウイルスの感染拡大等、先行き不透明な時代の到来が見込まれる今日において、必要とされる力を養成していく。冊子(書き込み式)の完成を通じて、生徒の傾向や意欲を把握できる(Web版:意識変容・行動変容の記録により探求学習の効果を可視化可能)ことは、継続的に学習を進め社会的変化を乗り越えることのできる、対応力のある生徒を育てることにも寄与するだろう。

AI・ロボットが台頭する今日において、生徒には日々の気づきをきっかけに、「ゼロから1を生み出す力」や「行動を起こす力」、「他者視点で思考する力」を身に付けてほしい。膨大なデータに基づいて、確率の高い答えを導き出すAI・ロボットに対して、人間は一期一会の判断をすることができる。読解力や観察力を養えば、子どもたちは経験に基づいて自ら考え、課題解決をすることができるはずである。この教材の使用を通じて質の高い経験を蓄積し、現代を強く生き抜き、夢と生きがいをもち、ひとりひとりが社会に参加し続け、たくさんの幸せが実現できる社会を実現させられる人材が育成されることに期待する。

#### 5. 参考文献

内閣府ホームページ 内閣府ホーム 内閣府の政策 科学技術政策 ENAGEED CORE vol.1 高校:指導書

## (7) 保健体育科の観点別評価についての研究報告

技能開発コース 地﨑 大知

・科目:体育2 ・対象:2K1~2K4

・期間: 令和3年10月4日~12月17日 (3学期)

・担当:地﨑 大知

#### 実施内容

卓球の計画を立て、生徒に授業内容、評価課題、評価観点について説明。その後計画通り授業を行った。 学習カード、観察、スキルテストの結果をもとに、観点別評価をA~Cの三段階で行った。

#### 評価課題

- ・技術の練習(観察)
- ・自己や仲間の動きを比較し、成果や改善すべきポイントの分析(学習カード、グループワーク)

#### 実施を終えて

良かった点として、成績のつけ方を生徒に提示し、説明することで生徒は普段の体育の授業に比べ積極的に取り組んでいたように感じた。観察している中で、教員が声をかけ助言することにより、競技の技術レベルの向上にもつながったと考える。

競技の技術レベルの向上に伴い、より上達するためにどのようにすればよいか考え、主体的に取り組む生徒が多くいた。

次に改善点、反省点として、学習カードの使う場面やグループワークを行う場面をもう一度考える必要がある。 今回は練習を行った後に、試合を行い、練習の成果や改善点について話し合い、お互いの意見をまとめる際に 学習カードを使用した。この時にどうしても専門的な知識が必要になり、中学、高校で運動部に所属してこな かった生徒や、スポーツに対して知識があまりない生徒は難しい内容であったという印象を受けた。

生徒は、授業に対しては積極的に取り組んでいたため、学習カードの使い方や内容、グループワークを行う場面をもう一度考え直す必要があると感じた。

4月から観点別評価が始まり、体育での実技科目の授業の内容や進め方など変えるところが多いと感じた観点 別評価の試行であった。 時間制のスキルテスト 失敗した場合、再チャレンジ 男女別の設定

作成者 地崎 大知 学校番号107 学校番号107 学校名 仙台育英学園高等学校 [新学習指導要領を踏まえた「単元の指導と評価の計画」について】

単元の目標

体育 第2学年 「卓球」 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開できるようにする。 (1)ゴール型では、安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができるようにする。

知識及び技能	(1)コール型では、 (2)ネット型では、 (3)ベースボール型	では、女正したホ-では、役割に応じ7	ホール雑作と望 じたボール操作 定したバット操	知識及び技能 (U.)コール型では、安定したホール架作と空間を作りたすなどの動きによってコール町への侵入などから攻めをすることができるようにする。 (2)ネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができるようにする。 (3)ベースボール型では、安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と連携した守備などによって攻防をすることができるようにする。	との動きによう の操作と連携し 撃、ボール操作	ってゴール別へ した動きによっ 作と連携した守	製さによってゴール町への食人などがつ交別をする 作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防 ボール操作と連携した守備などによって攻防をする	女写をするい さぐる女防を- 女防をするい	いとかぐゃるよう をすることがぐき ことができるよう	るようにする。 ができるようにする。 るようにする。		
思考力、判断 力、表現力等		攻防などの自己やチームの課題	を発見し、	合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、	<b>うけて運動の</b> 取	双り組み方を工ラ	夫するとともに、		自己や仲間の考えたことを他者に伝える	<b>也者に伝えるこ</b>	ことができるよう	うにする。
学びに向かう ナ 人間 4		球技に自主的に取り組むととも ナ切にしょうとするアメーロい	に 日 日	ともに、フェアなプレイを大切にしようとすること、 DIハー町は合い教え会ならアースアアながみ(韓康・	こしようとする	いて、価値・	作戦などについての話合いに貢献しようと、 安全を確保することができるようにする	合いに貢献しよ できるようにす	しようとすること、 にする	l	一人一人の違いに応じたプレイなど	イなどを
は世界	6	,	3 12 2	4		KH	7	`	o	10	11	は 単心 くこの ボイント
0	1	1	)	健康観察		***	:の目標 · 内容:	等の確	,			
		①ラケットの	①フォアハンド	①フォアハンド練習		サーブ練習	ツッツキの	試	試合の成果や	各自改善点	スキル	各生徒が主体的にどの
10	) I 3   II 3   I 4   I 5	握り方	2人組ポール1個	2 人組でのラリー練習	一業四	アツーブ練習	練習	ďП	改善点	の練習	テストの	時間も取り組めるよう
	/ H / H / B	②感覚を掴む	ボールを上から	フォア対フォアでラリーを	でラリーを		フォアハンド	巢	(話し合い)		松	場の設定や声掛けをする
20		練習 (基本)	裕とサッパウンド	雑続さける				Ħ			サーブ⇒	
	健康・安全な知識	2 人組交代	相手コートへ								ラリー	課題の発見から改善まで
30	確認	ボール 1 価	②バックハンド	②バックハンド練習	、練習	サーブからの	ツッツキの	ψ	スキルテスト	スキルテスト	フォアハンド	のプロセスを挑戦させる
			2 人組ポール1個	2 人組でのラリー練習	- 練習	ラリー練習	練習	λ	の練習①	の練習②	バックハンド	
40	台の取り扱いの説明	月 ③感覚を掴む	ボールを上から	バック対バックでラリーを	でラリーを		バックハンド	Ž			A:30回以上	
	用具管理について	練習(基礎)	淋とす⇒パウンド	継続させる。				i i			B:10回~29回	喜びや楽しむ気持ちを
90	ネット張り方	2 人組交代	相手コートへ					К			C:10回未谢	持てるような支援をする
					整理運動		本時の振り返り					
由	1	2	3	4	9	9	7	8	6	10	11	授業づくりのポイント
知	1										終年的た	観察
技				②	(2)	①	②				46, E H II F 500	観察
歐								(I)	Ð	(3)	亚畑	学習カード
態		3	①			(2)		(I)			<u> </u>	観察
知	①技術や戦術	①技術や戦術には名称があり	,	それらを身に付けるためのポイントがあること、	ポイントがある		それを活かすための方法を理解	法を理解している	,8,			
	①サービスで	①サービスでは、ボールをねら		った場所に打つことができる。	2°							
枚	②ボールを相	②ボールを相手側のコートの空		いた場所やねらった場所に打ち返すことができる。	丁ち返すことか	できる。						
	③ゲームに必	③ゲームに必要な技術を関連さ		せた部分練習を繰り返したり、継続して行ったりすることで、	リ、継続して行	テったりすること		結果として体力を高めることができている。	ことができて	. 20		
	①ルールを守	①ルールを守り競争したり勝敗		を受け入れたりする場面で、		よりよいマナーや行為について、		自己の活動を振り返っている	: W.Z.			
₽Ę	②自己や仲間	②自己や仲間の動きを比較して	,	成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。	トとその理由を	- 仲間に伝えてい	. 2%					
	③学習成果を踏ま	えて、	自己に適した「する,	5, みる, 支える,	5, 知る」なと	ごの運動を継続[	知る」などの運動を継続して楽しむための関わり方を見付けている	の関わり方を見	はけている。			
31 40	①相手を尊重	①相手を尊重するなどのフェア		なプレイを大切にしようとしている	している。							
ě	②主体的、積	積極的に取り組も	らうとしている。									

学習の流れ

評価機会

単元の評価基準

# (8) 数学の授業における教材への取り組み・・・数学検定講座について

フレックスコース 雫石 利光

本校では、選択教科目の中に学校設定科目があり、各種検定試験対策に取り組んでいる。

漢字検定、日本語検定、書写技能検定、英語検定など多種多様な選択科目群である。ほかにも、マイクロソフトオフィス講座や、ビジネス系検定(秘書検定など)などにも生徒の関心は高く、公立高校では設置は難しいと思われる科目も少なくない。

数学科も例外ではなく、数学検定(日本数学検定協会主催)取得を目標に、『数学検定講座』を1・2年に設置している。現在、私はフレックス・技能開発コースの授業を担当しているが、数学を苦手とする生徒も多く、そのような中で、資格取得に向けて取り組む姿勢を持った生徒が多いことは救いである。今年度は、1・2年生の授業を担当してきたが、数学検定では数学的な見方・考え方を前面に押し出した出題もあり、指導に苦慮しているのが現実である。

数学検定3級問題の例(平成29年10月21日実施の問題)

3 - 2 - 6図1のさいころは、1から6までの目がある一般 9 図 1 的なもので、向かい合う面の目の数の組み合わせが 後ろ側の 左側の (1と6), (2と5), (3と4) の3組あり、2つの 目は,6 目は, 数の和がいずれも7になっています。 これをヒントにして、 はるとさんとあゆみさんは、 下側の 向かい合う面の数の積が3組いずれも等しいさいこ 目は ろをつくることにしました。6つの面の数をすべて 図2 異なる正の整数とするとき、次の問いに答えなさい。 12(19) はるとさんは、図2のような立方体の展開図をか 7 き、向かい合う面の数の積が12になるさいころを 6 つくることにしました。このとき、ア、イの面にあ てはまる数を答えなさい。 3 (20) あゆみさんは、図3のような、向かい合っていな い3つの面の数が1、3、5となっている未完成の さいころを完成させることにしました。これを使っ 図3 て、向かい合う面の数の積が100以下で等しくなる ようにするとき、このようなさいころは全部で何通 りできますか。 H, 29 10, 21 236

もう少し具体的に書くと、本コースの数学検定対策講座では、3級、あるいは準2級を目標設定としている。 今年度は、準2級計算技能検定(1次検定)に複数名合格したが、現在のコースではきわめてまれである。

さて、よく知られているように、数学検定では、2次検定で応用問題が出題される。この問題は、通常教科書で学ぶ内容とは大きく異なり、指導上の関門である。その指導に資するような教材・テーマを見つけることは容易ではない。しかし、視点を変えれば、いろいろなテーマが考えられる分野でもある。以下に述べる内容は、そ

の授業で扱った一部で、和算に関係したテーマも含まれているので、簡単に紹介したい。なお、指導教材は、インターネットや書籍から見つけたものを、少しアレンジしたものである。また、数学Aの授業で紹介した内容も ふくまれている。

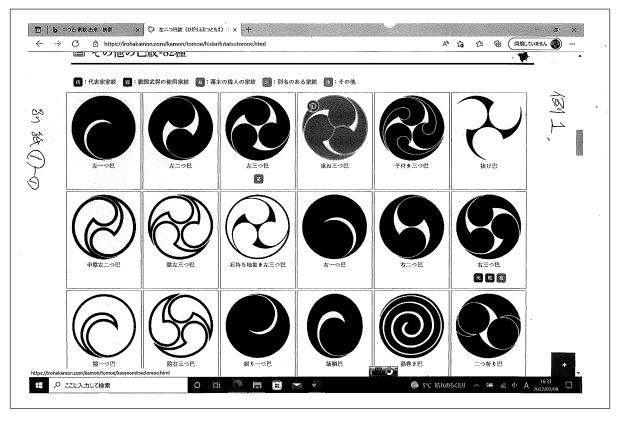
今年度の数学検定講座の授業で取り上げたものを簡単に紹介したい。

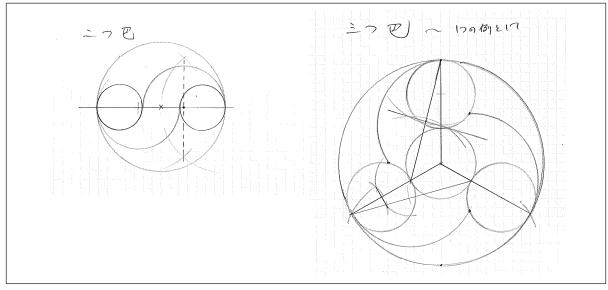
- 1) 家紋などにみられる特殊な図形と面積
- 2) 折り紙を使った図形と計量
- 3) 油分け算など、条件設定を変えることで応用が広がる話題について
- 4) 和算から外れるが、パズル的な問題(ハノイの塔、魔法陣、虫喰い算)
- 5) 数学的な見方考え方を使って解答できるいろいろな問題例
- 6) 和算の問題にみられる課題

#### 指導実践例

1) 図形の面積を求める問題(定期考査問題から)…二つ巴、三つ巴など

二つ巴は定番(小学校高学年)の面積の問題である。しかし、三つ巴になると難易度が格段に上がり、初等的な解法では難しいレベルである。

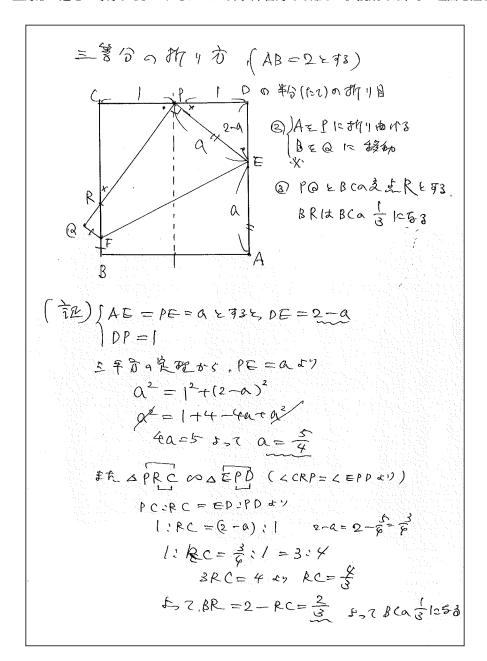




#### 2) 線分の三等分と折り紙、面積の二等分、その他

これらも、和算に限らず、取り上げられる分野である。線分の三等分は、自分ではできず、インターネットから解法を探した。なお、教員採用試験(宮城)でも出題されたことがあるやに聞いている。レベルは相当に高い。現在の生徒の実態に合わせ、次の手順で状業を実施した。

- ① 正方形の折り紙から、正三角形を折る。
- ② 同じく、面積が半分の正方形を折る。
- ③ 正方形を正三角形に作り替える(こちらは、デュードニーの問題として有名な手法、切り貼りが必要である)。レベルは高く、指導に限界もある。
- ④ 正方形の辺を三等分する。これもレベルは高く、自力では難しい。授業では、その理由を証明してみた。



#### 3)油分け算と、体積に関する応用問題

醤油や酒を分ける古典的和算問題である。通常、7合枡と3合枡を使って、5合を図る問題である。古い映画だが『ダイハード2』でも取り上げられた。映画では、液体の体積の単位は『ガロン』であった。この問題には、インターネットでは視点を変えた別解が紹介されていた。生徒の関心を引くと思われる。手順は次の通り。

- ① 7合枡を傾けて、3.5合を計る(真横から見て45度になるように傾ける)。
- ② 次に、3合枡を同じように傾けて、1.5合を計る。
- ③ ②で計った分を7合枡に入れる。

また、授業では、1.8%枡を使って0.3%(6分の1)や0.6%(3分の1)を計る方法も紹介した。

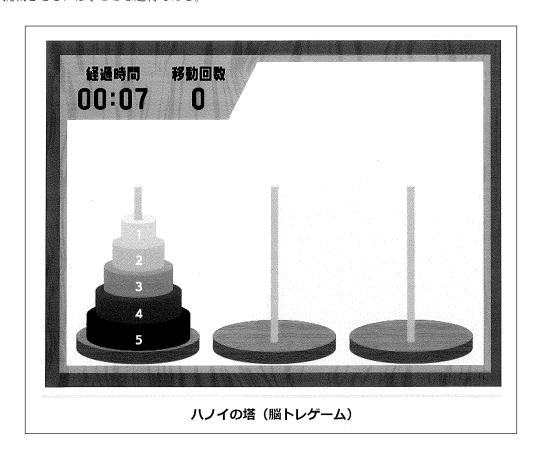
- 4) 魔法陣も話題になる定番問題であるが、アプローチを変えて指導した例を挙げてみたい。これは、直接の関係ないが、鳩の巣原理からヒントを得た手法である。
  - ① 1列・1行の計が15であることを確認する。
  - ②  $1 \sim 9$ までの数字で3つを使って計が15になるものをすべて書く。

例:1,5,9 1,6,8 2,4,9 2,5,8 2,6,7 ・・・・・すべて書きだす。

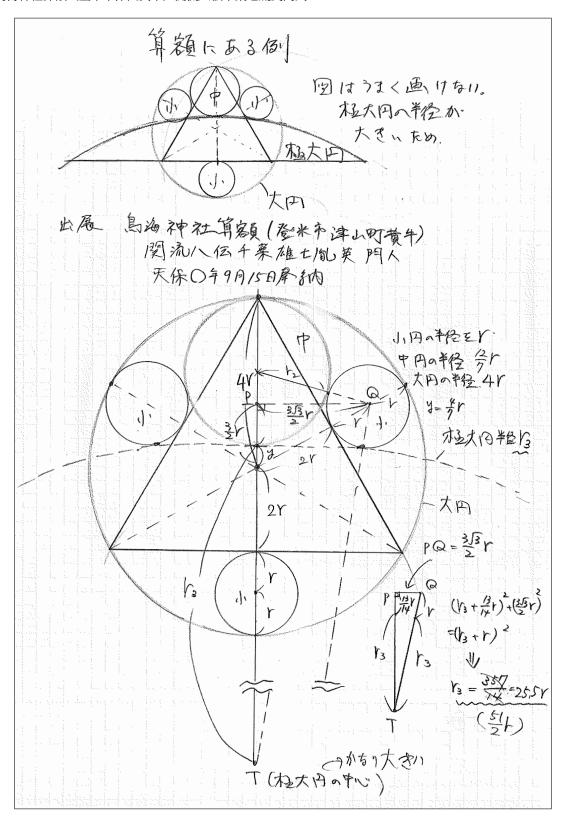
魔法陣の中央は、縦横斜め4回現れる。②で4回現れる数字を確定。

- 続けて、正方形の角の数字は3回現れるので条件を満たす数字を確定。
- ③ 残りは、簡単な計算で埋めていくことができる。

また、数列の定番である『ハノイの塔』も、フリーソフトの動画を使って紹介した。本校では、数学Bはまだ履修していないので、理解させるには難しい内容であったが、パソコンで簡単に操作でき、生徒に挑戦させるには手ごろな題材である。



- 5) 日常の中で、数学的な見方考え方のありがたみは実感できないように思いがちである。しかしながら、高校教員としては、生徒がその誤解を改めてくれるような刺激を与えたいとの思いも強い。そのような題材を探していた時、たまたま目にしたのが、『解きたくなる数学』(岩波書店)である。インターネットで紹介があり、すぐに本校の多賀城図書質に購入を依頼、速やかに買っていただいた。まだ読んでいない先生は、是非一読していただきたい本である。鳩の巣原理や、図形の分割など、発展性が多い内容である。私が特に目を引かれた項目は、対象でない図形の面積等分であった。詳細は、上記の本をご覧いただきたい。
- 6) 最後に、和算の問題を取り上げたい。資料は、宮城県和算研究会(現在、角田高等学校の山岸圭太先生が 代表)から提供された。



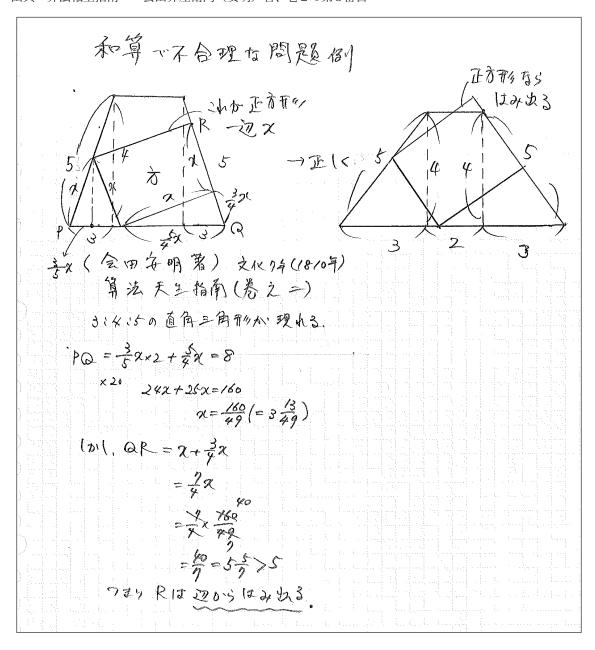
詳しい計算は省略するが、相似三角形を繰り返し使い、長さを求めてみた。

小円の半径をrとして、中円の半径は12r/7、大円の半径は4r、外側の最大円の半径は51r/2となった。最小円の半径の25.5倍であり、正確に作図をしようとすると、算額に書かれている図とはかなりのずれが生じる。

和算では、出題図と正確な図ではずれが大きく、そのために間違いが見逃されることもあるらしい。

その例を示そう。以下の問題は、和算の教科書の問題について、私が疑問を持ち検証したもので、和算研究会にも報告し、それを宮城教育大学の萬伸介名誉教授が論文に整理されたものである。

平成30年の和算研究会で萬先生が発表された元になった(雫石も共著の形にしていただいた)。



資料を見ると、正しい解答に見えるが、この結果を等脚台形の斜辺に当てはめると、はじめの条件より長くなり、不適となる。なぜ、このような不都合が生じたのか、原因は図の不正確さにありそうである。そもそも、この問題の解答に疑問を持ったきっかけは、3:4:5の直角三角形でこんな作図にはならないだろうという点にあった。先ほどの問題と同じく、図の正確性を尊重しない(もしくは、形のきれいさや対称性を重視した問題を作ることに重点が置かれるような)風潮があったのだろうか。

近代のヨーロッパなどの数学との大きな違いであり、和算が実用的な科学の一分野として一般的な認知を得られなかった原因でもあるように感じる。この題材は、和算の教科書として著名な図書からの出展であることを考えると、学習者に大きな影響を与えてしまったのではないかとの感想を持たざるを得ない。 先生方のご意見を伺いたいところである。

#### 参考資料

- 1) 『解きたくなる数学』(岩波書店) 佐藤雅彦、大島遼、廣瀬隼也著
- 2) インターネット出典 『脳とれげーむ ハノイの塔』https://www.p-game.jp/game237/他
- 3) 正方形を正三角形に https://oshiete.goo.ne.jp/qa/2668653.html
- 4) 折り紙の三等分 https://jintanosite.com/otokujyouhou/mituoriorikata.html
- 5) 『算法天生指南巻二 第8間の不都合について』 萬伸介、日本和算研究会発表資料
- 6) 家紋にみる図形 『家紋のいろは』https://irohakamon.com/kamon/tomoe/migimitsutomoe.html

## Ⅱ 令和3年度 研修報告

## 外国語コース 第2年次 松島SDGs探究研修報告

外国語コース 岩渕 奈央

#### 1. はじめに

今年度の外国語コース第2年次は、松島にてSDGs探究研修を実施いたしました。これまでにない試みとして、校外で実際に「SDGs」「(Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標))」に関する身近な問題を見つけ、その問題について私たちはどのように取り組むべきか学んでまいりました。

外国語コース第2年次は普段から探究学習の授業に力を入れており、LHRの時間には2年G1組からG3組までのレギュラークラスの生徒をクラスに関係なくランダムに5人から6人のグループに分け、1グループにつき SDGsの目標項目1つを指定して与え、問題から解決法まで自分たちで考え、話し合い、発表し、評価し合うという活動を繰り返し行ってまいりました。それらの発表の際に生徒たちが取り上げる国はほとんど日本以外のもので、生徒たちにとってSDGsはどこか他人事、日本以外の国や地域が目指すことだと考えている印象を持ちました。そこで、この研修を通して自分たちの周りでもSDGsを感じることができるということを学ばせたいと思い、今回の研修を企画・実施いたしました。また、外国語コースでは例年ハワイ研修やスプリングチャレンジ、オータムチャレンジ等の行事が実施されていましたが、ここ数年は新型コロナウイルス流行の影響でそれらの行事を断念せざるを得ない状況にありました。生徒たちが行事を切望していたこともあり、生徒たちの受験や将来に役立つ行事を行えないか検討した結果この行事を実施するに至りました。

#### 2. 研修日および参加人数

研修日:2021年12月9日(木)

参加者: 2年G1組26名

2年G2組16名+未来日の留学生1名(オンラインにて)

2年G3組28名、計70名(+1名)

引率者:岩渕奈央、下浅雄大、鈴木杏子、近藤希美(副担任)

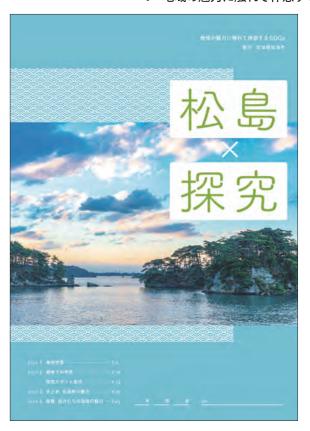
#### 3. 研修目的

- (1) 自分たちの周りにあるSDGsについて知り、解決策を探る。
- (2) 日本伝統文化の授業で学んでいる茶道を体験する。
- (3) 松島の歴史的建造物に触れ、歴史や文化への理解を深める。
- (4) 松島で清掃活動を行い、奉仕活動を体験する。
- (5) グループ活動・集団行動を通してルールを守り、生徒と教員の親睦を深める。
- (6) 研修でお世話になる方々との交流を深め、感謝の心を身につける。
- (7) 互いに協力し合い自主研修の計画を立て、実行、振り返りを行う。

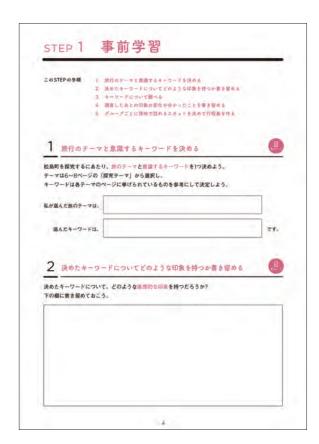
#### 4. 事前研修

11月より、LHR等を利用してグループ分けや事前研修を行ってまいりました。事前研修においては松島町産業観光課観光班の方と連絡を取り合い、宮城県松島町が発行している「地域の魅力に触れて体感するSDGs」や、せんだいタウン情報S-styleが発行している「松島気まま 週末ふらっと 旅」の冊子を参考にして自主研修の行程と松島が抱えているSDGsについて考えました。また、全クラスをZoomで繋ぎ、今回の研修の目的と成果物発表の方法とまとめ方について説明しました。

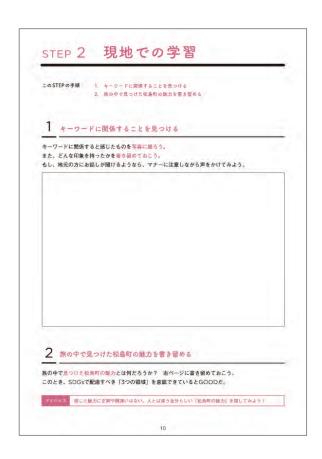
#### <「地域の魅力に触れて体感する SDGs」の冊子の内容の一部>



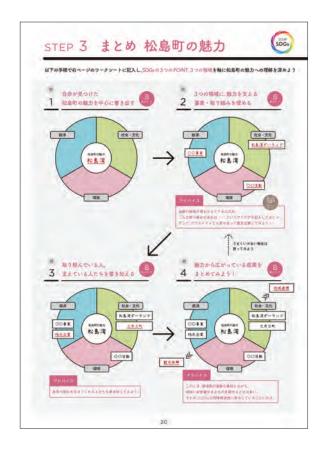










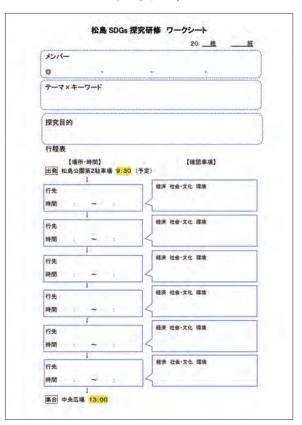




#### <「松島気まま週末ふらっと旅」の一部>

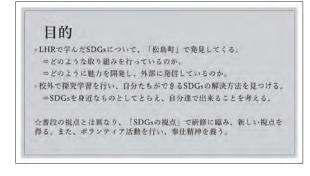


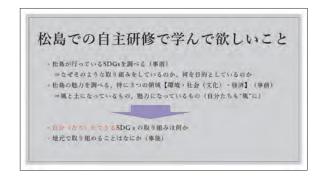
#### <ワークシート>

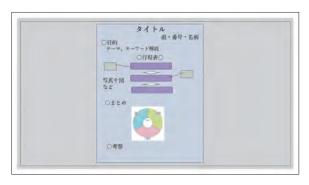


#### <事前研修のスライドの一部>









## 5. 研修行程

	2年G1組	2年G2組	2年G3組
8:50		学校集合・出発式	
9:10		学校出発	
9:30 松島到着			
9:30 ~ 10:30	観瀾亭で茶道体験	自主研修	自主研修

	2年G1組	2年G2組	2年G3組
10:30	自主研修	観瀾亭で茶道体験	自主研修
~ 11:30			
11:30	自主研修	自主研修	観瀾亭で茶道体験
~ 12:30			
12:30	自主研修	自主研修	自主研修
13:00			
13:00		クラス写真・全体写真撮影	
13:30			

福浦島で清掃活動 13:30 14:00 松島出発 14:10 学校到着 • 解散式 14:40

観瀾亭では、新型コロナウイルス感染対策のために3クラスに分かれて茶道の体験をさせていただきました。 松島の海を眺めながらいただくお菓子とお茶は格別でした。観瀾亭での茶道体験以外の時間は各クラス各班で自 主研修を行い、事前研修で立てた予想と現状がどれほど合致しているのか、相違しているのか調べました。のち に成果物の発表会があることから、生徒たちは実りある研修のため冊子を片手にメモを取ったり、地元やお店の 方にインタビューを行ったりして忙しく動き回っておりました。

自主研修後には一旦全員で集合し、各クラスの集合写真と全体の集合写真撮影を行いました。これまで行事等がなく記念撮影もなかなか行えない状況だったため、写真に写る生徒たちの表情は非常ににこやかで楽しんでいる様子が窺えました。

その後、全員でカフェ・ベイランドへ徒歩で移動し松島町産業観光課観光班の方と合流して、福浦島の清掃にあたりました。少々風があり肌寒い日ではありましたが、火鋏とゴミ袋を手にグループの仲間と協力して清掃活動に精を出しておりました。中には貝殻を大量に拾った生徒たちがおり、松島町産業観光課観光班の方から「貝殻を踏んで怪我をする人がいるので助かりました」とのお声をいただきました。

限られた時間の中での松島 SDGs 探究研修ではありましたが、生徒たちは全力で研修の全行程に参加していました。

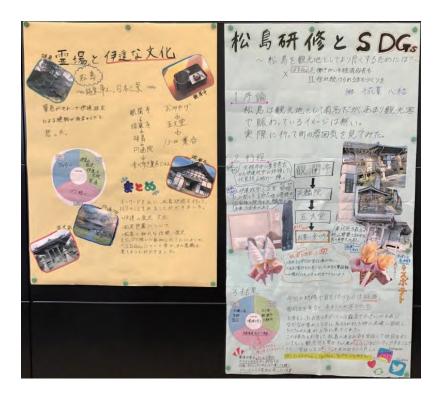
#### 6. 研修成果発表

今回はポスターセッションで研修成果発表会を行うことにしていたので、研修後はLHRの時間を利用してグループ毎に今回の研修で学んだことを話し合い、その内容を模造紙にまとめました。相手に伝えたい必要な情報を取捨選択しながら模造紙1枚に描き進める作業は生徒たちにとって少々工夫がいるもので、中には放課後も残って作業を続ける熱心なグループもありました。そのようにして何度か作業を続け、冬期講習2日目の12月21日(火)に成果発表会を行うことができました。全クラスをZoomで繋ぎ、プロジェクターに模造紙を映しながら3クラス22グループの発表を行いました。自分のグループと同じSDGsの目標について研修したグループがどのようにその問題・解決法にアプローチしたのか客観的に評価し学んでもらうために、以下のような評価シートを準備しました。生徒たちは各々発表者を慮った評価を行うことができていました。

#### <生徒たちのポスター>

















#### <発表会の生徒の様子>





#### <ポスターセッション時の評価シート>



#### 7. 最後に

今回の「外国語コース 第2年次 松島SDGs探究研修」において、突然の企画にも関わらず実施のご許可をくださり生徒たちに貴重な学びの機会を与えてくださった加藤雄彦理事長校長先生に心より感謝申し上げます。また、授業の日程調整にご協力をいただいた先生方、快くシャトルバスを運行してくださり保険の手続きにもお手伝いいただきました伯山交通株式会社の皆様、今回の研修にご理解とご協力をいただきました全ての方々に御礼を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

昨今の大学入試方法はバラエティーに富んでおり中には探究学習の内容を重視する大学も増えていることから、生徒たちは身をもって「探究学習とは何か」ということに向き合い、取り組み、気づきの多い研修になったことと確信しております。生徒たちの受験はもとより将来において今回の研修が役に立ってくれることを期待しております。

生徒たちが地球市民の一員として「SDGs」「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」を一つでも多く達成できますように、今後も一緒に頑張ってまいりたいと思います。

## Ⅲ その他

## 各教科教育センターのブラッシュアップについて

英進進学コース 金澤 瞭

#### 1. はじめに

2020年1月ごろから新型コロナウイルスの流行により、対面授業からZoomを用いたオンライン授業が増加し、授業形態が大きく変化した。教職員にはSurfaceが導入され、英進進学コースの生徒にはiPadが各1台ずつ支給されている。また、各教室にはプロジェクターが完備されICTの環境が整備されている。現行の学習指導要領が新学習指導要領へと移行し、育成する能力が変化した。今回は数学科ブラッシュアップの研修内容について紹介する。

#### 2. 研修目的

- (1) 公開研究授業により教員の授業力向上に資する
- (2) 次年度の入学生から年次信仰で実施される高等学校の新学習指導要領を見据えて、生徒が主体となったアクティブラーニング型の課題解決学習、ICTの活用などの授業方法の実践研究を行い、研究協議や大学教授などの派遣講師の指導により、各教科担当教員の「授業改善」と「授業力向上」を図る。

#### 3. 研修内容

#### ① 公開授業

実際に公開授業を通して新たな気づきを得ることができた。行われた授業内容は「身の回りから数学を見つける」というグループでの活動を通した生徒が主体となる授業を行っていた。グループ学習を取り入れることにより、他者とのコミュニケーションが重要となってくる。そこでは自分ひとりでは気づくことのできなかった新たな気づきを得ることができ視野の拡大につながると考えられる。また、教師から生徒へ知識を教えるだけではなく生徒が自ら考えることで思考力を鍛えることも可能だと考えられる。

② 新学習指導要領の考え方について

現行の学習指導要領から新学習指導要領では変化した点が多く存在する。その中でも数学的活動に対して着目していく。

現行の学習指導要領では数学学習に関わる目的意識をもった主体的活動と明記されている。一方、新学習指導要領では事象を数理的に捉え、数学の問題を見いだし、問題を自立、協働的に解決する過程を遂行することと明記されている。大きくまとめると数学的活動とは現行学習指導要領では問いを持つこととされていたのに対して、新学習指導要領では自立解決(思考を深める)・協働的解決(直接対話)・思考錯誤(粘り強い取り組み)へと変化している。

#### ③ ICTの活用

ICTを活用する際の一般的なポイント

- ・新たに問題を設定する場面(ある問題から新たな問題に問題を発展させることを含む。)
- ・問題の意図を明確に理解させる場面。
- ・試行錯誤しながら問題を解決する方法を見いだす場面。
- ・ICTを活用して得られた結果から、そのような結果になった理由を共有しながら考察する場面。
- ・ICTを活用して論理的に得られた結果を具体的に確認する場面。



#### 4. まとめ

今回のブラッシュアップ研修に参加することで新たな気づきが多くあり、勉強になりました。新学習指導要領の考え方に沿った、育成する力を明確にし、授業力の向上に努めてまいります。また、ICT機器のさらなる活用を行い、対面での理解しやすい授業だけではなくオンライン授業でも質の高い授業を展開するために、私たち教職員もより一層ICT機器の使用スキルを高めてまいります。今回このような研修の機会を与えていただきありがとうございました。

## 総目録(第1号~36号)

1006728 #45	T 存任证据人 证据进序)。台口100
1986年3月 第1号	Ⅱ. 各種研修会・研修講座に参加して
巻 頭 言加藤 昭	・第13回米国における社会研修講座に参加して・・・・39
1 夕年1160人 7166钟序)- 分与1 マ	沢田 敏明
I. 各種研修会・研修講座に参加して	・英語教師のための夏期セミナー講演会報告42
・全国私立中高全国私学教育研究集会・・・・・・2	山田 昇
第33回 全国私立中学高等学校	·第24回全国私立中学高等学校
全国私学教育研究集会山口大会参加報告(1)	保健体育科研修会に参加して・・・・・・・50
柏倉 拓	阿部 俊英
全国私学教育研究集会山口大会参加報告(2)国語部会	·第28回全国私立中学高等学校
-新学習指導要領における文学教育- 青野 宏一	理科(生物)研修会に参加して・・・・・・52
人口红土中宁口咖啡大竹板人 7	今野 良裕
・全国私立中高国際教育研修会・・・・・・7	・第1回全国私立中学高等学校
第7回全国私立中学高等学校	ニューメディア教育研修会に参加して・・・・・・54
国際教育研修会に参加して 教諭 宝槻 隆史	瀬戸 信男
笠10日「火団ンセルトフも人工板建立」 10	W 现在01左座晚日开放人
・第12回「米国における社会研修講座」・・・・・10	Ⅲ. 昭和61年度職員研修会
第12回アメリカ社会研修講座に参加して	<ul><li>・授業研究・各科研究会 ・・・・・・・・・・・59</li></ul>
副題日米社会の相違と文化摩擦 佐々木 豊	国語科研究会報告 遺水 満雄
<b>第7日「紅光のが伏せて掛日の理板建成」 10</b>	社会科研究会報告 渡邊 泰伸
・第7回「私学の新任若手教員の研修講座」・・・・・12	数学IC不等式の表す領域 中川 良雄
第7回私学の新任・若手教員研修講座に参加して	代数幾何学習指導案 渡部 進
渡部進	数学科研究会報告 中川 良雄
	理科 I 学習指導案 砂沢 準助
・「名取平野の文化財」史跡見学会の記録より・・・・14	英語科研究会報告 宝槻 隆史
渡邊 泰伸	芸術科研究会報告 安倍 一男
T TTT 00 欠 皮肤	情報処理 I(BASIC) 小林 慶三
Ⅱ. 昭和60年度職員研修会	佐々木一郎
・授業研究・各科研究会·································27	保健学習指導案       佐々木松治
国語科(現代文)学習指導案 遣水 満雄	Ø # W ⊃
社会科(日本史)学習指導案 駒板 泰吉	編集後記
数学科(数学 I)学習指導案 乾 敬	
数学科学習指導案 鈴木 製治 サル・カー	1000538 \$38
理科学習指導案 丸山 実信	1988年3月 第3号
TEACHING PLAN  By Akiyoshi Ohmi	巻 頭 言加藤 昭
情報処理科研修のまとめ	I Tillede
公開授業 教科:ベーシック	I. 研究
担当者:野村コンピューターシステム(株) 西村 昌郎 保健体育科柔道学習指導案 佐々木 豊	・仙台市安養寺下窯跡・・・・・・・2 渡邊 泰伸
芸術科研修のまとめ	研究発表
ケラ (年 ) 公 (計	・大学入試に取り扱われたカテナリー・サイクロイド・ インボリュート曲線について22
編集後記	
	鈴木 弘
1987年3月 第2号	Ⅱ. 各種研修会・研修講座に参加して
巻 頭 言加藤 昭	<ul><li>・第十四回 米国における社会研修講座(CIAA主催)</li><li>に参加して ······29</li></ul>
I Ellah	
I. 研究	今野 良裕
·宮城県加美郡中新田町熊野堂遺跡調査略報·····2	・アメリカテキサス大学語学研修報告 ・・・・・・・60
渡邊 泰伸 アンパー・カニトス学業成绩加盟 アンパー・カニトス学業成绩加盟	柏倉 拓
・コンピュータによる学業成績処理 ・・・・・・・28	·第二十五回全国私立中学高等学校
瀬戸 信男	保健・体育科研修会報告 ・・・・・・・・・・71
佐々木一郎	沢田・敏明

・第二十一回全国私立中学高等学校	IV. 第36回全国私学教育研究集会新潟大会 ·····99
生徒指導研修会報告 · · · · · · · · · · · · 76	1. 特色教育部会報告 · · · · · · · · · · · · · · · · 100
佐々木 豊	高山直光
・第二十三回全国私立中学高等学校	2. 福祉活動を中心として110
道徳宗教教育研修会報告78	小林 慶三
及川千一郎	3. 教育課程部会報告 · · · · · · · · · · · · · · · 114
・第二回全国私立中学高等学校	庄司 均
ニューメディア教育研修会報告81	4. 国語分科会 · · · · · · · · 121
大場  幸	笠岡 庸志
· 第九回国際教育研修会報告 · · · · · · · · · · · · · 86	5. 英語分科会 · · · · · · · 134
出井まち子	宝槻 隆史
・ジェラルド・ロビンス ピアノリサイタル報告	6. 商業部会報告 · · · · · · · · · · · · · · · · 138
89	遠藤  卓
荒井 恵子	
	V. 校内公開授業各科研究会·····141
Ⅲ. 昭和62年度職員研修会	・国語科研究会報告
<ul><li>・授業研究・各科研究会91</li></ul>	北欧の国語教育と日本・・・・・・・・・・遣水 満雄
・短歌教材指導について・・・・・・・・高橋 正幸	・国語研究会報告
<ul><li>社会科研究会報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・</li></ul>	ソビエト連邦の教育事情と日本・・・・・・中津川清風
・数学科(基礎解析)学習指導案····・乾 敬	· 社会科研究会報告······小野寺文雄
<ul><li>校内公開授業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・</li></ul>	・数学科研究会報告
<ul><li>数学科研究会報告・・・・・・・・佐藤 亘</li></ul>	校内研究授業[数学 I ]学習指導案・・・・岩渕 定義
松尾勝郎	校内研究授業[確率・統計]学習指導案
・理科(化学)学習指導案・・・・・・・櫻井 忠良	鈴木 弘
• 理科研究会報告 · · · · · · · · · · · 砂沢 準助	<ul><li>理科研究会報告・・・・・・・・・・・砂沢 準助</li></ul>
<ul> <li>英語科研究会報告·························· 小野 明夫</li> </ul>	・理科授業研究…"ヒトの生殖と発生"を行うにあたって
・書道Ⅱの学習指導について・・・・・・安倍 一男	横澤 秀夫
<ul><li>ワープロ学習指導案・・・・・・・・・遠藤 卓</li></ul>	<ul><li>・英語科研究会報告・・・・・・・・・・・宝槻 隆史</li></ul>
大場幸	谷津 繁勝
・保健体育指導······阿部 由晴	小野明夫
	大沼洋二
編集後記	・芸術科研究会報告
	時代に即した音楽教育・・・・・・・・・・・武藤 信子
	・保健体育科研究会報告
1989年3月 第4号	保健体育「柔道」指導案・・・・・・・・・・沢田 敏明
巻頭言	・情報処理科研究会報告
E 95 U	「進化する紙」・・・・・・・・・・・佐々木一郎
I . 研究発表······1	[ [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [
加藤昭	VI. 編集後記・奥付······176
1. 安養寺下窯跡第3次調査 · · · · · · 2	VII. /關来及此 关门
渡邊 泰伸	
2. 同一素材の外国語翻訳を試みて28	1990年3月 第5号
波里 光彦	巻 頭 言·······加藤 昭
(火主 ) 几多	
Ⅱ. 海外研修 · · · · · · 45	I. 研究
1. アメリカ夏期語学研修についての報告と所感・46	<ul><li>・仙台市安養寺下窯跡 第4次調査概報・・・・・・1</li></ul>
坂爪 英夫	海邊 泰伸
2. 地球の裏から「オブリガード」・・・・・・51	(反// 次)中
宮本 昇	Ⅱ.各種研修会・研修講座に参加して
白平 升	・全国私学教育研究集会講演(教育課程部会)より
Ⅲ. 全国私学研修報告 · · · · · · · · 63	・主国仏子教育研先朱云神典(教育課任命云)より ・・・・・・・・・・・・・・・25
1. ニューメディア教育研修会報告 · · · · · · · · 64	小林 慶三
大場 幸	・平成元年度 高等学校学習指導研修会・・・・・27
ス場 辛 2. 現代社会とこれからの体育・・・・・・・・96	・平成几平度 高寺子校子首指導研修云・・・・・・27 渡部 進
2. 現代社会とこれがらの体育・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	・私学経営研究会教員研修セミナー
万均   符入	4四丁柱百明九五秋泉明修じべ/

第11回私学の新任・若手教員研修講座報告35	・女子卓球部中国遠征報告85
若澤 幸弘・及川 隆夫	若澤 幸弘
・第37回全国私学教育研究集会大阪大会	・仙台育英学園高等学校創立85周年記念
岩渕 定義	日本,カナダ国際親善ラグビー遠征記 ・・・・・89
〔1〕数学分科会報告 · · · · · · · · 49	伊藤挺一朗
〔2〕 進路指導部会報 ······63	·第31回東北地区私学教育研修会 英語分科会
・全国私立中学高等学校	「How to give the motivation to the students」
第4回ニューメディア研修会に参加して・・・・・・74	104
渡部 進	キャム・カー
・第30回東北地区私学教育研究会に参加して86	
山田  昇	Ⅱ. 多賀城フォーラム
・第25回全国私立中学高等学校家庭科研修会 ・・・・90	・「多賀城フォーラム21」行わる121
庄司 均	加藤雄彦
・カナダ語学研修について ・・・・・・93	
佐々木清彦	Ⅲ.研究・研修
<ul><li>英国語学研修報告・・・・・・・102</li></ul>	・第25回全国高等学校体育学科連絡協議会に参加して
阿部 徹・出井まち子	137
<ul><li>・カー先生の日本体験記・・・・・・・・・・117</li></ul>	丹野 博太
波里光彦	・平成2年度 研修課年間計画
以上プログ	情報処理研修報告・・・・・・・・・・144
Ⅲ. 授業研究・各科研究会	佐藤正行
<ul><li>・国語科学習指導案 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·</li></ul>	・平成2年度全国私立中学高等学校
千田 亥彦	第5回ニューメディア教育研修会報告・・・・・・167
<ul><li>・数学科学習指導案・・・・・・146</li></ul>	佐藤正行
渡部 進	・私学経営研修会教員研修セミナー
・数学科学習指導案 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	第12回私学の新任・若手教員研修講座報告・・・・222
节并 了	佐藤 正行
・数学科研究会報告 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	・第 12 回私学の新任・若手教員研修講座 · · · · · 227
<ul><li>・理科(化学)学習指導案・・・・・161</li></ul>	佐々木英明
半澤 健	・西多賀養護学校を訪問して · · · · · · · · · 228
・化学実験の一考察・・・・・・167	岩澤 幸弘
半澤健	・宮城県生徒指導研修会に参加して・・・・・・230
・情報処理科 (薄記会計) 学習指導案 · · · · · · · 173	佐々木英明
佐々木英明	・国語科(漢文)公開授業並びに教育研究会・・・・241
・保健体育科学習指導案 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	中国 中
丹野 博太	・数学科公開授業並びに教科研究会 · · · · · · · 248
月刊   存入	近藤 特宏
編集後記	・英語科公開授業並びに英語科教科研究会 · · · · 255
畑 朱 仅 吐	立谷 梨
	・理科科公開授業並びに教科研究会 · · · · · · · 260
1991年3月 第6号	男澤 文義
巻 頭 言······加藤 昭	カ
仓 央 口	阿部 徹
I. 国際化教育への模索	・保健体育科(保健)公開授業並びに教科研究会 · · 266
<ul><li>・日本の「国際化」に思う・・・・・・・・・・1</li></ul>	沢田 敏明
波里光彦	/八口 · •
・創立85周年記念事業 国際理解のための講演会・・17	編 集 後 記269
	編 朱 俊 記 ・・・・・・・209
研 修 課 ・全国私立中学高等学校	
・ 主国松立中子高寺子校 第12回国際教育研修会に参加して ・・・・・・・34	1992年3月 第7号
	1992年3月 第75   巻 頭 言······加藤 昭
佐々木清彦 ・夏期イギリス語学研修(女子)60	仓 央 吉・・・・・・・・・・・・・・・・・・ルト 昭
	T ETLAZ
関谷照夫	<ul><li>I 研究</li><li>・仙台市安養寺下窯跡・・・・・・・・・1</li></ul>
・夏期イギリス語学研修(男子)······73	
桜井 忠良	渡邊泰伸

加藤 連定   加藤 連定   加藤 連定   加藤 正学   上海   上海   上海   上海   上海   上海   上海   上	Ⅱ 多賀城フォーラム	・「うたごころ」・・・・・256
II 講演「山形の 教師の実践論」   155	・第2回多賀城フォーラム37	
□ 講演「山形の一教師の実践論」 55 山形県生産学習人材育成機構存務理事 打田 早苗  N 研修報告 ・平成3年度高等学校教育課程講習会 75 後 時哉 ・東北国語教育研究会 88 歳 娩り ・平成3年度 1 研究 1 研	加藤 雄彦	
山形県生涯学習人材育成機帶等務理事 打田 早苗   1993年3月 第8号   2	m 3世内「I w o - # AT o 中ID3A	編 集 後 記259
下 研修報告		
下成3年度高等学校教育課程講習会   1 研究   1 研究	山形泉土佐子百八州 月 成 機 特 份 埋 事 一 打 田 一 平 田	1993年3日 第8号
・ 平成3年度高等学校教育課程講習会	Ⅳ 研修報告	
・東北国語教育研究会		
### (佐々木隆男・板橋 敏男		I 研究
・平成3年度官城県高等学校教育課程講習会外国語部会 94 関合 照共 第13回私学の新任・若手教員研修会 120 佐藤 弘 2回升ナダ語学研修 (	<ul><li>東北国語教育研究会83</li></ul>	・仙台市安養寺下窯跡(第7次調査概報) … 1
日子   日子   日子   日子   日子   日子   日子   日		渡邊 泰伸
関谷 照大   第14回私学の新任・若手教員研修講座   47		7 77 14 )+ /7 47 14.
・第13回私学の新任・若手教員研修会   120 佐藤 弘	0.1	
V 海外遠征報告(平成3年度)         大岡 厳           ・ 夏期カナダ語学研修         125           ・ 夏期イギリス語学研修         135           ・ 夏期イギリス語学研修         135           ・ 夏期イギリス語学研修         135           ・ 夏期イギリス語学研修         150           砂金 紀         ・ 男子陸上チームのカナダ・パンクーバー遠征・106           ・ オックスフォード紀行         162           高平たつみ         市大の子卓球部スウェーデン遠征         172           佐藤 正行         大田多津子           ・ イタリア知識旅行事前調査・180         180           小林 慶三・渡部         進 佐女人順子           ・女子卓球部中国(上海市)遠征         191           吉澤 幸弘         193           ・女子卓球部中国(上海市)遠征         191           古澤 幸弘         193           ・国語科公開授業並びに教科研究会         212           佐藤 孝         英語科公開授業並びに教科研究会         212           佐藤 孝         英語科公開授業並びに教科研究会         215           ・ 大田科科公開授業並びに教科研究会         224           佐藤 孝         英語科公開授業並びに教科研究会         217           佐藤 孝         英語科公開授業並びに教科研究会         223           ・ 世科科科公開授業並びに教科研究会         230           ・ 大田科科公開授業並びに教科研究会         21           ・ 世 科科公開授業並びに教科研究会         223           ・ 世科科公開授業並びに教科研究会         230           ・ 世科科公開授業並びに教科研究会         <		
<ul> <li>V 海外遠征報告(平成3年度)</li> <li>・夏期カナダ語学研修</li> <li>・夏期イギリス語学研修(男子)</li> <li>・夏期イギリス語学研修(男子)</li> <li>・夏期イギリス語学研修(女子)</li> <li>・夏期イギリス語学研修(女子)</li> <li>・ 夏期イギリス語学研修(女子)</li> <li>・ カークスフォード紀行</li> <li>・ 大田・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・</li></ul>	<u>                                    </u>	
関合 照夫   135	V 海外遠征報告(平成3年度)	
・夏期イギリス語学研修(男子) 135	<ul><li>夏期カナダ語学研修 · · · · · · · · · · · · 125</li></ul>	庄子春一郎
・夏期イギリス語学研修(女子) 150 砂金 紀 ・オックスフォード紀行・ 162 高平たつみ・軟式庭球部台湾遠征・ 172 佐藤 正行・女子卓球部スウェーデン遠征・ 176 ・女子卓球部スウェーデン遠征・ 180 小林 慶三・渡部 進・佐々木順子 武田 美法・加藤 晃孝・女子卓球部中国(上海市)遠征・ 191 若澤 幸弘・女子卓球部中国(上海市)遠征・ 191 若澤 幸弘・女子卓球部中国(上海市)遠征・ 191		・平成4年度夏期イギリス語学研修54
・ 夏期イギリス語学		
・オックスフォード紀行		
<ul> <li>・ オックスフォード紀行 162</li> <li>高平たつみ・軟式庭球部台湾遠征 172</li> <li>佐藤 176</li> <li>・ 女子卓球部スウェーデン遠征 176</li> <li>大岡多津子・イタリア知識旅行事前調査 180</li> <li>小林 慶三・渡部 進・佐々木順子 武田 美法・加藤 晃孝・女子卓球部中国(上海市)遠征 191</li> <li>若澤 幸弘</li> <li>VI 研究・研修</li> <li>・ 校内研修会実施要 193</li> <li>・ 国語科公開授業並びに教科研究会 217</li> <li>・ 校内研修会実施要 193</li> <li>・ 国語科公開授業並びに教科研究会 217</li> <li>・ 校内研修会実施要 193</li> <li>・ 国語科公開授業並びに教科研究会 217</li> <li>・ 佐藤 孝・ 英語科公開授業並びに教科研究会 224</li> <li>・ 佐藤 孝・ 英語科公開授業並びに教科研究会 230</li> <li>・ 大田科公開授業並びに教科研究会 232</li> <li>・ 大田科公開授業並びに教科研究会 232</li> <li>・ 「精型処理科公開授業並びに教科研究会 217</li> <li>・ 「特型処理科公開授業並びに教科研究会 217</li> <li>・ 「特型の理科公開授業並びに教科研究会 217</li> <li>・ 「大田・本・大田・本・大田・本・大田・本・大田・本・大田・本・大田・本・大田・本</li></ul>		
・軟式庭球部台湾遠征		Ⅲ 校内研修会
- 軟式庭球部台湾遠征 172 佐藤 正行		
・女子卓球部スウェーデン遠征         176           大岡多津子         大岡多津子           ・イタリア知識旅行事前調査         180           小林 慶三・渡部         進・佐々木順子 武田 美法・加藤 晃孝           ・女子卓球部中国(上海市)遠征         191           若澤 幸弘         佐藤 林平           ・校内研修         保健体育科公開授業並びに教科研究会         212           ・校内研修会実施要         193           ・国語科公開授業並びに教科研究会         224           佐藤 孝         英語科公開授業並びに教科研究会         223           ・大選科科公開授業並びに教科研究会         223           ・世科科公開授業並びに教科研究会         230           ・世科科公開授業並びに教科研究会         223           ・選辺 重隆         ・一の藤利子生生誕 111年 学園創立88周年記念事業           ・社会科教育研究会         230           ・社会科教育研究会         230           ・社会科教育研究会         230           ・社会科教育研究会         230           ・社会科教育研究会         230           ・社会科教育研究会 <td></td> <td></td>		
大岡多津子         加藤 晃孝           ・イタリア知識旅行事前調査         180           小林 慶三・渡部         進・佐々木順子 武田 美法・加藤 晃孝           ・女子卓球部中国(上海市) 遠征         191           若澤 幸弘         佐藤 林平           ・女子卓球部中国(上海市) 遠征         191           大岡介・ 一年         佐藤 林平           ・校内研修会実施要         193           ・国語科公開授業並びに教科研究会         194           ・ 及川千一郎          佐藤 孝           ・英語科公開授業並びに教科研究会         224           佐藤 孝         ・英語科公開授業並びに教科研究会         223           ・ 世科科公開授業並びに教科研究会         230           ・ 世科科公開授業並びに教科研究会         230           ・ 世科科公開授業並びに教科研究会         230           ・ 世科科公開授業並びに教科研究会         223	佐藤 正行	佐藤 秀一
・イタリア知識旅行事前調査・		
小林 慶三・渡部 進・佐々木順子   武田 美法・加藤 晃孝   ・社会科教科研究会		
武田 美法・加藤 晃孝・女子卓球部中国(上海市)遠征・・・191		
・女子卓球部中国(上海市)遠征       191       佐藤 林平         若澤 幸弘       ・保健体育科公開授業並びに教科研究会       212         校内研修会実施要       193       ・情報処理科公開授業並びに教科研究会       217         ・放内研修会実施要       194       佐々木英明         ・ 数学科公開授業並びに教科研究会       224       佐藤 孝       本         ・英語科公開授業並びに教科研究会       230       大山なみ江・出井まち子       参頭 言       加藤 昭         ・ 理科科公開授業並びに教科研究会       232       接辺 重隆       1. 加藤利吉先生生誕111年 学園創立88周年記念事業       ・多賀城校舎グロリーホール落成を記念して       1         ・ 社会科教育研究会       238       加藤 晃孝       ・多賀城校舎グロリーホール落成を記念して       1         ・国語科短歌鑑賞会       -高校生の読み物として一名歌少考       245       ロバート・カークナー         -高橋 正幸       ・平成5年度父母教師会総会講演       26		
大学   大学   大学   大学   大学   大学   大学   大		
VI 研究・研修       ・情報処理科公開授業並びに教科研究会・・・217         ・校内研修会実施要・・・193       ・国語科公開授業並びに教科研究会・・・194         ・数学科公開授業並びに教科研究会・・・224       佐藤 孝         ・英語科公開授業並びに教科研究会・・・230       秋山なみ江・出井まち子・理科科公開授業並びに教科研究会・・・232         ・社会科教育研究会・・・238       渡辺 重隆・社会科教育研究会・・・238         ・社会科教育研究会・・・238       加藤 晃孝・・多賀城校舎グロリーホール落成を記念して・・・1 半沢 健・・記念講演ー大きく変わりつつある世界そして学校のゆくえは・・・・7 ロバート・カークナー・・平成5年度父母教師会総会講演・・・26		・保健体育科公開授業並びに教科研究会・・・・・212
・校内研修会実施要       193       佐々木英明         ・国語科公開授業並びに教科研究会       224       編集後記       223         ・英語科公開授業並びに教科研究会       230       秋山なみ江・出井まち子・理科科公開授業並びに教科研究会       232         ・建科科公開授業並びに教科研究会       232       渡辺重隆・社会科教育研究会       1. 加藤利吉先生生誕111年 学園創立88周年記念事業・多賀城校舎グロリーホール落成を記念して・・・1半沢健・記念講演一大きく変わりつつある世界そして学校のゆくえは・・・フート・カークナー高橋正幸・平成5年度父母教師会総会講演・・・26		槙 統
・国語科公開授業並びに教科研究会       194         放川千一郎       223         ・数学科公開授業並びに教科研究会       230         秋山なみ江・出井まち子       ・理科科公開授業並びに教科研究会       232         渡辺 重隆       「加藤利吉先生生誕111年 学園創立88周年記念事業         ・社会科教育研究会       238         加藤 晃孝       「加藤利吉先生生誕111年 学園創立88周年記念事業         ・多賀城校舎グロリーホール落成を記念して       1         半沢 健         ・記念講演ー大きく変わりつつある世界そして学校のゆくえは       7         ロバート・カークナー高橋正幸       ・平成5年度父母教師会総会講演		
及川千一郎       ス川千一郎       編集後記       223         ・ 英語科公開授業並びに教科研究会       230       水山なみ江・出井まち子       クリーネール落成を記念して       1994年3月第9号       クリーネール落成を記念して       上加藤利吉先生生誕111年学園創立88周年記念事業         ・ 社会科教育研究会       238       加藤 晃孝       ・多賀城校舎グロリーホール落成を記念して       1         VII 論文       ・記念講演一大きく変わりつつある世界そして学校のゆくえは       ウくえは       フロバート・カークナー         ・ 平成5年度父母教師会総会講演       ・223		佐々木英明
<ul> <li>・数学科公開授業並びに教科研究会・・・ 224 佐藤 孝</li> <li>・英語科公開授業並びに教科研究会・・・ 230 秋山なみ江・出井まち子・理科科公開授業並びに教科研究会・・・ 232 渡辺 重隆・社会科教育研究会・・・ 238 加藤 晃孝・ 238 加藤 晃孝・ 多賀城校舎グロリーホール落成を記念して・・・ 1 半沢 健・記念講演ー大きく変わりつつある世界そして学校のゆくえは・・・ 7 ロバート・カークナー・ 平成5年度父母教師会総会講演・・・ 26</li> </ul>		短 作 後 囙
<ul> <li>佐藤 孝</li> <li>・英語科公開授業並びに教科研究会・・230 秋山なみ江・出井まち子</li> <li>・理科科公開授業並びに教科研究会・・232 渡辺 重隆</li> <li>・社会科教育研究会・・238 加藤 晃孝</li> <li>・加藤利吉先生生誕111年 学園創立88周年記念事業・多賀城校舎グロリーホール落成を記念して・・・1 半沢 健・記念講演ー大きく変わりつつある世界そして学校のゆくえは・・・7 ロバート・カークナー高橋正幸・平成5年度父母教師会総会講演・・26</li> </ul>	~ ~	/棚 来 1友 記
・英語科公開授業並びに教科研究会・・230 秋山なみ江・出井まち子・理科科公開授業並びに教科研究会・・232 渡辺 重隆・社会科教育研究会・・238 ・社会科教育研究会・・238 加藤 晃孝 加藤 晃孝 ・多賀城校舎グロリーホール落成を記念して・・・1 半沢 健・記念講演ー大きく変わりつつある世界そして学校のゆくえは・・・7 ー高校生の読み物として一名歌少考・・245 高橋 正幸 ・平成5年度父母教師会総会講演・・26		
・理科科公開授業並びに教科研究会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	.— <i></i>	1994年3月 第9号
接辺 重隆       I. 加藤利吉先生生誕111年 学園創立88周年記念事業         ・社会科教育研究会・・・238 加藤 晃孝 加藤 晃孝       ・多賀城校舎グロリーホール落成を記念して・・・・1 半沢 健・記念講演-大きく変わりつつある世界そして学校のゆくえは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	秋山なみ江・出井まち子	巻 頭 言加藤 昭
・社会科教育研究会・・・・238       事業         加藤 晃孝       ・多賀城校舎グロリーホール落成を記念して・・・・1         WI 論文       ・記念講演ー大きく変わりつつある世界そして学校のゆくえは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	・理科科公開授業並びに教科研究会232	
加藤 晃孝 ・多賀城校舎グロリーホール落成を記念して・・・ 1 半沢 健  VII 論文 ・国語科短歌鑑賞会 ・高校生の読み物として−名歌少考・・・ 245 高橋 正幸 ・平成5年度父母教師会総会講演・・・・ 26		
************************************		
VII 論文       ・記念講演-大きく変わりつつある世界そして学校の ゆくえは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	川膝 光孝	
・国語科短歌鑑賞会       ゆくえは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	VII 論文	
- 高校生の読み物として-名歌少考・・・・245 高橋 正幸・平成5年度父母教師会総会講演・・・・26		
		ロバート・カークナー
トミー植松	高橋 正幸	
		トミー植松

Ⅱ 研究	<ul><li>・地学学習指導案・・・・・・276</li></ul>
・仙台市安養寺下窯跡(第8次調査概報)・・・・・37	武田 要吉
渡邊 泰伸	<ul><li>英語科研究会・・・・・・285</li></ul>
・宮城県志田郡松山町下伊場野窯跡調査略報58	武田美法
渡邊 泰伸	・総合実践業務処理システム実習概要293
	瀬戸 信男
Ⅲ 海外研修・遠征報告	<ul><li>保健体育科学習指導案 · · · · · · · · · · · · · 325</li></ul>
<ul><li>・女子バレー部韓国研修旅行・・・・・・105</li></ul>	庄司 和良
佐藤 幸雄	・保健体育科柔道学習指導案327
<ul><li>・サッカー部ドイツ遠征 · · · · · · · · · · · · · · · 107</li></ul>	松原潤一郎
佐藤 脩	
<ul><li>・中国グランプリ国際大会報告書・・・・・・123</li></ul>	編 集 後 記330
大岡 巌	
<ul><li>ボーンマス再訪・・・・・・124</li></ul>	
渡邊 泰伸	1995年3月 第10号
・平成5年度イギリス語学研修に参加して180	巻 頭 言加藤 昭
高谷 功	
<ul><li>・平成5年度カナダ研修旅行 ・・・・・・・・195</li></ul>	I 研究
今野 仁	・仙台市安養寺下窯跡(第9次調査概報)・・・・・・1
・クリスマスをアメリカの一家庭で過ごして206	渡邊泰伸
庄子春一郎	
,	Ⅱ 海外研修・語学研修
IV 研修報告	<ul><li>・英国語学研修 [ボーンマス] の記録 ·····31</li></ul>
・平成5年度私立学校初任者研修全国研修会(第2回)	渡邊泰伸
209	・カナダ語学研修旅行を共にして ・・・・・・・93
庄司 和良	日下英夫
・平成5年度私立学校初任者研修全国研修会(第2回)	<ul><li>カナダ語学研修報告・・・・・・105</li></ul>
214	柏倉 拓
寺内るみ子	・CBS杯招待遠征報告(韓国(ソウル)雑感) · · · 115
・第15回私学の新任・若手教員研修講座219	丸山博史
寺内るみ子	・韓国CBS杯全国高等学校バレーボール大会に参加し
・第15回私学の新任・若手教員研修講座を受講して	7 · · · · · · 121
の報告・・・・・・・223	藤屋 秀人
松原潤一郎	・ニュージーランド語学研修/姉妹校訪問・・・・124
・全国私立中学高等学校性教育研修会参加報告…226	二階堂 勉
柏倉 拓	・ニュージーランド語学研修 · · · · · · 129
<ul><li>・平成5年度全国私立中学高等学校生徒指導研修会</li></ul>	小野 裕子
230	・ハワイ修学旅行下見についての報告と雑感・・・・131
宝槻 隆史	坂爪 英夫
・私学の特色ある教育課程の実践に向けてⅡ・・・・233	・ラグビー部ニュージーランド遠征についての報告
佐々木 豊	136
· 平成5年度全国私立中学高等学校数学科研修会報告	丹野 博太
248	・ヨーロッパ・橋紀行·····145
加藤 晃孝・鈴木 孝司	関根 一郎
·全国私立中学高等学校英語科研修会 · · · · · · · 252	・オーストラリアの高校生活-公立キルコイ高校の場合
武田美法	154
	庄子春一郎
V 校内研修会	
· 平成5年度校内研修会実施要項 · · · · · · · 255	Ⅲ 研修報告
・効果的国語指導の在り方 · · · · · · · 256	·平成6年度私立学校初任者研修北海道東北地区研修
及川千一郎・清水 初治	会報告 · · · · · · · 163
<ul><li>社会科教育研究会 · · · · · · · · · · · · · · · · · · 266</li></ul>	引地 由佳
高谷 功・渡邊 泰伸	<ul><li>・平成6年度私立学校初任者研修北海道東北地区研修</li></ul>
<ul><li>数学科研究会記録・・・・・・・・・271</li></ul>	報告 · · · · · · · 167
佐々木順子	中村 千恵

<ul><li>・第35回東北地区私学教育研修会 ・・・・・・・171 今野 仁</li><li>・第35回東北地区私学教育研修会参加の報告・・・180</li></ul>	Ⅲ 研修報告 ・平成7年度『財政経済セミナー』に参加して 我が国財政の現状と課題 · · · · · · · · · 129
佐藤 林平 ・第35回東北地区私学教育研修会進路指導部会・・199 大場 幸	小嶋 聡悦 ・全国私立中学高等学校国語科研修会研修報告書170
·第35回東北地区私学教育研修会学習指導部会理科 分科会······205	176 引地 由佳 ・「性教育研修会」に参加しての報告 ····174
大沼 正行	出井まち子
<ul><li>IV 校内研修会</li><li>・平成6年度校内研修会実施要項・・・・・209</li><li>・「国語科」研究会・・・・210</li></ul>	編 集 後 記177
鎌田 敬 ・数学科研究会記録・・・・・・・・・・215 佐藤 孝	1997年3月 第12号 巻 頭 言······加藤 雄彦
<ul><li>・英語科研究会・・・・・・220</li><li>砂金 紀</li></ul>	・授業の活性剤・・・・・・・・・・・1 半澤 健
<ul><li>・理科研究会・・・・・・226 横澤 秀夫</li><li>・社会科研究会・・・・235</li></ul>	・世界史探訪の旅Ⅱ・・・・・・6 武田 義之 ・修学旅行事前調査報告・・・・・・・・・21
・在会科研究会・・・・・・235 阿部 徹 ・情報処理科研究会・・・・・・242	・修字旅行事前調査報告 ······ 21 沼田嘉一郎 ・韓国スポーツ交流団へ参加して ····· 26
佐藤 正行・内海 利男・保健体育科指導計画・・・・・・・・・・256	坂爪 英夫 ・韓国修学旅行事前調査に参加して · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
中村 光男	宝槻 隆史 ・Memories of Canada ・・・・・・・・・59 清水 初次
<b>1996年3月 第11号</b> 創立90周年特別号	・学校茶道の果たす役割
巻 頭 言······加藤 昭 I 研究	<ul><li>・茶事の研修 ・・・・・・・・・・69</li><li>岡崎 宗豊</li><li>・裏千家今日庵を訪ねて ・・・・・・・・71</li></ul>
・「世界史」探訪の旅 · · · · · · · · · · · · 1 武田 義之	馬淵 宗友 ・21 世紀にお茶の心をつなごう ・・・・・・・74
<ul><li>・不登校児への対応を探る・・・・・・8</li><li>・ 宇澤 健</li><li>・ 宗教と人生 ・・・・・・・・・・・・・・・20</li></ul>	木村 宗智   ・カナダ研修旅行報告 ・・・・・・・・・78   山田 昇
小柳 俊夫 ・文学教材指導法雑感 · · · · · · · · · · · · · · 34	・イギリスアップランズカレッジ語学研修事前調査に いって82
伊藤源太郎 ・補助教材として授業中に使用した参考作品集・・・・48  丹野 将範	小嶋 哲朗 ・「私学教員のめざすもの」についての一考察・・・85 下平 孝富
・生活史に反映する伝承音楽の役割 · · · · · · · 94 鎌田 敬	・北海道・東北地区研修会 · · · · · · · · · · · · · · · · 88 富澤 良江
Ⅱ 海外研修 ・カナダ研修旅行・・・・・・・111	・当世イングランド南西地区環境状況91 内海 利男 ・宮城野校舎での「LD学習」の利用の現状について…94
・カナダ研修旅行・・・・・・・・・・・・111 太宰 芳郎 ・イートン校サマースクールを終えて・・・・・121	・呂城野校吉での「LD学育」の利用の現状について…94 工藤 敏夫 ・『第1回実用英語技能検定』の結果を振り返って…100
加藤 晃孝・オーストラリアの中学生活	尾形 照子   ・異文化体験・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
公立モーソン中学の場合 · · · · · · · · · · · 125 庄子春一郎	庄子春一郎 ・『ライオンの睛』発行について ・・・・・・108 山本吉之助

・CS向上めざして教養コースからの提案113	・はじめてのクロアチア国際交流 · · · · · · 218
坂爪 英夫	澤口 衛・藤屋 秀人
・多賀城セクション生徒寮保護者懇談会概要報告…126	郷古 武・木村 美知
守 喜美夫・加藤 晃孝	・国際ゆめ交流博覧会の報告230
・教育実習(養護教諭)期間中に行った研究について	ジェシンタ ワンジロ ムタヒ
137	
指導 木村 保子・佐藤 雅美	編集後記
・KOREA旅行雑感・1996年 · · · · · · · · · · · · 145	
阿部 俊徳	
・長春外国語学校との姉妹校締結記念	1999年3月 第14号
中国訪問親善交流・研修の記録・・・・・・152	巻 頭 言加藤 雄彦
曾我 道雄	7,77
<ul><li>・那須研修の現状について・・・・・・166</li></ul>	・初任者研修・・・・・・ 1
藤岡昌之	PART I 宮城野中学校での中高連携授業研究会に
	参加して
編 集 後 記186	日比野曜子 鈴木 暁子 佐々木順子
州 米 仅 记	引地 由佳 下平 孝富 佐々木順一朗
	富澤 良江 箱島 道泰 槙 統
1998年3月 第13号	藤屋秀人 千葉 浩  岡崎 由起
巻 頭 言······加藤 雄彦	古宮紀子 池口真理子 鈴木保恵
仓 與 言加滕 雄沙	
<b>岁</b> 晒「100°亦ね 7 佐兴某語   1	松原潤一郎 吉田 淳 郷古 武
・演題「180°変わる進学英語」・・・・・・1	望月久美子
佐藤良明	PART II 三色最中を訪ねて
・世界史探訪の旅Ⅲーチュニジア共和国とカルタゴの	望月久美子  下平 孝富  古宮 紀子
遺跡10	池口真理子 槙 統 鈴木 暁子
武田 義之	松原潤一郎 佐々木順子 鈴木 孝司
<ul><li>・雄と雌の話25</li></ul>	鈴木 保恵   岡崎 由起   引地 由佳
半沢 健	・数学嫌いをつくり出す原因を本校生徒よりさぐる
<ul><li>・高校生の喫煙についての一考察52</li></ul>	33
富澤 良江	渡部 進
・平成8年度教養コースにおける生徒指導の一つの試み	Message from Mahurangi College, NZ · · · · · 45
59	ジョン・スコベル
沼田嘉一郎	<ul><li>・ニュージーランド修学旅行 ・・・・・・・48</li></ul>
<ul><li>・平成8年度修学旅行 ······75</li></ul>	庄子春一郎
瀬戸 信男・小川 久松・渡邊 泰伸	<ul><li>・ドイツ滞在3年あれこれ54</li></ul>
・カナダ日記 1997年夏84	佐々木芳輝
阿部 俊徳	・高等学校におけるコンピュータ事情63
・アンコール・ワットへの旅94	高階 公・若松 武徳
佐藤雄三	・我が国の人名習俗-複名習俗としての-74
・CS向上をめざす物理教育の一試案102	新関 昌利
高橋明	・ヨーロッパ知識旅行84
<ul><li>英国語学研修実施報告・・・・・・・121</li></ul>	藤岡 昌之
千代窪敏光	・薄記会計1級合格を目指して91
・平成9年イギリス夏期語学研修(ボーンマス団)	坂爪 英夫
125	・シリーズPART IV「中国」93
遊佐 隆司	北京・長春の見聞
<ul><li>・松島研修センターの概要・・・・・・133</li></ul>	中国の近代史をみる
榊井 庸彦・渡辺 章紀・佐々木英明	坂爪 英夫
千葉 浩・青木 康博	
・オーストラリアのハイスクール・・・・・149	編集後記
庄子春一郎	
・ペルシアの風-イラン旅情 · · · · · · · 158	
伊藤源太郎	
・授業における吹奏楽の試み212	
牛渡 純	

2000年3月 第15号	サートを終えて」・・・・・・122
巻 頭 言	牛渡 純
	2. 「ニューヨーク・シンフォニック・アンサンブル
I 研究報告	ジョイントコンサートに参加して」126
(1)平成7,8年度帰国子女教育研究 ·····1	中村 桂子
千葉 浩	3. 「ニューヨーク・シンフォニック・アンサンブル
(2)高校生時代の「日の丸」掲揚、「君が代」斉唱と、	ジョイントコンサートの合唱指導」・・・・・129
その人格形成への影響について-「日の丸」「君が	横山
代」に関する一考察30	(2)ケニヤからのメッセージ・・・・・・135
若松、武徳	エライジャ・J・ギタオ
(3)わが育英における語学教育-中国語教育について-	(3)オランダからきた柔道人-オランダからやって来た
·············44	柔道家たちとの交流記ー・・・・・・139
張言行	箱島 道泰
אר בוו	相面。但來
Ⅱ 平成11年度新任者研修の記録	V 英文中文目次要旨·····142
(1)「講演会」・・・・・・49	
大学から見た、これからの青少年への期待	編集後記
期 日 H.11年3月8日 (月) 16時より	
講師・東北大学総長・工学博士・阿部・博之先生	
会 場 宮城野校舎 大会議堂	2001年3月 第16号
(2)「講演会」	巻 頭 言加藤 雄彦
コーチング科学について	
期 日 H.11年6月18日(月)	「トピックス」
$16:30 \sim 17:50$	「一瞬に賭けたエアピストル」
講 師 順天堂大学スポーツ健康科学部、	-シドニーオリンピック・エアピストル競技出場
コーチ学バレーボール研究室 河合 武司 先生	稲田容子先生応援記-・・・・・・・・・・・・1
(3)平成11年度体育会運動部校内研修会	沼田嘉一郎
- コーチング科学講演会をきいて- ·····71	
杉本 真・進藤由里子	I 研究報告
(4)北海道・東北地区私学学校初任者研修会に参加して	(1)「開かれた学校経営」
<ul><li>一職業人である私学教員として「私学」というもの</li></ul>	~集めるPTAから、集まるPTAをめざして~・・・・6
をきちんと理解し、認識する一・・・・・・・・74	沼田嘉一郎
鎌田千佳子	THE 70
(5)北海道・東北地区私立学校初任者研修に参加して	Ⅱ 平成12年度研修の記録13
-21世紀が求める学力を育む学習とその指導-	(1)「第1回教職員研修会」
80	「社会に背を向ける青少年の心の問題」
佐藤・恵美	講師 宮城県中央児童相談所次長 本間 博彰氏
江旅 心天	(2)「進学CLUB講演会」······27
Ⅲ 研修旅行	「生きる喜び」一ガンとの戦いにうち勝って一
	講師千葉勇作氏
千葉 浩	(3)「第2回教職員研修会」······44
(2)カナダ研修旅行記 ······96	「オリンピックの活躍とキューバスポーツ」
	講師 キューバスポーツ省
秋山なみ江         (3)イギリス語学研修・・・・・・104	
	ロベルト・ゴンザレス 氏
武田由紀子	(4)「指導者講習会」
(4)1998年教養コース修学旅行下見報告(瀬戸内班)	「中国のスポーツ事情」 講 師 孫 国華 氏
113	
渡邊 泰伸	Ⅲ 研修旅行
	(1)教養コース 中華人民共和国 中国研修旅行の記
er i i i i i i i i i i i i i i i i i i i	
IV 歲時記	「大きな一歩ー中国5日間の旅」・・・・・・57
(1)NewYork Symphonic Ensemble	佐藤  學
(1)NewYork Symphonic Ensemble — Japan Concert Program 1998—	佐藤 學 (2)教養コース 英語語学研修
(1)NewYork Symphonic Ensemble	佐藤  學
(1)NewYork Symphonic Ensemble — Japan Concert Program 1998—	佐藤 學 (2)教養コース 英語語学研修

(3)英進コース カナダ語学研修 「語学研修 犬ですら英語でしか反応しない」・・82 芳賀 良光	IV 歳時記 「少林寺拳法国際大会 2001」出場実施報告書・・・・88 佐々木英明
(4)韓国研修「韓国の古都慶州を駆けぬける」 第16回コーロン杯高校区間マラソン大会招待参加 記録90	V 英文中文目次・要旨 · · · · · · · · 92
遊佐 隆司	編集後記
(5)外国語コース ヨーロッパ語学研修 「すばらしき体験」	
「What a LOVELY experience ! 」 ーイギリス(チャタム)語学研修を終えてー・・・・97 渡辺有紀子	<b>2003年3月 第18号</b> 巻 頭 言
(6)特別進学コース 英語語学研修 「心豊かな日々」ーイギリス・アップランズ・コミュ ニティ・カレッジ語学研修ー111	「トピック」 「全国制覇」夢達成に胸を張り。・・・・・・・・1 佐藤 達雄
ニティ・カレック語子研修	佐藤 達雄 「~千人の思いよ届け!~バンブーオーケストラ」…3 相良 信恵
IV 英文・中文目次要旨 · · · · · · · · · · · · · · 129	I 平成14年度 研修の記録
編集後記	1 千成14千度 前局の記録 (1)「21世紀の情報教育」一図形と画像処理一 ·····10 小林 祐喜
	(2)仙台育英学園高等学校における公文式英語学習の導
<b>2002年3月 第17号</b> 巻 頭 言 ··································	入について〜 The report on the introduction of Kumon English Method at SENDAI IKUEI GAKUEN HIGH SCHOOL 〜 ・・・・・・・・・26
「トピック」	日野 彰
「キューバ訪問」 訪問の記録 ・・・・・・・・・・・・・・・・1	(3)平成14年度私立学校初任者研修 北海道・東北地区研修会参加報告 ·····32 石山かおり
I 研究報告	
イギリスの教育改革 · · · · · · · · · · · · · · · · · 14 若松 武徳	Ⅱ 研究報告 (1)文章指導についての一考察 - 小論文入門編として- ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
Ⅱ 平成13年度研修の記録 (1)講演	一小冊又八八冊として一 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
こころの担任 ・・・・・・22	Ⅲ 研修報告
仙台市教育長 阿部 芳吉 指導者のあるべき姿勢と今日の日本スポーツ現状	(1)教養コース 中国研修旅行 研修旅行で学んだもの66
·······························32 帖佐 寛章	佐竹 伸彦 (2)英進コース
(2)研修記録	イギリス語学研修 Letters From Cambridge (ケンブリッジからの便り) ・・・・・・・82
「本校における国際交流」 - 平成 13年度第 41 回東北地区私学教育研修会国際 教育部会 - ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	進藤 満
大場  幸	IV 英文目次·要旨
(3)開放講座「生き生き学級」の実践 · · · · · · · · · 63 船島 敏之	編集後記
Ⅲ 研修旅行	
(1)教養コース ニュージーランド研修旅行 「育英学園の教師であればこそ」 · · · · · · · · · 67	<b>2004年3月 第19号</b> 巻 頭 言······加藤 雄彦
佐々木 功 (2)英進コース 英国語学研修 · · · · · · · · · · · · 76	トピック
「貴重な経験」 山川眞理子	クロアチアからの手紙 ・・・・・・・・・・・・・1
l l	ドリカ・グロシニッチ

I 研究報告	Ⅱ 平成16年度 研修旅行報告
(1)通信制課程における教科指導-ビデオを利用した地	(1)教養コース 北海道研修旅行
球環境と生物界の変化について-・・・・・・3	-有意義で事故の無い研修旅行の実践-・・・・・182
金田 敏宏	船島 敏之
(2)投球速度の異なる投手の投動作の比較研究	(2)教養コース 中国研修旅行報告 · · · · · · · · 187
-高校野球選手を対象として-・・・・・・7	瀬戸 信男
佐々木順一朗	(3)秀光中等教育学校 スイスの自然環境保護への取り
平成15年度	組みーユーロスクールを通して感じたこと-・・193
順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究所	小林・祐喜
スポーツ科学領域コーチング科学専門分野修士論文	(4)英進進学コース ニュージーランド留学研修
指導教官 川合 武司 教授	一新たな発見を求めて in New Zealand — ····199
(3)第3期(地日本経済団体連合会	高橋美保
キャリア・アドバイザー養成講座受講報告書37	(5)英進進学コース カナダ語学研修旅行・・・・・・207
佐々木 豊	木村 啓子
	(6)特別進学コース カナダ語学研修
Ⅱ 研修旅行	-自然を愛する国-・・・・・・・212
(1)外国語コース ニュージーランド語学研修旅行	高根  司
ENCOUNTERING A DIFFERENT CULTURE	
「異文化との出会い」 ・・・・・・・・・・・47	編集後記
永井 惇	
(2)英進進学コース ニュージーランド語学研修旅行	2006年3月 第21号
「はじめてのニュージーランド語学研修」 ・・・・・54	巻 頭 言加藤 雄彦
石田昌彦	
	トピック
編集後記	・
	田中裕子
	TTI-1, JII 1
2005年3月 第20号	I 研究報告
巻 頭 言···································	(1)スペイン語の指導法の研究 ・・・・・・・・11
仓 與 音加滕 雄多	コレテス・レオン
トピック	
	(2)憲政初期の選挙運動の一形態 ・・・・・・・・23
ケニアからの留学生 サムエル・ワンジル (Samuel	井上 祥
Kamau Wanjyu)君と書道の出会い一心の修行に一	(3)トリプルA委員会の計画と取り組みについて・・・・31
1	トリプルA委員会委員長 佐々木英明
渡邊 章紀	(4)MBPとKBPの比較
	ー国際収支理論を中心に一 ・・・・・・・・35
I 研究報告	雫石 誠孝
(1)心豊かな生徒の育成をめざして	(5)平成17年度
一合同LHRをとおしてー5	公文英語・英語 I の関連性における考察46
秀光中等教育学校 ホームルーム委員会 代表	高橋 美保
高橋 守雄	(6)部活動指導における一考察
(2)宮城県高等学校商業教育研究会平成16年実務演習	ーサッカー部三年間の歩みー ・・・・・・70
講習会受講報告 · · · · · · · 15	吉井 秀邦
佐々木英明・日野 彰	(7)創作脚本講習テキスト
(3)フォローアップ講座についての考察24	一宮城県高等学校演劇総合研修会一 · · · · · · · 76
小野(仁也・櫻井)順	渡部進
(4)スピン軸は公転軸を目指す51	(8)古代東北における古瓦の研究 ・・・・・・・83
原 憲之介	渡邊泰伸
(5)1年生の試行錯誤 · · · · · · · · · 62	(皮) 发  (皮)   (皮)
(5)1 年生の試1   類談 02 本木 真人	T 亚式17年度 互换步行和生
	Ⅱ 平成17年度 研修旅行報告
(6)宮城県加美郡色麻町 土器坂瓦窯跡の調査	(1)特進コース
ー雷文縁4葉複弁蓮華文軒丸瓦を出土する色麻柵付	アイルランド・オーストラリア語学研修122
属瓦窯跡の調査- ・・・・・・・・・78	日比野曜子
仙台育英学園高等学校考古学研究部 古窯跡研究会	(2)英進コース 北海道研修旅行134
	伊藤 寿展・桜井  順

(3)英進コース イタリア研修旅行 · · · · · · · · · · · 148 池口真利子	(7)通信制課程 異文化体験ハワイ研修・・・・・・156
(4)英進進学コース カナダ語学研修旅行・・・・・159	大竹 聡美
石田 昌彦 (5)外国語コース アイルランド語学研修・・・・・・173	編集後記
岡崎 由起 (6)フレックスコース 北海道研修旅行・・・・・・180 大友 健一	<b>2008年3月 第23号</b> 巻 頭 言···································
編集後記	トピック 「仙台育英中学校創立記念誌」の発見とその内容について 一戦火を超えて残った大正12年2月発行の記念誌―
2007年3月 第22号	- 戦人を超んで残りた人正 12 中 2 月 光 11 の il ふ ii
巻 頭 言······加藤 雄彦	渡邊理律子
トピック 毎日書道宮城県高校生選抜書展団体賞 -第12回展〜第16回展(2002〜2006) 5連覇を叶えた仲間たち-・・・・・・・・・・・・・・・1 渡邊 章紀	I 研究報告 (1)高等学校における日本思想を扱った学習指導について
I 研究報告	世子首に ブバー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
(1)フォローアップ講座についての一考察 ・・・・・・13 加藤 美穂	Ⅱ 平成19年度 研修報告
(2)TOEIC/TOEIC Bridge 教員向けセミナー  「高校における活用事例」 — 2006 — 仙台に参加 して — 34	(1)英進コース 北海道研修旅行報告 · · · · · · · · 44 小野 仁也・及川 尚彰 (2)特進・外国語コース
小野寺朋子・日比野真奈	2007年アイルランド・ドイツ語学研修48
(3)法律学の学問的特殊性	浅利 正雄
ーその概念形成の仕方に注目しつつー ・・・・・・37	(3)フレックスコース 北海道学研修報告 ・・・・・・55
伊藤 剛 (4)特別進学コース プラン 2000 実施報告	大岩 和良 (4)秀光中等教育学校
- 平成16年~18年度の取組について- ·····44	①グリーンスクール研修報告60
倉橋 真司	千葉 広高
	②-1 2007ユーロスクール実施報告(前半)66
Ⅱ 平成18年度 研修報告	千葉 浩
(1)英進進学コース カナダ語学研修61	-2 アイルランド・ダブリン班(後半) 松田 万理
相良信惠	-3 フランス・レンヌ班 · · · · · · 小林 祐喜
(2)英進進学コース 北海道研修報告 ·····69 渡邊 章紀・文屋 祐介	-4 参加生徒レポート (1)初めてのヨーロッパ・・・・・・岩本 怜央
(3)英進進学コース 英進コース研修	(2)私が感じたヨーロッパ・・・・・川岸 瑞歩
-膨大な歴史・文化の都イタリアを訪ねて94	③第4学年自由研究論文 京都実地研修報告 … 103
佐竹 伸彦	芦立 俊雄・他
(4)外国語コース	(5)通信制課程 異文化体験ハワイ研修・・・・・・131
アイルランド・ドイツ 語学研修109	新田 玲子
岡崎 由起	F 14 14 - 7
(5)フレックスコース 北海道学研修 · · · · · · · 117 1 班(男子) · · · · · 富栄 博行	編集後記
2班(女子)島倉 尚子	
(6)秀光中等教育学校	2009年3月 第24号
「2006ユーロスクール」実施報告127 前半船越 總眞	巻 頭 言加藤 雄彦
後半 ダブリン班・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	トピック
レンヌ班・・・・・石田真理子	「グリーンフィールド」・・・・・・・1
エジンバラ班・・・・・・脇 淳	吉井 秀邦

I 研究報告	I 研究報告
(1)平成20年度 第47回東北地区私学教育研修会報告4	(1)伝統芸能の継承に見られる教育のあり方 —ハワイ・フラにおける一考察—・・・・・・・5
石田 昌彦	安住陽子
(2)第47回東北地区私学教育研修会報告 · · · · · · · 7	(2)日中交流の架け橋に… 中国人就学生への取り組み
小林 祐喜	······································
(3)小論文指導の着地点はどこに設定すべきか ・・・・12	岩渕 奈央
三浦 宗隆	(3)理科教育の現状と今後の課題
(4)全国音楽教育研究会高等学校部会全国大会宮城大会	— BU (理科) を通して — ······35
報告19	寒河江華菜
熊原 裕美	(4)ニュース時事能力検定の授業への導入について・・38
(5)国語教育における課題	秋葉寿太郎
ー国語教育研修会に参加してー ・・・・・・22	(5)仙台育英学園陸上競技部(短距離ブロック)の活動
島倉 尚子	報告と今後の展望43
(6)日本史の教材研究の試み	では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、
- 「城下町」の場合を例として- ·····37	(6)アブソープション・アプローチについて47
作問の方を	電石 誠孝
(7)高校生における携帯電話の利用について	(7)書の楽しみ方 ~いろいろな書の在り方の一考察~
ーフレックスコース1年生の調査からー ・・・・・・43	······································
後藤有希	渡邊 章紀
(8)仙台市安養寺下瓦窯跡調査報告	1汉/20 平心
一陸奥国分寺・同尼寺創建期の瓦窯跡ー ・・・・・47	Ⅲ 平成21年度 研修報告
渡邊 泰伸	(1)英進コース 北海道研修旅行報告 ・・・・・・・71
以这家厅	早坂憲人・高根司
Ⅱ 平成20年度 研修報告	(2)外国語コース 韓国ソウル研修報告 ······79
(1)英進コース 北海道研修旅行報告245	青木 康博
(前班)赤間由樹子	(3)特別進学コース・外国語コース
(後班) 秋葉寿太郎	ハワイ語学研修旅行報告 ・・・・・・・・・・84
(2)特進・外国語コース	庄司 昌弘
2008年アイルランド・ドイツ語学研修263	(4)フレックスコース(多賀城校舎)
小岩久美子	韓国ソウル研修旅行報告・・・・・・・・・・95
(3)フレックスコース	阿部 綾子
①北海道学研修報告 · · · · · · · 280	(5)フレックスコース(宮城野校舎)
(男子)高階 公	①北海道学研修旅行報告(女子) · · · · · · · 104
(女子) · · · · · · · · · · · · 高橋 葉子	池口真利子
(4)秀光中等教育学校	②北海道学研修旅行報告(男子) · · · · · · · 110
①グリーンスクール研修報告 · · · · · · · 296	寺澤 信枝
田添万智子	(6)秀光中等教育学校
②ユーロスクール実施報告301	①第3学年ユーロスクール実施報告(前半)・・・・118
前半(スイス・ジュネーブ)・・・・・・庄司 昌弘	倉橋 真司
後半(アイルランド・ダブリン)・・・・木田智恵美	②第3学年ユーロスクール実施報告(後半)・・・・128
前半(イタリア・ローマ)本木 真人	小岩久美子
後半(フランス・レンヌ)牛渡 純	(7)通信制課程 異文化体験ハワイ研修・・・・・・131
(5)通信制課程 異文化体験ハワイ研修333	新田 玲子
新田 玲子	
	編集後記
編集後記	
	2011年3月 第26号
2010年3月 第25号	巻 頭 言加藤 雄彦
巻 頭 言加藤 雄彦	
	トピック
トピック	I-LION HAWAII SCHOOLにおける
2009年「長春第十一高校」姉妹校締結訪問 1	ソーシャルスタディーズがめざすもの‥‥‥‥ 1
赤間由樹子	安住 陽子

I 研究報告	(2)国語教育における文学的文章の読解
(1)西洋倫理思想史におけるプラトニック・ラブ(エロス	— 短歌を題材として —17
論)の系譜 一アンリ・ベルクソンの説を中心に一	鈴木 正明
10	(3)外国語コースにおける外国語指導についての考察
土屋 靖明	20
(2)高校野球の犠牲バントに関する一考察15	小野 真弓
横山将	(4)本校における理科の指導について
(3)育英祭での第2学年演劇上演報告 ・・・・・・22	— Brush Upを通しての一考察 — ·····26
河内 実華	井上 晶子
(4)私の考える理想的な授業	
~Brush Upを通じて感じたこと~ ·····32	Ⅱ 平成23年度 研修報告
髙橋こずえ	(1)英進進学コース
(5)気化熱を利用した燃焼実験と冷却実験36	①第2学年北海道研修旅行報告 ·····29
相原ゆり子	高橋 麻憂
	②2011年度TOEICエッセイコンテスト特別賞受賞
Ⅱ 平成22年度 研修報告	について (報告)39
(1)英進進学コース 第2学年北海道研修旅行報告	鹿野 洋・岩渕 奈央
39	(2)外国語コース ILHA研修に向けての準備と研修報告
山本 尚武	41
(2)外国語コース 2010年度TOEICエッセイコンテス	高橋 美保・安住 陽子
ト3位入賞について ―報告―49	(3)特別進学コース
鹿野 洋・高橋 智子	① PLAN2000 山形疎開学習報告 · · · · · · · · 65
(3)特別進学コース ハワイILHA 語学研修 · · · · · · · 51	高橋真理
石山かおり	②第2学年校外研修旅行報告 · · · · · · · · · · · 73
(4)フレックスコース(多賀城校舎)	鈴木 和弘・伊藤 信男
北海道学研修旅行報告 · · · · · · · · · · 62	山下秀範・小山格
千葉 陽子	(4)Tフレックスコース(多賀城)北海道学研修旅行報告
(5)フレックスコース(宮城野校舎)	······82
①北海道学研修旅行報告96	後藤 有希
千葉絵美子・庄子 由美           ②沖縄学研修旅行報告・・・・・・・・・・・101	(5)Mフレックスコース(宮城野)沖縄学研修旅行報告 89
小石純之介・佐藤 飛鳥 (6)秀光中等教育学校	佐藤 絢(6)秀光中等教育学校 第2学年ILHA研修報告 · · · · 96
第3学年ユーロスクール2010報告	安住 陽子・須江 航・前澤 絵菜
①前半(9月6日~10日) スイス~イギリス・・105	(7)通信制課程 異文化体験ハワイ研修報告・・・・・106
石田真理子	安藤 清一
②後半(9月11日~17日)フランス117	<i>久脉</i> 1日
脇淳	編集後記
(7)通信制課程 異文化体験ハワイ校研修報告・・・・134	
新田 玲子	
/// p== -     -	2013年3月 第28号
編集後記	巻 頭 言······加藤 雄彦
·····	
	トピック
2012年3月 第27号	秀光・特進共同理科実験講座「サイエンス・コ・ラボ」
巻 頭 言加藤 雄彦	1
	千田 芳文
トピック	第1回New York Shukoh Academy(NYSA)実施報告
仙台育英獅子太鼓部 ― ダボス会議に参加して ― ‥1	12
高橋 葉子	小林 祐喜
I 研究報告	I 研究報告
(1)教育リーダーシップ理論における「同僚性」の理論	(1)地理の授業での工夫21
とその実践的意義7	鈴木 和雄
石田真理子	

(2)英進進学コース II 類における高度 IT 教育について 29	(4)Mフレックスコース 沖縄研修旅行報告 ・・・・・・76 佐藤 優人
日野 彰	(5)秀光中等教育学校 ILHA 研修 · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
(3)外国語コースの特色を生かした授業	下浅 雄大
~日本伝統文化の発表活動を通して~ ・・・・・・34	
松田 万里	(6)通信制課程 広域通信制課程沖縄研修報告 ····95 戸崎 亮司
Ⅱ 平成24年度 研修報告	
(1)英進進学コース 第2学年北海道研修旅行報告・・45	編集後記
三浦宏明	
(2)特別進学コース	
① ILHA 研修 · · · · · · · · 58	2015年3月 第30号
河内 実華 ②京都研修旅行 · · · · · · · · · · · · · · 69	巻 頭 言加藤 雄彦
神谷 章嗣・三浦 仁志	トピック
(3)Tフレックスコース (多賀城) 沖縄研修旅行 ····75	- C
伊藤 寛・千葉 陽子	ICL沖縄 與那城慧太
(4)Mフレックスコース (宮城野) 沖縄学研修旅行 · · 80	国際バカロレア・デュアルプログラム(IBDP)導入
安部 恒俊	について・・・・・・7
(5)秀光中等教育学校 第2学年 ILHA研修 ·····94	外国語コース 高橋 郁夫
遠藤 祐太	
(6)日中国交正常化40周年記念事業 仙台育英学園	I 研究報告
高等学校通信制課程 北京研修報告99	(1)イマージョン授業 (国際バカロレア準備)・・・・・10
安藤清一	外国語コース ジェームズ・ドクターマン (2)戦時期における「仙塩地方開発総合計画」(いわゆ
編集後記	る金森構想)の登場と展開・・・・・・・23
	特進コース 雲然 祥子
	(3)河川流域における遺跡動態の研究 ・・・・・・30
2014年3月 第29号	英進コース 佐々木 悟
巻 頭 言加藤 雄彦	
	Ⅱ 平成26年度 研修報告
トピック	(1)特別進学コース
インドネシア研修生の本校での短期研修について・・1	関西校外研修旅行 · · · · · · · · 46
新井 真未 第4学年 NYSA2013実施報告 · · · · · · · · · 12	高橋 真理 (2)情報科学コース
小岩久美子	第1学年 会津研修報告書52
1,41,00	正木 智也
I 研究報告	第2学年 校外研修報告 · · · · · · · · 57
(1)化学部の活動23	千葉 陽子
讃岐果林	(3)外国語コース
(2)情報科学コースに向けての取り組みについて・・・・33	第2学年 ILHA 研修報告 · · · · · · · · 63
島倉 尚子・庄司 邦彰	小野 真弓
遠藤 誠・日野 彰	(4)英進進学コース ILHA 研修報告 · · · · · · · · · · · · · · · · 72
Ⅱ 平成25年度 研修報告	能坂 治平
(1)英進進学コース	(5)秀光中等教育学校
ILHA 研修報告 · · · · · · · 41	秀光16期生 第4学年NYSA2014実施報告 · · · · 84
佐々木真野	石田真理子
第2学年北海道研修旅行報告 · · · · · · · 54	第2学年(18期生)ILHA研修報告 · · · · · · · · 93
及川 まり・本多 華菜	阿部 広大
(2)特別進学コース 関西校外研修報告 ・・・・・・・・66	(6)通信制課程
神谷章嗣	広域通信制課程沖縄研修旅行·····105
(3)Tフレックスコース 沖縄研修旅行報告72 夫関中様子・林田 菜・芙賀 竪ケ	ILC青森 竹ノ子千春
赤間由樹子・林田 茂・芳賀 賢祐	
古田 夕子・二瓶 巧	

Ⅲ その他 (1)日本・キューバ友好 400 周年交流事業 ·····114 外国語コース 岩渕 奈央 Tフレックス 白岩 幸浩 編 集 後 記	(2)生徒指導(私学教育) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
<b>2016年3月 第31号</b>	秀光中等教育学校 小林 祐喜 編 集 後 記
トピック 創立110周年記念講演 国際人育成のための提言〜ILHAの実践を通して ··1 ILHA(校長) アール・大川	2017年3月 第32号         巻 頭 言・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
<ul> <li>I 研究報告         <ul> <li>(1)数学同好会の活動・・・・・・・・・・・9</li></ul></li></ul>	特別進学コース 神谷 章嗣 孔子課堂の可能性・・・・・・・・・・・・・7 外国語コース 鈴木 茂幸 国際バカロレア受講生徒の学術的論文 ・・・・・・13 外国語コース 石田真理子
高橋 郁夫 (3)3DCGゲームソフト作成 · · · · · · · · · · · · 27	(1)文芸部の活動について · · · · · · · · · · · 23 特別進学コース 下田真奈美 (2)英進進学コース英語科研究報告 · · · · · · · · 27 英進進学コース 熊坂 治平 (3)国際バカロレアと日本のカリキュラム: 2つは両立 できるのか · · · · · · · · · 31
(1)特別進学コース関西校外研修旅行 ・・・・・・・32菅野 直幸(2)情報科学コース沖縄研修旅行報告 ・・・・・・・37山田 大	秀光中等教育学校 ケリー・ウィンター 笠原 千尋 (4)IB生物におけるアクティブ・ラーニングの事例研究36
(3)外国語コース ハワイ研修報告 ・・・・・・・・・42 石田真理子 (4)英進進学コース 沖縄研修報告 ・・・・・・・・52	外国語コース ジェームス・ドクターマン 笠原 千尋
北村 悦子 (5)フレックス・技能開発コース サッカー部女子沖縄遠征・交流会 ・・・・・・・・66 林田 茂 (6)秀光中等教育学校	<ul><li>Ⅲ 平成28年度 研修報告</li><li>(1)特別進学コース 関西校外研修旅行 ・・・・・・43 齋藤 美咲</li><li>(2)外国語コース ハワイ研修報告 ・・・・・・・48 赤間 ゆき</li></ul>
NY 研修報告 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	(3)英進進学コース 沖縄研修報告 ・・・・・・・・57 佐々木正人 (4)フレックス・技能開発コース
阿部 広大 (7)広域通信制課程 沖縄研修旅行 · · · · · · · · · · · · 89	沖縄研修旅行 (フレックスコース女子) ・・・・・66 杉田 愛 沖縄研修旅行 (技能開発コース) ・・・・・・71
ILC 青森 加藤 宏明         職場体験実習報告 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	小野 仁也 (5)秀光中等教育学校 NYSA 2016 実施報告 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
Ⅲ 東北地区私学教育研修・ブロック別指導者研修報告 (1)教育課程(私学教育)・・・・・・・・111 秀光中等教育学校 坂内 玲子	伊藤 沙絵         ハワイ研修報告       ************************************

Ⅲ その他 (1)広域通信制課程ILC青森校の状況報告 · · · · · · 104	Ⅲ その他 (1)ILC沖縄校の状況報告・・・・・・・・97 ILC沖縄所長 山内 一秀 (2)演劇部の活動について・・・・・・・・・・111 特別進学コース 赤間 ゆき 編 集 後 記
編集後記	<b>2019年3月 第34号</b> 巻 頭 言······加藤 雄彦
2018年3月 第33号         巻 頭 言・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	トピック 授業改革:協働学習の可能性・・・・・・・・・・1 Transforming the Culture of Teaching and Learning: An emerging collaborative learning community Kerry Winter 仙台育英孔子課堂活動報告・・・・・・・・12
剣道部サイパン遠征・文化交流活動報告・・・・・・5 加藤 裕之 IBにおける教科指導実践について ・・・・・・・12 Enabling and Disabling Factors in Implementing International Baccalaureate Programmes in Japanese Secondary Schools: Curriculum, Pedagogy and Assessment Kerry Winter	孔子課堂長 板垣 徳昭  I 研究報告 (1)デュアルランゲージで行うTOK授業のケーススタディーPCK (授業を想定した教科内容知識)を意識したバイリンガル授業ー・・・・・・23 外国語コース 石田真理子 (2)特進コースの英語4技能向上対策:「オンラインWeblio英会話」を活用したe-learning学習について
I 研究報告 (1) Surface 活用に向けた授業における取組について	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
デュアルランゲージで行う TOK 授業 · · · · · · · · 24 外国語コース 石田真理子 (3)教科 BU 研修会について · · · · · · · · · · · · 27 教科教育センター 板垣 徳昭 II 平成 29 年度 研修報告	<ul><li>Ⅲ 平成30年度 研修報告</li><li>(1)秀光中等教育学校 カナダ研修報告・・・・・・ 65</li><li>笠原 千尋</li><li>(2)特別進学コース 関西校外研修報告・・・・・ 78</li><li>髙橋 真理</li></ul>
<ul><li>(1)秀光中等教育学校 カナダ研修報告 ・・・・・・36 小保内陽大</li><li>(2)情報科学コース 沖縄研修旅行報告 ・・・・・・51 加藤 芳己</li></ul>	佐々木正人 (3)情報科学コース 沖縄研修報告・・・・・・ 84 船越 正志 野坂 有生
(3)フレックス・技能開発コース 沖縄研修報告・・・・56 多賀 努 (4)英進進学コース 沖縄研修報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	(4)フレックス・技能開発コース       沖縄研修報告(男子)・・・・・・・90         西山 大樹       沖縄研修報告(女子)・・・・・・93         石川美紀子
韓国研修報告 ・・・・・・・・・71 狩野 常俊 (5)外国語コース ハワイ研修報告 ・・・・・・・78 岩渕 奈央 丹野まさよ	(5)英進進学コース       沖縄研修報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
(6)職員研修報告 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	(6)外国語コース ハワイ研修報告・・・・・・・113 松崎 希莉

下浅 雄大 (7)仙台育英孔子課堂 第2回北京語学研修報告・・120 平成29年度孔子課堂長 鈴木 茂幸 (8)職員会津研修報告・・・・・・・・・・・・123 フレックスコース 雫石 利光	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・
Ⅲ その他 ILC青森校の状況と社会人養成講座について · · · · 128 ILC青森所長 三笠 勝彦	(「学習障害・発達障害について」) フレックスコース・・・・・・・・126 村岡 信章
編集後記	Ⅲ その他 ILC 青森における本年度の活動状況報告 · · · · 132 ILC 青森教頭 丸山 裕治
2020年3月 第35号	
巻 頭 言加藤 雄彦	編集後記
トピック	
eスポーツ部の設立及びeスポーツ講座と今後の展望	2021年3月 第36号
について・・・・・・・・・・・・・・・・・・1	巻 頭 言加藤 雄彦
情報科学コース 村上 淳	
日野 彰	トピック
	秀光コース 20 期生 TOK 実践報告と振り返り ・・・・ 1
I 研究報告	TOK担当 加藤 隆寛
(1)SDGsを意識した授業づくり · · · · · · 6	「国際バカロレアMYPとDPを活用した中高一貫教育
秀光コース 菊地恵美子	の取組   ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
(2)新学習指導要領に向けた英語 4 技能の指導について	仙台育英学園IBチーフコーディネーター
(2)例于自由等安阪に同りた大品・1X比り由等に フャ C	高橋・郁夫
特別進学コース 新谷 仁	同個 他人
	1 加尔却什
伊藤 需	Ⅰ 研究報告
安部 宏紀	(1)秀光中学校・秀光コース オンライン授業実績報告
(3)英進進学コースにおける英語課外学習 · · · · · 21	
英進進学コース 木村 汐里 (4) アダギオ 中間 22	秀光中学校ICT推進委員 小保内陽大
(4)IB授業実践例 · · · · · · · · · · · 23	(2) 『先輩、教えて下さい!』 ~ ICT活用からOn-Line
外国語コース 小湊 陽	授業へ・・・・・・・・18
(5)「せんだいまなびや」の導入・・・・・・・33	特別進学コース 御代 力夫
技能開発コース 宮浦 靖次	(3)情報科学コース デジタル教科書における取り組み
(6)教科BU研修会について ····· 52	について・・・・・・・・・・25
教科教育センター長 板垣 徳昭	情報科学コース 金福 瞭 加藤 芳己
Ⅱ 令和元年度 研修報告	(4)公私間教員交流研修報告
(1)秀光中等教育学校・秀光コース(高校)	外国語コース 小林 祐喜 28
カナダ研修報告 "Canada Study Abroad Trip"	仙台二華高等学校 上島 佐輔 35
83	(5)ICT推進の取り組みについて ····· 37
Kerry Winter	英進進学コース 五十嵐春祐
京都研修報告・・・・・・・・・・・92	(6)ICT推進の取り組みについて · · · · · 41
加藤 隆寛	フレックス 技能開発コース 山田 大
横山 佳絵	フレックス・技能開発コースにおける広域通信制併
(2)特別進学コース 関西校外研修報告・・・・・・ 97	修の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・43
庵原 直樹	フレックスコース 小原沙希子
(3)情報科学コース 沖縄研修報告・・・・・・・102	学級だよりの有効性~学級だよりを核にした学級
村 貴之	経営の研究~ 50
(4)フレックス・技能開発コース	技能開発コース 舘 和廣
九州研修報告・・・・・・・・・・107	1メ配州尤ューヘ
九州研修報音····································	
TITLE TO MAIN	

Ⅱ 令和2年度 研修報告
(1)英進進学コース
地域探求研修報告 · · · · · 71
尾林さつき
Ⅲ その他
(1)Office365・Zoomオンライン授業研修報告 · · 79
秀光コース 小保内陽大
情報科学コース 日野 彰
(2)数学問題間の類似性認識に関する考察~数学にお
ける問題づくりを通して~ 89
広域通信制課程ILC沖縄 新里 孝雄
スクーリングにおける理科実験の意義一ILC沖縄の
理科実験教室92
広域通信制課程ILC沖縄 渡邉 正俊
編集後記

## 編集後記

コロナ禍での学園生活も3年目を迎えました。今年度も生徒の命を守るために先を見通した加藤雄 彦理事長・校長先生の的確な決断と工夫が、学園内でのクラスター、オーバーシュートの発生を抑え、 学園生徒が安心して通学し学園生活を送ることができました。

一方で先生方の研究においても、各教科によるBrush Up研修会も通常に開催され先生方の研修の機会も通常に戻ってきました。今回の研究紀要では、新学習指導要領に沿った「生きる力」の育成のために知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力のバランスを重視したすばらしい研究報告が各コースから寄稿されました。紀要の紙面を借りて、みなさんに紹介できることを嬉しく思います。

今年度の報告でも、日本で初めて導入する英進進学コースのBTECプログラムのスポーツビジネスの報告を始め、情報科学コースにおけるICT活用の能動的学修、外国語コースの自分たちで体験する松島SDGs探究研修、フレックス・技能開発コースのエナジード活用の「生きる力」(豊かな人生を切り拓く)を育てる学習など多岐にわたっており、高校教育界を先行する研究報告が紹介されています。是非ご覧いただき、ご意見をいただきたいと思います。

今年度も、研究紀要の内容をClassiにアップし本校の研究・研修の内容を多くの方々に知っていただくことで、本校の教育に対するさらなるご理解につなげて行きたいと考えています。

今後も先生方の研究や研修の内容が生徒たちに還元でき、本校生徒の学びがより一層深まっていく ことを祈念いたします。

研究紀要37号編集担当 岡﨑 徹郎

発 行:秀光中学校・仙台育英学園高等学校

所在地:〒983-0045 宮城県仙台市宮城野区宮城野二丁目4-1

電 話:022-256-4141

## 研究紀要37号

巻	頭言	i		•••••					加藤	雄彦
トヒ	<sub>゚゚</sub> ック									
	国内初	JBTE	こセン	ター開	設プログラ	ムを英道	生コースに			
								BTEC センター長	千葉	慎
ī	研究幸	告								
(1)			3 • 4	学期	秀光コース	1学年				
	総合的	りな探	究の間		<b>桟報告</b> 一道					
(0)	Λ T <sub>H</sub> .	. Arriche	H+44+ 1					7376- 71	倉橋	真司
(2)					学習指導要領 もの「評価も			り組み 価システム」作りに	ついて=	=
	· 115	F.L(\)\\	H I IIII					温ッパテム』 トマネージャー		敦
(3)	情報和	半学コ	ースに	こおける	る slack の活	用につい	17			
				<b>,</b>				情報科学コース		
	能動的	的学修	におり	ナる ICT	活用			情報科学コース	佐々オ	たりせ
(4)	外国語	吾コー	スには	さける真	韓国語課外》	舌動報告		・・ 外国語コース	尹	惠靖
					推の取り組			7 TERRIT		724-11
								英進進学コース	五十屆	鼠春祐
(6)	「総合	的な技	発究の		におけるテ				/ <del> -    </del>	/+· <del>+//</del> :
(7)	促健化	k 苔彩.	の組ェ		面についての		レックス 生	技能開発コース	佐藤	佳蓮
	小压户	<b>₽ 日 1 1 1 1 1 1</b>	マン酸化力			············		技能開発コース	地﨑	大知
(8)	数学0	)授業	におり	ける教	オへの取り	狙み・・	・数学検	定講座について		, , , ,
								フレックスコース	雫石	利光
П	令和3	午庄	加炒	<b>大記生</b>						
	ラ州コー	<i>_</i> , , _ ,	1JT113	洋区 口						
/ ! !			松島S	DGs探	究研修報告	,			岩渕	奈央
<b>II</b>	その他	_								
央進	進学: タ数を		ナンノ	z-0-	ブラッシュフ	アップに	ついて			
	口水作	74以月	<b>ニ</b> ノフ	ر رن · 			JV. C	英進進学コース	金澤	瞭
								,		

総目録(第1~36号)

編集後記